

12FG

PCMG3 2048 Resolution / PCM1024 / PPM Selectable

PCM G3
2048 RESOLUTION

WESS



取扱説明書

注意

- 製品をご使用前に必ず本書をお読みください。
- 本書はいつでも活用できるように大切に保管してください。

保証書について

- セットに保証書が付属しています。お買上げ時、保証書に販売店印とお買上げ年月日の記入手続きをお受けください。

1M23N18901

はじめてご使用になる際のご注意

本セットに付属の送信機は、ご購入時、電池のコネクタが接続されておられません。バッテリー・カバーを開いてコネクタを接続してからご使用ください。

模型用

Futaba[®]

Digital Proportional R/C System

このたびは 12FG をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

はじめに

この T12FG 送信機は、飛行機、グライダー、およびヘリコプターの各モデルタイプに対応しています。ご使用の機体に合わせて、モデルタイプを選択し、ウイングタイプ（飛行機／グライダー）またはスワッシュタイプ（ヘリコプター）を選択することにより、専用ミキシングやチャンネル配列が選択したタイプに最適化されます。

新規開発の PCM システム PCM-G3 方式が採用され、これまでにない応答速度と分解能（2048）を実現しています。また、シンセサイザー方式の採用により、ご使用の周波数帯の範囲内でバンド（周波数）変更が可能です。R5114DPS 受信機は独自の WFSS 方式採用により送信機側からバンド変更を行うことができます。

用途、輸出、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、日本国内の電波法で、用途が模型用に限定されております。

2. 輸出する場合のご注意

- イ) 本製品を海外に輸出する場合、輸出する国の電波法で認可されていないと使用することはできません。
- ロ) 模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令で規制される場合があり、輸出許可申請等の法的手続きが必要となります。

3. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品の指定以外の改造、調整、部品交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

保証についてのご注意

本製品の保証につきましては、添付の保証書に記載の保証規定にしたがって保証いたします。なお、本製品以外の機体、エンジン等につきましては保証の対象外となります。

-
- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
 - 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
 - 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
 - お客様が機器を使用した結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承下さい。
 - 本取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

12FG

飛行機用／ヘリ用／グライダー用
PCM-G3 12チャンネル

取扱説明書

安全にお使いいただくために	7
●表示の意味	7
●飛行時の注意	7
●電池および充電器の取り扱い上の注意	8
●SD カード取り扱い上の注意	10
●保管・廃棄時の注意	11
●その他の注意	11
お使いになる前に	12
●12FG の特長	12
●セット内容	13
●送信機 T12FG 各部の名称／取り扱い	14
アンテナの取り扱い	14
モニタ LED の表示	15
スイッチの配置およびタイプ	15
ツマミの操作	16
スライド・レバーの操作	16
デジタル・トリムの操作	16
エディット・キーの操作	17
スティックの各種調整方法	18
SD カード（市販品）の取り扱い	19
コネクタ／ジャックの取り扱い	21
送信機用電池 HT6F1700 の取り扱い	22
高周波モジュール MZ-FM について	23
●受信機 R5114DPS /サーボ 各部の名称	24
●受信機・サーボ搭載時の安全上の注意	25
基本操作	26
●電池の充電方法	26
●送信機電源の ON/OFF 方法	27
●周波数切替方法／ID 設定方法	28
●ユーザ名登録	30
●ホーム画面操作	31
システム・メニュー機能	33
トレーナー	34
画面設定	37
システム・タイマーのリセット	38
ユーザー名	39
H/W 設定	40
インフォメーション	41

モデルの基本設定手順	42
●飛行機／グライダーの基本設定手順	42
●ヘリコプターの基本設定手順	44
●受信機・サーボ接続	48
●モデル・タイプ別サーボ接続	49
飛行機／グライダー	49
ヘリコプター	52
リンケージ・メニュー機能	53
サーボ・モニタ	54
モデル・セレクト	55
モデル・タイプ	57
周波数	61
ファンクション	63
サブ・トリム	65
サーボ・リバース	66
フェール・セーフ	67
エンド・ポイント	68
スロットル・カット	69
アイドル・ダウン	70
スワッシュ・リング (ヘリ専用)	71
スワッシュ設定 (ヘリ専用)	72
タイマー	74
トリム設定	75
データ・リセット	76
コンディション・ホールド (ヘリ専用)	77
モデル・メニュー機能 (共通)	78
(共通機能)	
サーボ・モニタ (リンケージ・メニュー参照)	
コンディション選択	80
AFR 機能	82
デュアル・レート機能	83
プログラム・ミキシング	84
モデル・メニュー機能 (飛行機、グライダー)	86
(飛行機／グライダー用機能)	
エルロン・ディファレンシャル	88
フラップ設定	89
エルロン→キャンバ FLP	90
エルロン→ブレーキ FLP	91
エルロン→ラダー	92
エアブレーキ→ELE	93

ラダー→エルロン	95
キャンバ・ミキシング	96
ELE→キャンバ	98
キャンバ FLP→ELE	99
バタフライ	100
トリム・ミックス 1 / 2	102
エアブレーキ (飛行機専用)	104
ジャイロ	106
Vテール	107
エルベーター	108
ウイングレット	109
モーター	110
ラダー→エレベーター	111
スナップ・ロール (飛行機専用)	112
<hr/>	
モデル・メニュー機能 (ヘリコプター)	114
(ヘリ用機能)	
ピッチ・カーブ	116
スロットル・カーブ	119
アクセラレーション・ミキシング	121
スロットル・ホールド	122
スワッシュ・ミキシング	123
スロットル・ミキシング	124
ピッチ→ニードル・ミキシング	125
ピッチ→ラダー・ミキシング	126
ジャイロ・ミキシング	127
ガバナー・ミキシング	128
<hr/>	
参考	129
●規格	129
●オプション・パーツ	130
●修理を依頼されるときは	131
<hr/>	
資料	132
●機能設定画面でよく使われる操作	132
●カーブ設定操作	134
●スイッチ選択方法	136
●電源 ON 時のワーニング表示 / エラー表示について	138

安全にお使いいただくために

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点にご注意ください。

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要がある内容を示しています。

表示

意味

⚠️ 危険 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。

⚠️ 警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。

⚠️ 注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号：  ; 禁止事項  ; 必ず実行する事項

飛行時の注意

⚠️ 警告

! 飛行前には必ず各舵の動作チェックおよび距離テストを行う。また、トレーナー機能を使用する場合は、先生、生徒側の両方の送信機で動作チェックを行う。

- プロポの設定や機体等のどこかに一つでも異常があれば墜落します。

⊘ フライト中またはエンジン・ランニング中は絶対に電源スイッチを ON/OFF 操作しない。

- 操作できなくなり墜落してしまいます。電源スイッチを一旦 OFF 側に操作すると、送信機内部の処理が終了するまでは電源スイッチを ON 側に操作しても、送信機の電源は立ち上がりません。

⊘ 同じ周波数で同時に飛行させない。

- 電波が混信して墜落します。
- 変調方式 (AM、FM および PCM 方式等)、受信機 ID が違っていても周波数が同じ場合は混信します。

⊘ 雨の日、風の強いときや夜間は絶対に飛行させない。

- 装置内部に水が入り誤動作したり、操縦不能となったり、見失ったりして墜落します。

⊘ フックバンドを首に掛けたままエンジンスタート操作をしない。

- フックバンドが回転するプロペラ、ローター等に吸い込まれると大ケガをします。

⊘ 疲れているとき、病気のとき、酔っぱらっているようなときは飛行させない。

- 集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかして墜落します。
- 飲酒飛行は絶対にしない。

⊘ 次のような場所では飛行させない。

- 他のラジコン飛行場の近く (3km 程度以内)
- 人の近くや上空
- 家屋、学校、病院などの人の集まる場所の近く
- 高圧線、高い建造物または通信施設の近く

- 電波の混信や障害物などにより墜落したり、万一、プロポや機体の故障により墜落した場合、人命を奪ったり、家屋等の損傷をひきおこします。

! 送信機のアンテナは全段伸ばして使用する。

- アンテナを縮めた状態で使用すると、電波の到達距離が短くなり墜落します。

! 送信機のアンテナが確実に固定されていることを確認する。

- 飛行中に外れると送信不能となり墜落します。

! 安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行う。(PCM-G3/PCM1024 の場合)

- 特にスロットルチャンネルについては、通常、飛行機の場合最スロー、ヘリの場合はホバリング位置よりスロー側になるように設定します。混信等で正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。
- バッテリー・フェイル・セーフもセットしておきましょう。

! フライト時は必ず送信機の設定画面をホーム画面に戻す。

- フライト中に誤入力すると大変危険です。

! 飛行前には必ず送受信機のバッテリー残量を確認する。

- 残量が少ないと操縦不能になり墜落します。

⚠注意

❌ 飛行準備中に送信機を地上に置く場合、送信機を立てて置かない。

■送信機が風等で倒れ、スティックが操作状態になり、不意にプロペラ、ローター等が回転するとケガをします。

❌ 使用中、使用直後には、エンジン、モーター、FET アンプ等には触れない。

■高温になっているためヤケドします。

(電源スイッチを入れるとき)

❗ 送信機のスロットルスティックを最スローの状態とした後、

1. 送信機の電源スイッチを入れてから、
2. 受信機側の電源スイッチを入れる。

(電源スイッチを切るとき)

❗ エンジンまたはモーターを停止させた後、

1. 受信機側の電源スイッチを切ってから、
2. 送信機の電源スイッチを切る。

■操作の順番を逆になると、不意にプロペラが回転しケガをします。

※最スロー：エンジンまたはモーターが一番低速回転またはストップとなる方向。

❗ プロポの調整を行うときは、必要な場合を除き、エンジンを停止させて行う。

■不意にプロペラが高回転となった場合ケガをします。

❗ 飛行時はいつも周波数リボンを取り付けて、使用周波数を表示してください。

■周波数を変更したときはリボンも変更してください。

電池および充電器の取り扱い上の注意

⚠危険

❗ 電池は飛行前に必ず充電する。

■飛行中に電池がなくなると墜落します。

❗ ニッケル水素電池 HT6F1700B(7.2V) は付属の専用充電器 HBC-2A(4) で充電する。

■HT6F1700B をその他の充電器で充電したり、また、HBC-2A(4) で HT6F1700B 以外の電池を充電すると、発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。

❗ ニッカド電池 NR4F1500 は付属の専用充電器 HBC-2A(4) または別売りのプロポ用充電器で充電する。

■規定値を越える充電は、発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。急速充電の場合、1C 以上の充電はしないこと。

■車で走行中は充電しないでください。振動等により正常に充電できないことがあります。

❌ 損傷・液漏れ等の異常のある電池や水に濡れている電池を充電しない。

❌ 充電器を直流電源等、充電器以外の用途に使用しない。

❌ 充電器および電池を水・雨水・海水・ペットの尿等でぬらさない。

■ぬれた状態・ぬれた手では使用しないでください。風呂場等の湿気が多い場所では使用しないでください。

❌ 電池の＋端子を金属等でショートさせない。

❌ 電池、充電器にはハンダ付けしたり、修理・変形・改造・分解をしない。

❌ 電池を火中に投下したり、火に近づけたりしないでください。

❌ 直射日光下や車のダッシュボードやストープのそば等高温になる場所や火気の近くで充電・保管をしない。

❌ 布団で覆う等、熱がこもるような状態で充電しない。

❌ 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しない。

■引火による爆発・火災の原因となります。

❗ 電源プラグは確実に根元までコンセントに差し込む。



充電器は必ず指定の電源電圧で使用する。

- 専用充電器 HBC-2A(4) は家庭用コンセント AC100V に接続してご使用ください。



電池の液が目に入った場合は、こすらず、すぐ水道水等のきれいな水で十分に洗い流し、ただちに医師の治療を受ける。

- 失明の原因となります。

警告



充電中の充電器や電池に長時間触れない。

- 低温やけの原因となります。



充電器、電源コード、電池が落下等によって破損している状態では使用しない。



充電器内部が露出したときは露出部に手を触れない。

- 感電・けがの原因となります。



発熱・発煙・異臭・漏液・変色・変形その他の異常を見つけたときは、電池を機器あるいは充電器より取り外し、充電器は電源プラグを抜いて使用しない。

- そのまま使用になりますと、火災・発火・発熱・破裂の原因となります。



電池、充電器は乳幼児の手の届かない場所で使用・保管する。

- 感電・けがの原因になります。



電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたり、傷をつけない。

- 火災・発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。



電池は電子レンジや高压容器に入れない。

- 電池の漏液・発火・発熱・破裂の原因となります。



電池が漏液したり、異臭がするときにはただちに火気より遠ざける。

- 漏液した電解液に引火し、発煙、発火、破裂の原因となります。



電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、ただちに水道水等のきれいな水で洗い流す。

- 医師に相談してください。皮膚傷害をおこす原因になります。



HBC-2A(4) 充電器はオートカットではありません。所定の時間充電したら充電を終了し、コンセントから抜いておく。

- 火災・発火・発熱・破裂の原因となります。



受信機用ニッカド電池は放電が浅い状態で充電を繰り返し行わない。

- 電池のメモリー効果によって、充電を行っても飛行可能時間が極端に減少することがあり、墜落の原因となります。使用時間が短い場合は、使用后、放電器等で放電し、次回使用前に充電するようにしてください。



電池をリサイクルまたは廃棄するときは全ての端子部をセロテープ等で貼り、絶縁処理を行う。

- ショートすると発火・発熱・破裂の原因となります。

注意



HT6F1700B ニッケル水素電池は T12FG 送信機専用です。他の機器に使用しない。

- 電源プラグはほこりを取り除いてからコンセントに差し込んでください。



電池、充電器の上に重いものをのせたりしない。また、テレビの上等の落下しやすい場所に置かない。

- 破損・けがの原因になります。



極端に寒いところや暑いところでの充電はしない。

- 電池性能低下の原因になります。十分に充電するためには、周囲温度が 10℃～30℃が最適です。



電池、充電器はほこり・湿気の多い場所で保管・使用しない。



専用充電器は充電時以外は、電源コンセントから抜いておく。

SDカード（市販品）取り扱い上の注意

*詳しくは、SDカードに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠警告

⊘ SDカードの分解や改造等は絶対に行わない。

■発火のおそれがあります。

⊘ 無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを乗せたりしない。

⊘ 煙が出たり、異臭がする場合は、ただちに送信機の電源を切る。

⊘ SDカードが水・薬品・油等の液体によって濡れた場合は使用しない。

■ショートによる火災や感電の恐れがあります。

⚠注意

⊘ SDカードは電子機器のため、静電気に注意する。

■誤動作や故障の原因となります。

⊘ ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モーターなどノイズを発生する機器の近くでは使用しない。

■誤動作する恐れがあります。

⊘ SDカードを下記のような場所には保管しない。

- ・高温多湿の場所
- ・温度差の激しい場所
- ・チリやほこりの多い場所
- ・振動や衝撃の加わる場所
- ・スピーカ等の磁気を帯びたものの近く

⊘ 送信機のカードスロットに異物等を入れない。

■故障の原因となります。

⊘ データの書き込みもしくは読み込み中に、振動や衝撃を与えたり、カードスロットから取り出さない。

■データが破壊されたり、消失する恐れがあります。

●記録データについて

SDカードに記録されたデータは故障や損害の内容・原因にかかわらず補償できません。弊社ではデータ復旧・回復作業は行っておりません。

保管・廃棄時の注意

⚠警告

❌ プロポ、電池、機体等を幼児の手の届く所に放置しない。

■ 触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。

⚠注意

❌ プロポは次のような場所に保管しない。

- ・ 極端に暑いところ (40℃以上)、寒いところ (-10℃以下)。
- ・ 直射日光があたるところ。
- ・ 湿気の多いところ。
- ・ 振動の多いところ。
- ・ ほこりの多いところ。
- ・ 蒸気や熱があたるところ。

■ 上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。

❗ 長期間使用しない場合、電池を送信機や機体から取り出して、0～30℃の湿気の少ない場所に保管する。

■ そのまま放置すると、電池の劣化、漏液等の原因になります。

その他の注意

⚠注意

❌ 燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。

■ そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。

■ ケースのメッキ部分は腐食するおそれがありますので、常にきれいに掃除しておきましょう。

❗ ラジコン保険に加入する。

■ 万一のため、必ず保険に加入しましょう。

■ ラジコン保険の加入申し込みはラジコン操縦士登録代行店に問い合わせてください。

● 不要になった電池のリサイクルについて



このマークは小型充電式電池の再利用を目的として制定されたリサイクルマークです。充電式電池に用いられる希少な資源を有効に活用するためにリサイクルにご協力ください。

電池は「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」加入の電気店またはスーパー等に設置のリサイクルボックスで回収しています。

詳しくは社団法人電池工業会ホームページ、<http://www.baj.or.jp/recycle/> をご覧ください。

なおご不要の電池は必ず+極と-極をセロテープ等で絶縁してからリサイクル・ボックスに入れてください。

お使いになる前に

12FG の特長

● PCM-G3 (PCM ジェネレーション 3) 方式

R/C システム初の多値変調技術の採用により、応答速度は従来方式 (PCM1024) の 40% アップ、分解能は 2 倍の 2048、および操作チャンネル数 14 (リニア・チャンネル数 12 + スイッチ・チャンネル数 2) を実現しました。

● モデルタイプ選択機能

T12FG 送信機は飛行機、グライダーおよびヘリコプターのモデルタイプに対応しています。飛行機およびグライダーのモデルタイプは各種ウイングタイプを、またヘリコプターのモデルタイプは各種スワッシュタイプを選択することにより、専用ミキシングやチャンネル配列が最適化されます。

● WFSS 方式 (ワイヤレス受信周波数設定方式)

T12FG 送信機および R5114DPS 受信機は周波数シンセサイザー方式を採用し周波数変更時のクリスタル交換が不要。受信周波数は送信機側からワイヤレスで設定されます。

● データ入力

大型グラフィック液晶画面および新方式のエディット・キーにより、セッティング時の操作性を大幅に向上させています。

● ミキシング機能

T12FG 送信機は上位機種 T14MZ および T12Z の機能を踏襲し、豊富なカーブミキシングの採用で、競技会でのシビアなセッティングにも対応します。

● 新型スティック

デュアルボールベアリングおよび新タイプポテンショメータの採用により、より正確な操作が可能となり、信頼性も向上しました。

● ニッケル水素電池 (HT6F1700B)

T12FG 送信機の電源として 7.2V/1,700mAh 大容量ニッケル水素電池を採用。専用充電器 HBC-2A(4) が付属しています。

● 受信機

シンセサイザー 14 チャンネル PCM-G3 デュアルコンバージョン 受信機 R5114DPS が付属します。

● SD カード対応 (市販品を使用)

モデルデータを市販の SD カード (32MB ~ 1GB) に保存できます。また、T12FG 送信機ソフトのアップデート・ファイルが公開された場合に SD カードを使用してソフトのアップデートが可能。

セット内容

箱を開けたら、まず次のものがそろっているかどうかお確かめください。ただし、セットによってサーボ等の内容が異なります。

送信機：

- T12FGA(x1) または T12FGH(x1)

高周波モジュール：

- MZ-FM(x1)
※送信機に取り付けてあります。

受信機：

- R5114DPS(x1)

サーボ：

- S9252(x4) (飛行機用 S9252 サーボ付セットのみ)
- S3151(x4) (飛行機用 S3151 サーボ付セットのみ)
- S9255(x4) (ヘリ用 S9255 サーボ付セットのみ)
- S3151(x4) (ヘリ用 S3151 サーボ付セットのみ)
※取付けパーツ、予備のホーンが付属します。

送信機用バッテリー、受信機用バッテリーおよび充電器：

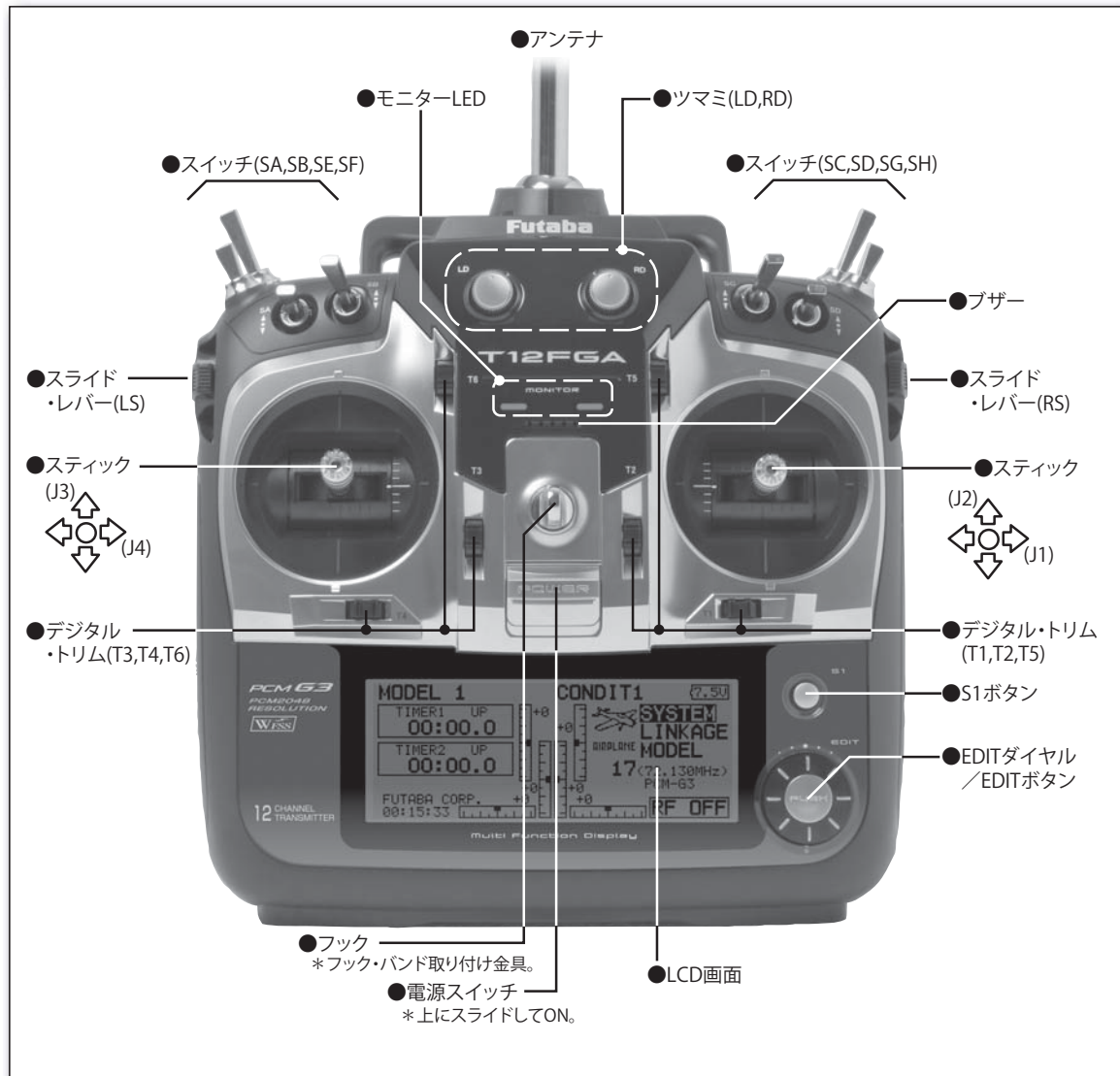
- HT6F1700B ニッケル水素バッテリー (x1)、NR4F1500 ニッカドバッテリー (x1)、HBC-2A(4) 充電器 (x1)

その他：

- 受信機用スイッチ (x1)
※充電口付き
- 延長コード (x2)
- フタマタコード (x1) (飛行機用セットのみ)
- 六角レンチ 1.5mm(x1) / 六角レンチ 2.5mm(x1)
- フックバンド (x1)
- 周波数リボン (x1 式)
- 取扱説明書 (本書) ● 保証書

*セット内容に、不足や不明な点があるときはご購入のお店にお問い合わせください。

送信機 T12FG 各部の名称／取り扱い



アンテナの取り扱い

⚠ 警告



操作前にアンテナを取り付ける。

- アンテナは送信機本体のアンテナ収納部に収められています。



アンテナを持って持ち運ばないでください。

- 本体が脱落して破損します。



操作時はアンテナを全段伸ばして、アンテナが確実に取り付けられていることを確認してから使用してください。

●アンテナの取り出し／収納

アンテナを収納部から取り出す場合、アンテナ先端部を持って引き出します。

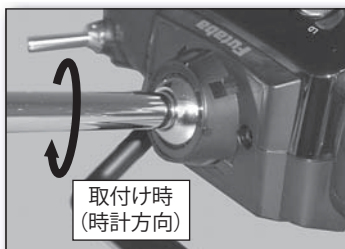
収納する場合はアンテナが確実にロックされるまで押込んでください。

- アンテナが最後まで入っていないと落下する可能性があります。



●アンテナの取付け／取外し

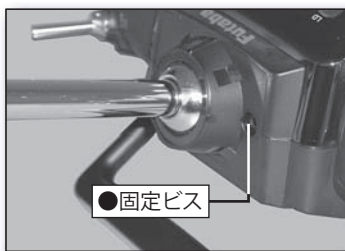
取付け時はアンテナを時計方向に止まるまで回して固定してください。



- アンテナを取り外すときはアンテナを反時計方向に回して取り外してください。

●アンテナ角度の変更

アンテナの角度を変更できます。アンテナ基台部の左横にあるアンテナ固定ビスを付属の2.5mm六角レンチで反時計方向に緩めてから、アンテナをお好みの角度に変更し、再度ビスを締めてください。



モニタ LED の表示

"T12FG" ロゴの下の左右2つのLEDで送信機の状態を表示します。

LED (赤)

RF モジュールの状態を表示します。

■点滅

RF モジュールが接続されていない場合、本体の設定と異なる周波数帯の RF モジュールの場合、または RF モジュールに異常がある場合、LED が点滅します。

■点灯

正しい RF モジュールが接続されている場合、LED が点灯します。

その他、下記の状態でも点滅します。

■点滅

コンディション・スイッチが ON の状態で電源を入れると、ワーニング表示とともに点滅します。

LED (緑)

電波の送信状態を表示します。

■消灯

電波が OFF の状態

■点灯

電波が送信されている状態

その他、下記の状態でも点滅します。

■低速点滅

トレーナー機能が生徒モードに設定されている場合電波は OFF となり、低速点滅します。(先生モードの場合は電波が出力され、点灯します。)

スイッチの配置およびタイプ

トグルスイッチの配置およびタイプは次のとおりです。

[タイプ]

- SA：3 ポジション・オルタネート・ショートレバー
- SB：3 ポジション・オルタネート・ロングレバー
- SC：3 ポジション・オルタネート・ロングレバー
- SD：3 ポジション・オルタネート・ショートレバー
- SE：3 ポジション・オルタネート・ショートレバー
- SF：2 ポジション・オルタネート・ロングレバー
- SG：3 ポジション・オルタネート・ショートレバー
- SH：2 ポジション・モーメンタリー・ロングレバー

※オルタネート・タイプは各ポジションに留まる動作のスイッチ。モーメンタリー・タイプはセルフ・リターン式のスイッチです。

ツマミの操作

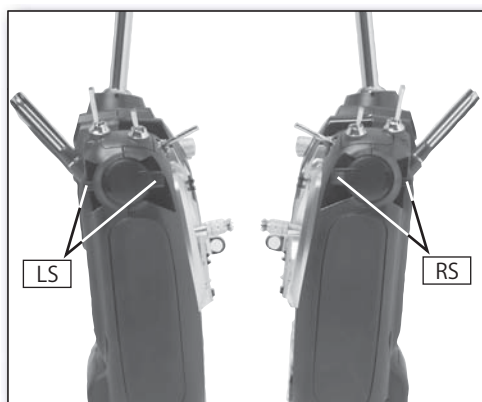


ツマミ LD/RD :

LD と RD ツマミはアナログ式のツマミです。

- ※ツマミ操作時、センター位置で確認音が鳴ります。
- ※各ミキシング機能等の設定画面でツマミの選択および動作方向を設定できます。

スライド・レバーの操作



LS (左側)、RS (右側) :

スライド・レバーはフロント側、リア側の両方から操作が可能です。アナログ式のスライド・レバーです。

- ※レバー操作時、センター位置で確認音が鳴ります。
- ※各ミキシング機能等の設定画面でスライド・レバーの選択および動作方向を設定できます。

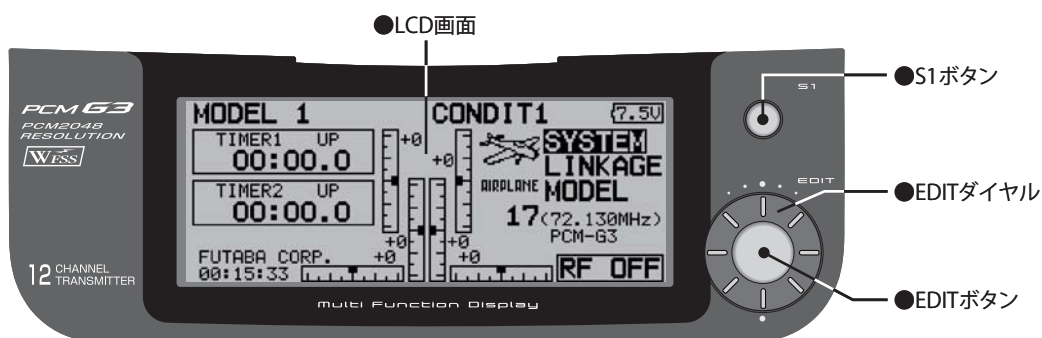
デジタル・トリムの操作

この送信機にはデジタル・トリムが6つ装備されています。

トリムを操作する毎に一定のステップ量で移動します。トリムを押し続けると、途中から動作速度が速くなります。トリムがセンターの位置にくると、動作音に変化して知らせます。トリム位置はホーム画面に常にグラフィック表示されます。

- ※リンケージ・メニューのファンクション画面および T1-T6 設定画面でトリムの各種動作モードを設定することができます。

エディット・キーの操作



EDIT ダイヤル：

メニュー画面や設定画面で項目間のカーソル移動は EDIT ダイヤルを左右に回して行います。次のページがある場合、次のページへも移動できます。

データ入力時、EDIT ダイヤルを左右に回して数値の入力やモードの選択等ができます。(数値、ON、OFF、INH、ACT 等)

EDIT ボタン：

設定画面を開いたり、カーソル移動モード(反転表示) / データ入力モード(四角枠表示)を切替えるときに押します。

また、画面上に確認メッセージが表示されたときの決定ボタンとしても使用します。

S1 ボタン：

メニュー画面や設定画面で、次のページがある場合、S1 ボタンを押してページの移動ができます。この場合、一部機能を除いて、カーソルは画面タイトルの項目に移動します。

設定画面を終了する場合：

設定画面での操作が終了し、メニュー画面へ戻る場合は、画面タイトルの項目にカーソルを移動後、EDIT ボタンを押します。

また、メニュー画面からホーム画面へ戻る場合も、画面タイトルの項目にカーソルを移動後、EDIT ボタンを押します。

直接ホーム画面に戻りたい場合は、S1 ボタンを長押し(1 秒間)します。

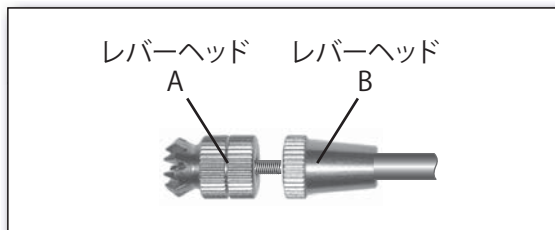
LCD 画面：

LCD 画面の表示の濃さ(コントラスト)はシステム・メニューの画面設定 [DISPLAY] で調整できます。

スティックの各種調整方法

●レバーヘッドの変更および長さ調整

スティックのレバーヘッドの長さが可変できます。



[調整方法]

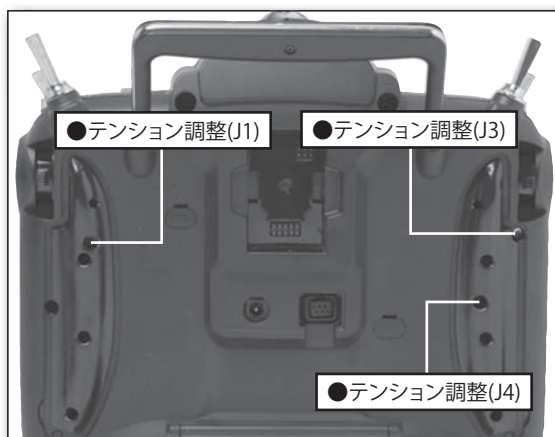
- 1)レバーヘッド B を保持し、レバーヘッド A を反時計方向へ回すとロックがはずれます。
- 2)レバーヘッド B を調整したい方向に移動して保持し、レバーヘッド A を時計方向へロックするまで回します。

●スティックレバーのテンション調整

セルフリターン式のスティックレバーのテンション調整が可能です。

[テンションの調整]

- 1)送信機裏面のゴムグリップを取り外します。



- 2)付属の 1.5mm 六角レンチを使用して、調整したいスティックの調整用ビスをまわして、スプリングの強さを調整します。

※調整用ビスを左に緩めすぎると、スティックが引っかけ操作できなくなります。

■右回しでテンションが強くなります

- 3)調整が終わったら、ゴムグリップを元の位置に取り付けてください。

●ラチェット機構の調整

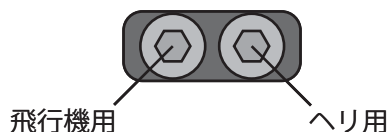
スロットル・スティックの保持力の調整が可能です。

[保持力の調整]



- 1)送信機裏面の保持力調整穴から、付属の 1.5mm 六角レンチを使用して、内部の調整用ビスをまわして、好みの保持力に調整します。時計方向に回すと保持力が強くなります。

調整穴



■飛行機用の調整の場合：左側のビスを調整します。

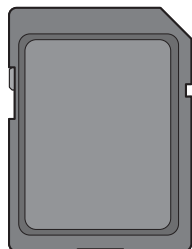
■ヘリ用の調整の場合：右側のビスを調整します。

※この送信機の場合、飛行機用とヘリ用のラチェット板を装備しています。両方のビスを締め込むと、両方の調整が重なり、思い通りの調整ができません。ご注意ください。

※なお、飛行機用の設定からヘリ用の設定に変えたい場合（またはその逆の場合も含めて）、現在設定されている側のビスを、スロットルスティックがフリーに動くようになるまで反時計方向に回します。その後、設定したい側のビスを、時計方向に回して調整します。

SD カード（市販品）の取り扱い

市販のSDカード(32MB～1GB)を使用すると、T12FG送信機のモデルデータを保存できます。また、T12FG送信機ソフトのアップデート・ソフトが公開された場合、SDカードを使用して、ソフトのアップデートを行います。



● SD カード

⚠ 注意

❗ SDカードのセットおよび取り出しは必ず送信機の電源が off の状態で行う。

- SDカードへのアクセス中（読み込みや書き込み）にSDカードを取り出すと、SDカード自体やデータが破壊される恐れがあります。

⊘ SDカードは精密機器のため、無理な力や衝撃を与えない。

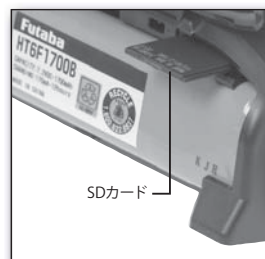
● SD カード使用時の制約事項

SDカードを使用する場合は、以下の制約事項があります。

- SDカードを最初にT12FG専用の形式で初期化する必要があります。購入直後のSDカードは、そのままでは使用できません。
- 初期化を行なうと、初期化前に入っていたデータは全て消去されます。
- T12FGでフォーマットされたSDカードに保存されたモデル・データのファイルは、PCに直接コピーすることができません。弊社ホームページ（www.futaba.co.jp）から専用のコンバート・ソフト（使用方法を含む）をダウンロードして、ファイルを変換する必要があります。ただし、PC上ではモデル・データのファイルには名前が付けられず、番号で区別します。

● SD カードの挿入／取り出し方法

- 1)送信機の電源をOFFにしてから、送信機裏面のバッテリー・カバーを開きます。
- 2)SDカードを挿入する／取り出す。



[カードの挿入]

- SDカードの表面を下側にして、カードスロットに挿入します。
- ロックされるまでカードを押し込みます。

[カードの取り出し]

- SDカードを押し込むとロックが解除され、SDカードが押し出され、取り出すことができます。

- 3)バッテリー・カバーを閉じます。

● SD カードの初期化

SDカードをT12FGで使用できるようにするために、最初にフォーマットを行ないます。一度フォーマットを行なえば、その後はフォーマットする必要はありません。フォーマットはT12FG本体で行ないます。

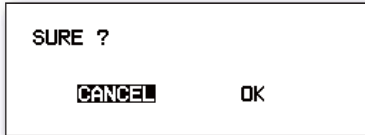
【重要】 SDカードをフォーマットすると、それまでに入っていたデータは全て消去されます。重要なデータが入っている場合は、フォーマットしないようお願いいたします。

[フォーマット手順]

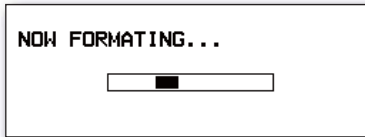
- 1)T12FGのSDカードスロットにSDカードをセットします。
- 2)T12FGの電源をONにします。T12FGでフォーマットされていないSDカードをセットした場合に以下の画面が表示されます。[FORMAT]にカーソル（反転表示）を移動した後、EDITボタンを押します。（中止する場合は[CANCEL]にカーソルを移動し、EDITボタンを押します。）



3)フォーマットしても良ければ、[OK]にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。(中止する場合は [CANCEL] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。)



※フォーマットが開始されます。フォーマット中は画面中央の長方形マークが移動します。



※フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。カードの容量や対応スピードにもよりますが、フォーマット完了まで数十秒～数分かかる可能性があります。



【重要】「FORMAT COMPLETED.」が表示されるまで、電源は切らないで下さい。

1)EDIT ボタンを押して終了。

●SD カード用リーダ・ライターについて

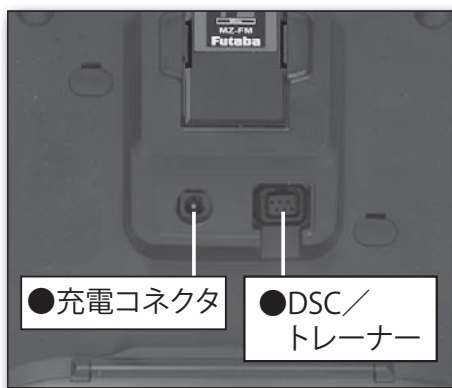
T12FG で作成したモデル・データをパソコンに保存したり、アップデート・ソフト等をパソコンから SD カードにコピーする場合、市販の SD カード用リーダ・ライターが別途必要となります。

●保存データについて

長期間の使用により、データの保存ができなくなった場合は新しい SD カードをお買い求めください。

※メモリーカード内に記憶されたデータは故障や損害の内容・原因にかかわらず補償いたしかねます。SD カード内の大切なデータは必ずバックアップをお取りください。

コネクタ／ジャックの取り扱い



● トレーナー機能コネクタ

トレーナー機能使用時、別売りのトレーナーコードを使用して、先生側、生徒側の送信機を接続します。

※トレーナー機能の設定はシステム・メニューの [TRAINER] 機能画面で行います。

※接続する送信機により対応するトレーナー・コードが異なります。システム・メニューの [TRAINER] 機能の説明を参照してください。

● DSC 機能コネクタ

別売りの DSC コードを使用して、送信機と受信機を接続することにより、電波を出さずに操作ができます。

※接続方法は受信機・サーボ接続の項目を参照してください。

● 充電コネクタ

送信機に搭載されたニッケル水素電池 HT6F1700B の充電コネクタです。

※安全のため、この充電コネクタは従来のニッカド仕様の弊社製送信機の充電コネクタとは形状が異なります。

⚠ 危険

⊘ 充電コネクタには HBC-2A(4) 以外の充電器は接続しないでください。

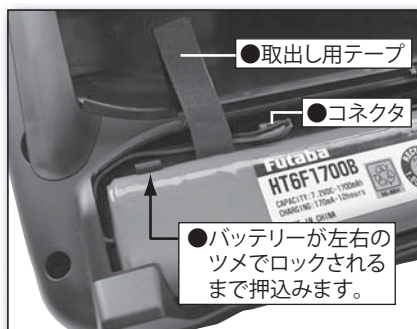
送信機用電池 HT6F1700B の取り扱い

●電池の取り付け

- 1) 送信機裏面のバッテリー・カバーを上側に開きます。



- 2) バッテリーをホルダー部に収め、コネクタを接続します。



※バッテリー取り出し用テープが表に出るように電池を収めます。

- 3) バッテリー・カバーを閉じます。

※バッテリー・コネクタの接続線はホルダー部の隙間に収めてください。バッテリー本体の上にある場合、バッテリー・カバーが閉まりません。

●電池の取り出し

電池を取り外す時は、送信機電源は必ず OFF の状態で取り外してください。電源スイッチが ON のまま電池を取り出すと、設定データが保存されません。

- 1) 送信機裏面のバッテリー・カバーを上側に開きます。
- 2) コネクタを外します。
- 3) バッテリーの取り出し用テープを手前に引いて、バッテリーを引き起こします。

※ツメでしっかりとロックされているので、外すときに少し力が必要です。

- 4) バッテリーを取り出します。
- 5) バッテリー・カバーを閉じます。

⚠注意

- ❌ 電源スイッチを OFF した後、画面表示等が消えるまでは絶対に電池を取り外さない。

■ データが正しく保存できない場合があります。この場合、次回電源 ON 時にバックアップ・エラーが表示され、強制的に設定データが初期状態に戻ります。

■ バックアップ・エラーが発生した場合はそのまま使用せず、送信機を弊社サービスセンター宛確認依頼にお出しく下さい。

- ❗ 電池を取り出すときは、落下させないように注意してください。

[電池の取り扱いについて]

■ お手入れのしかた

汚れは乾いた柔らかい布で拭いてください。ぬれた雑巾等で拭くと故障の原因になります。また、アルコール・シンナー・ベンジン等の溶剤または洗剤等で拭いたりしないでください。

■ 使用温度について

低温になるほど使用時間が短くなります。低温の場所での使用時は充電した予備の電池を準備してください。

■ 持ち運び・保管時の注意

ご使用にならないときは湿気の少ない 15℃～25℃ くらいの涼しい場所で保管してください。

持ち運び・保管の際は＋電極端子がショートしないように、バッグや引き出し等にアクセサリ等金属類と一緒に入れて保管したり持ち運んだりするのはおやめください。発火・発熱・破裂・漏液の原因になり危険です。

■ 充電電池の寿命について

電池は充放電を繰り返すことにより性能が徐々に劣化します。使用時間が著しく短くなったら交換時期です。使用条件にもよりますが、約 300 回の充放電で電池容量が半減します。

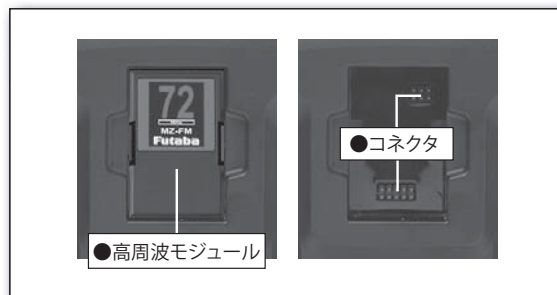
■ 充電電池の自己放電について

ニッケル水素電池やニッカド電池は未使用時も自己放電率が高いため、お買い上げの電池は必ず充電してからご使用ください。また、長時間ご使用にならなかった電池も必ず再充電してからご使用ください。(充電方法は基本操作の「電池の充電方法」の項を参照)

また、送信機電源を入れたときは必ずバッテリー電圧を確認しましょう。

高周波モジュール MZ-FM について

ご購入のセットにより 40MHz または 72MHz 帯のモジュールが搭載されています。周波数帯を変更する場合は別売りのモジュールを使用してください。



⚠ 注意

❗ モジュールを抜き挿しする場合は電源を切った状態で行う。

●高周波モジュールの外し方

- 1) 送信機の電源スイッチを OFF にします。
- 2) モジュールの左右のつめを内側に押しながら真っ直ぐ手前に引き抜く。

※上下2箇所のコネクタがあります。モジュールが傾くと抜けにくくなります。

●高周波モジュールの入れ方

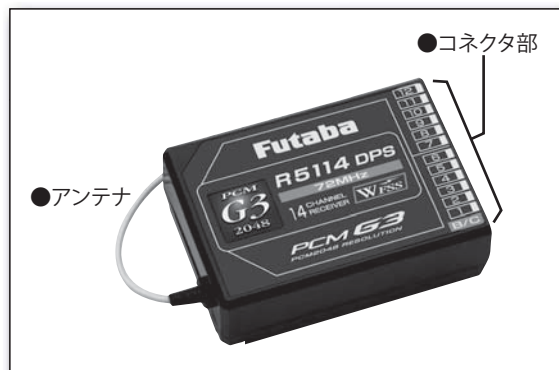
送信機側のコネクタのピンが折り曲がらないように注意しながら、モジュールを挿入する。

※爪が "カチッ" とロックするまで押込む。

受信機 R5114DPS / サーボ 各部の名称

受信機、サーボ搭載時は次ページの安全上の注意点を必ずお読みください。

受信機 R5114DPS



●コネクタ部

- "1 ~ 12" : 1 ~ 12 チャンネル出力
- "DG1"、"DG2" : DG1、DG2 チャンネル出力
- "B/C" : 電源 / DSC コネクタ

●モニター LED

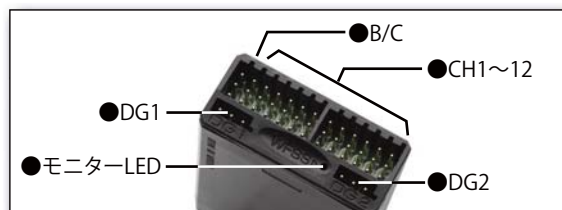
受信機の周波数変更時の確認に使用します。
※赤色に点灯、点滅する。

●受信機 ID ナンバー

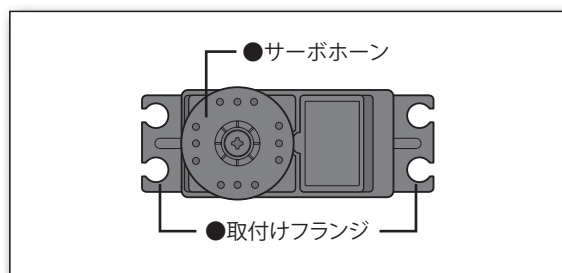
受信機の ID ナンバーはケースに貼り付けてあるシールに印刷されています。

※受信機使用前にリンクージ・メニューの周波数設定画面で受信機 ID ナンバーを入力します。

※シールははがさないでください。



サーボ (*サーボ付きセットの場合にのみ付属します。)



<付属品>

セットには次のものが付属しています。

- ・予備のサーボホーン
- ・サーボ取り付け用部品

※ホーン取付ビスは元々サーボに取り付けてあるビスを必ず使用してください。

受信機・サーボ搭載時の安全上の注意

⚠警告

●コネクタの接続について

❗ コネクタは奥まで確実に挿入する。

- 飛行中に、機体の振動等でコネクタ等が抜けると墜落します。
- 特に、エルロンサーボへの延長コードを主翼につなぐ場合に受信機側が抜けやすい。

●受信機の防振/防水について

❗ 受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策を行う。また、水のかかる恐れのある場合はビニール袋等に入れて、防水対策を行う。

- 強い振動やショックを受けたり、水滴の侵入によって誤動作すると墜落します。

●受信機アンテナについて

⊘ 受信機アンテナは切断したり束ねたりしない。また、サーボのリード線と一緒に束ねない。

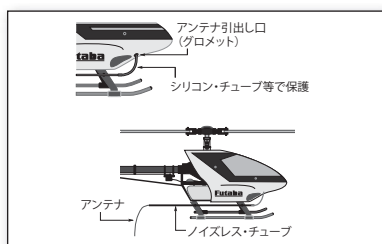
⊘ カーボンの胴体で内装アンテナにすると到達距離が短くなります。

❗ また、フレーム等の金属からはできるだけ離して下さい。

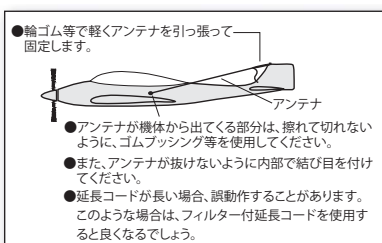
- アンテナの搭載状況によっては、受信感度が下がって飛行範囲が狭くなって墜落します。

❗ 配線がカーボン・フレーム、アルミ・フレーム等で被覆がむけるとショート等により墜落となります。

●アンテナの張り方 (ヘリの場合)



●アンテナの張り方 (飛行機等の場合)



●サーボの動作中について

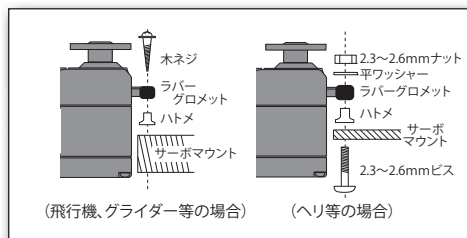
❗ 各舵のサーボを動作中いっぱい動作させてみて、プッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。

- サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって墜落します。

●サーボの取り付けについて

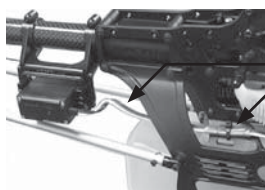
❗ サーボは防振ゴム (ラバーグロメット) を介してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の機体の一部に直接触れないように搭載する。

- サーボケースが直接機体に触れていると、機体の振動が直接サーボに伝わり、その状態が続くとサーボが破損し墜落します。



●サーボリード線の固定

❗ サーボのリード線は飛行 (走行) 中の振動に共振して断線することを防ぐため、突っ張らないよう少し余裕を持たせ、適当な位置で固定してください。また、日頃のメンテナンス時にも定期的に確認してください。



- リード線に余裕を持たせる。
- リード線が暴れないようサーボの出口から5~10cm程度のところを固定する。

●電源スイッチの取り付け

※機体に受信機側電源スイッチを取付ける場合、スイッチのつまみ全ストロークより、多少大き目の長方形の孔を開け、ON / OFF が確実にスムーズに行えるように取付けてください。取り付けビスを変更しなければならないときは、スイッチの配線を押さないようビスの長さを選んでください。ショートすると火災、破損、墜落の原因となります。

※また、エンジンオイル、ほこり等が直接かからない場所に取付けてください。一般的にマフラー排気の反対側の胴体側面に取付けます。

基本操作

電池の充電方法

電池を充電する前に必ず「安全にお使いいただくために」の章の「電池および充電器の取り扱い上の注意」の項目も合わせてご覧ください。

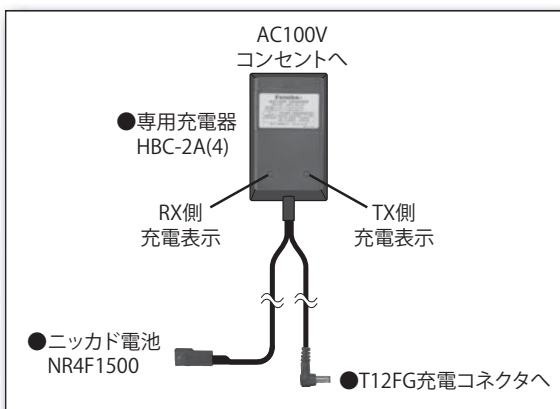
送信機用ニッケル水素電池 HT6F1700B および 受信機用ニッカド電池 NR4F1500 の充電方法

⚠危険

⊘ ニッケル水素電池 HT6F1700B(7.2V) は T12FG 送信機専用です。その他の機器には使用しないでください。

❗ 必ず付属の充電器 HBC-2A(4) を使用して充電してください。

●充電方法



- 1) AC100V のコンセントに充電器を接続する。
- 2) 送信機側コネクタを T12FG 送信機の充電ジャックに接続する。受信機側コネクタを NR4F1500 ニッカド電池に接続する。
※充電表示 LED が点灯していることを確認する。
※送信機は電源スイッチを OFF にしてください。
※充電は個別にまたは同時に充電可能。
- 3) 所定の充電時間（15 時間）充電したら、充電を終了してください。

※付属の充電器 HBC-2A(4) は自動では充電が終了しません。15 時間充電したら、充電器から電池を取り外し、充電器も AC コンセントから抜いてください。

※しばらく使用しなかった場合は、充放電を 2～3 回くりかえして、電池を活性化させてからご使用ください。

※ニッケル水素電池、ニッカド電池の場合、放電が浅い状態で充電を繰り返すと、電池の特性上一時的に放電電圧が低下し、使用時間が短くなる場合があります。このような状態になった場合は放電器等で一旦放電し、再充電してから使用することをおすすめします。

※飛行前には必ずバッテリー電圧のチェックを行ってください。

※ニッケル水素電池やニッカド電池は自己放電率が高いため、未使用時も徐々に放電が進行します。お買い上げの電池や長時間ご使用にならなかった電池は必ず充電してからご使用ください。また、長い期間使用しない場合でも 1 ヶ月に 1 度程度は充電されることをおすすめします。

送信機電源の ON/OFF 方法

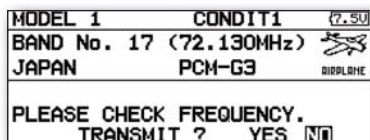
この T12FG 送信機はシンセサイザー方式を採用しています。電源 ON 時は安全のため、周波数を確認後に電波が発射されます。また、電源スイッチ OFF 時は内部処理のため、直ぐには送信機電源は切れません。また、T12FG には 30 分間操作を行わなかった場合に**電波を止めて、アラーム音とともにメッセージを表示する機能**があります。

下記の方法で電源の ON/OFF を行ってください。

電源を入れるとき

- 1) 電源スイッチを ON にします。

※周波数確認画面が表れ、モニタ LED（赤）が点灯します。



- 2) 電波を発射する場合は、画面に表示された周波数を確認し、[YES] を選択し、EDIT ボタンを押します。

※モニタ LED（緑）が点灯し、電波が発射されます。

※[NO] を選択した場合は電波は送信されません。

- 3) その後、ホーム画面が表示されます。

電源を切るとき

- 1) 送信機の電源スイッチを OFF にします。

※電源断の内部処理が開始され、設定データ等の保存が行なわれます。

※一旦電源スイッチを OFF にしたら、電源断処理中に再度電源スイッチを入れても電源は ON になりません。

無操作時のアラームが表示されたとき

※スティック、ツマミ、トグル・スイッチまたはデジタル・トリム (T1～T6) が 30 分間全く操作されなかった場合、強制的に電波は停止され、アラーム音とともに、画面上に "PLEASE TURN OFF POWER SWITCH" が表示されます。(EDIT ダイヤル、EDIT ボタンおよび S1 ボタンは上記操作には含まれません。)

- 1) 上記アラームが表示されたときは、一旦、送信機の電源スイッチを OFF にします。

※再度電源 ON で復帰します。

周波数切替方法／ID 設定方法

この T12FG システムは周波数シンセサイザ方式を採用しています。また、PCMG3 受信機 R5114DPS 側の周波数変更は送信機から無線で設定されます。新規に PCMG3 受信機を使用する場合や周波数を切替える場合は以下の方法で受信機 ID や周波数を設定してください。

注意：ご購入時、受信機 ID の設定は行われていません。ご使用前に必ず下記の受信機 ID の設定を行ってください。

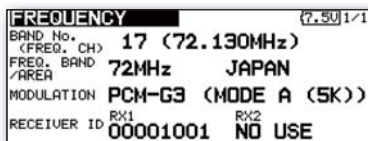
PCM-G3 方式受信機を使用する場合

- ※変調方式が予め "PCM-G3" に設定されている状態で、以下の方法で周波数を切り替えてください。
- ※RF モジュールが装着されていることを確認してください。

<周波数設定画面の呼び出し>

- 1)送信機の電源を ON にします。確認メッセージ ("TRANSMIT ?") が表示されます。ここでは送信しないので [NO] が選択された状態で、EDIT ボタンを押します。
- 2)ホーム画面上の周波数が表示された部分またはリンケージ・メニューの [FREQUENCY] を選択し、EDIT ボタンを押します。

※周波数設定画面が現れます。



<受信機 ID の設定>

- 1)[RECEIVER ID] (RX1) の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。
- 2)受信機ケースに貼り付けられた数字 8 桁の ID コードを入力します。入力完了後、正しければ [ENTER] を選択して、EDIT ボタンを押します。

- ※受信機の ID コードの入力画面が現れます。
- ※1 桁毎にダイヤルで数字を選択し、EDIT ボタンを押します。
- ※入力を間違えたときは [BACK-SPACE] を選択し、EDIT ボタンを押して 1 桁ずつ戻ることができます。ID コードの変更を途中で中止したい場合は、画面タイトルを選択し EDIT ボタンを押して元の画面に戻ります。
- ※受信機 ID コード設定は、1 回設定すれば、受信機を変更しない限り次回からの設定は不要です。
- ※大型機等で受信機を 2 つ使用する場合のみ、それぞれの受信機の ID を入力します。
- ※ID コードが違くと周波数変更できません。

<周波数の変更方法>

- 1)周波数を切り替える場合、[BAND NO.] の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。
- ※画面上に選択できる周波数が現れます。

- 2)使用したい周波数を選択し、EDIT ボタンを押します。

※確認メッセージが現れます。

※周波数帯を変更する場合は、電源を入れる前にモジュールを交換しておきます。

- 3)周波数が正しければ EDIT ボタンを押します。

※周波数データ送信中を示す画面が表示され、ブザー音と共に、受信機へ周波数変更データが一定時間送信されます。([RETRY] を選択し、EDIT ボタンを押して再送信が可能。)

- 4)上記の周波数変更データが出ている間に、受信機の電源を ON してください。

※受信機の周波数設定が完了すると、受信機本体のモニタ LED が 1 回点灯し、1CH 目のサーボがニュートラル位置を基準に 3 回反復動作して知らせます。

※受信機の周波数変更データは、その周波数チャンネルとは異なる微弱電波を使用しています。受信機周波数設定時は送信機と受信機を出来る限り近づけて実行してください。

※周囲条件により、変更データを正しく読み込めない場合は、送信機アンテナは伸ばした状態で、受信機アンテナに近接して 3～4 項からの変更データの送信操作を行ってください。

※その他、DSC コードで送受信機を接続して、3～4 項の手順を実行することでも、周波数の変更が可能です。

※受信機 ID コードが間違っていると、受信機のモニタ LED が点滅表示となります。受信機 ID 設定画面に戻り、受信機 ID を設定し直してください。

- 5)周波数設定が完了したら、カーソルが [END] の位置で、EDIT ボタンを押します。

- 6)確認メッセージ ("TRANSMIT ?") が表示されます。変更した周波数で送信する場合は [YES] を選択して、EDIT ボタンを押します。

※送信しない場合は [NO] が選択された状態で EDIT ボタンを押します。

警告

同じ周波数では同時に飛行させない。



- 電波が混信して墜落します。
- 変調方式 (AM、FM および PCM 方式等)、受信機 ID が違っていても周波数が同じ場合は混信します。

PCM1024,PPM 方式受信機を使用する場合

周波数設定画面で変調方式 (MODULATION) を選択します。

※変調方式が予め "PCM1024" または "PPM" に設定されている状態で、以下の方法で周波数を切り替えてください。

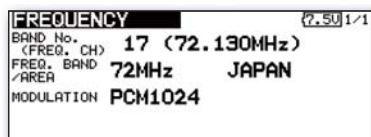
※RF モジュールが装着されていることを確認してください。

<周波数設定画面の呼び出し>

1)送信機の電源を ON します。確認メッセージ ("TRANSMIT ?") が表示されます。ここでは送信しないので [NO] が選択された状態で、EDIT ボタンを押します。

2)ホーム画面上の周波数が表示された部分またはリンケージ・メニューの [FREQUENCY] を選択し、EDIT ボタンを押します。

※周波数設定画面が現れます。



<周波数の変更方法>

1)周波数を切り替える場合、[BAND NO.] の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。

※画面上に選択できる周波数が現れます。

2)使用する受信機に合わせて周波数を選択し、EDIT ボタンを押します。

※確認メッセージが現れます。

※周波数帯を変更する場合は、電源を入れる前にモジュールを交換しておきます。

3)周波数が正しければ EDIT ボタンを押します。

4)確認メッセージ ("TRANSMIT ?") が表示されます。変更した周波数で送信する場合は [YES] を選択して、EDIT ボタンを押します。

※送信しない場合は [NO] が選択された状態で EDIT ボタンを押します。

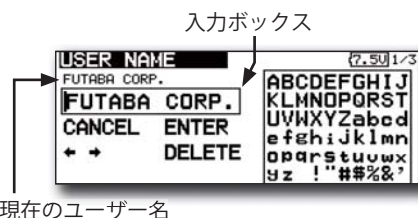
ユーザ名登録

T12FG 送信機のユーザー名を登録することができます。ユーザー名として 12 文字までの名前を付けることができます。(スペースも 1 文字に数える)

<設定画面の呼び出し>

- 1)送信機の電源を ON にします。確認メッセージ ("TRANSMIT ?") が表示されます。ここでは送信しないので [NO] が選択された状態で、EDIT ボタンを押します。
- 2)システム・メニューの [USER NAME] を選択し、EDIT ボタンを押します。

※ユーザー名設定画面が現れます。



<ユーザー名の変更>

- 1)下記の操作方法により、ユーザー名を変更してください。
 - 入力ボックス内のカーソル移動
[←]または[→]を選択し EDIT ボタンを押します。
 - 文字の消去
[DELETE]を選択し EDIT ボタンを押すと、カーソル直後の文字が消去されます。
 - 文字の追加
文字リストから候補文字を選択し EDIT ボタンを押すと、カーソル直後の位置に文字が追加されます。
- 2)入力が完了したら [ENTER] を選択し EDIT ボタンを押します。(入力を途中で止めて元の状態に戻りたい場合は、[CANCEL]を選択し EDIT ボタンを押します。)
- 3)画面上段の [USER NAME] を選択し、EDIT ボタンを押してシステム・メニュー画面に戻ります。

ホーム画面操作

ホーム画面上の表示および操作方法は次のとおりです。

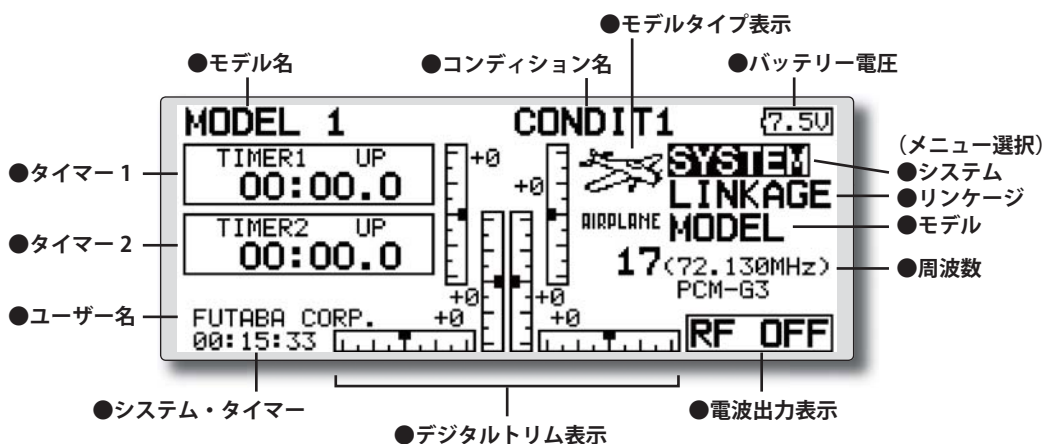
- 画面内の移動は EDIT ダイアルで行います。

警告

！ 飛行する前には必ずモデル名を確認しましょう。

！ いつもバッテリー電圧をチェックし、早めの充電を心がけましょう。また、バッテリー・アラームが表示されたら速やかに着陸させてください。

(飛行機/グライダーのホーム画面)



モデル名

- 現在動作中のモデル名が表示されます。

システム・タイマー

- 前回リセットからの電源 ON の積算時間 (モデル毎) (時間):(分):(秒)

バッテリー電圧表示

- 電圧が 6.8V 以下になるとアラーム音が鳴ります。

タイマー 1, 2

- 設定画面呼び出し

[TIMER1] または [TIMER2] を選択し EDIT ボタンを押すと、各タイマーの設定画面に直接移動できます。

- 設定表示

設定モード (UP/DN) を表示。

- タイマーの表示、スタート/ストップ

表示部を選択して EDIT ボタンを押してスタート/ストップが可能。EDIT ボタンの長押し (1 秒間) でリセットされます。

モデルタイプ表示

- 現在動作中のモデルタイプが表示されます。

システム・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとシステム・メニューに移動できます。

リンケージ・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとリンケージ・メニューに移動できます。

モデル・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとモデル・メニューに移動できます。

コンディション名

- 現在動作中のコンディション名が表示されます。

周波数/モジュレーション・モード

- モジュレーションモード表示 (PCM G3/PCM1024/PPM)

- バンド No. および周波数表示

周波数表示部を選択して EDIT ボタンを押すと周波数設定画面に直接移動することができます。

電波出力表示

- 出力の状態を表示します。

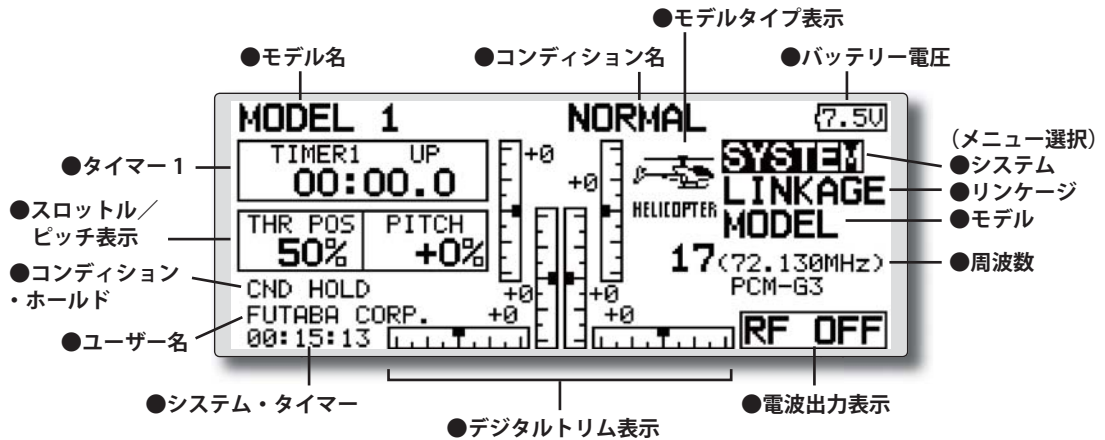
"ON AIR" ▶ 電波が出ている状態

"RF OFF" ▶ 電波を出さない設定の場合

- "RF OFF" 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すと、送信確認画面が表示され、送信が可能となります。

※LCD 画面のコントラスト調整はシステム・メニューの画面設定 (DISPLAY) で調整できます。

(ヘリコプターのホーム画面)



モデル名

- 現在動作中のモデル名が表示されます。

システム・タイマー

- 前回リセットからの電源 ON の積算時間 (モデル毎) (時間):(分):(秒)

バッテリー電圧表示

- 電圧が 6.8V 以下になるとアラーム音が鳴ります。

タイマー 1

- 設定画面呼び出し

[TIMER1] を選択し EDIT ボタンを押すと、タイマー 1 の設定画面に直接移動できます。

- 設定表示

設定モード (UP/DN) を表示。

- タイマーの表示、スタート/ストップ

表示部を選択して EDIT ボタンを押してスタート/ストップが可能。EDIT ボタンの長押し(1 秒間)でリセットされます。

THR スティック位置表示/ピッチ位置表示

- スロットル・スティックおよびピッチの現在位置表示
表示部を選択し EDIT ボタンを押すとスロットル・カーブまたはピッチ・カーブ設定画面に直接移動することができます。

コンディション・ホールド機能の ON/OFF 操作

- ノーマルのコンディション、スロットル・スティックが 1/3 よりスロー側でスロットル・サーボを固定したい位置に操作した状態で、画面左下の [CND HOLD] 表示にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して ON/OFF 操作が可能。

機能動作時、アラーム音とともに [CND HOLD] 表示の横に "IS ON" の文字が現れます。

モデルタイプ表示

- 現在動作中のモデルタイプが表示されます。

システム・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとシステム・メニューに移動できます。

リンケージ・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとリンケージ・メニューに移動できます。

モデル・メニュー

- 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すとモデル・メニューに移動できます。

コンディション名

- 現在動作中のコンディション名が表示されます。

周波数/モジュレーション・モード

- モジュレーションモード表示 (PCM G3/PCM1024/PPM)

- バンド No. および周波数表示

周波数表示部を選択して EDIT ボタンを押すと周波数設定画面に直接移動することができます。

電波出力表示

- 出力の状態を表示します。

"ON AIR" ▶ 電波が出ている状態

"RF OFF" ▶ 電波を出さない設定の場合

- "RF OFF" 表示部分を選択して EDIT ボタンを押すと、送信確認画面が表示され、送信が可能となります。

※LCD 画面のコントラスト調整はシステム・メニューの画面設定 (DISPLAY) で調整できます。

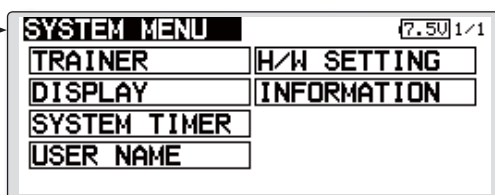
システム・メニュー機能 [SYSTEM]

システム・メニューは、主に送信機のシステムに関する設定を行う機能で構成されています。

なお、モデル・データに関する設定はリンケージ・メニューおよびモデル・メニューの機能で設定します。

- ホーム画面の [SYSTEM] の表示を選択し、EDIT ボタンを押して、下記のシステム・メニューを呼び出します。EDIT ダイアルで設定したい機能を選択し、EDIT ボタンを押して設定画面を呼び出してください。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

システム・メニューの機能一覧

[TRAINER] トレーナー

トレーナーシステムの起動と設定

[DISPLAY] ディスプレイ

画面のコントラスト調整

[SYSTEM TIMER] システム・タイマー

積算タイマーのリセット (モデル毎)

[USER NAME] ユーザー・ネーム

ユーザー名の登録

[H/W SETTING] ハードウェア設定

H/W リバース機能、スティック・モード設定機能

[INFORMATION] インフォメーション

プログラムのバージョン、SD カードの情報、表示言語の切替、およびプロダクト ID の表示

トレーナー [TRAINER]

T12FG のトレーナー・システムは、先生側送信機で指導に使うチャンネルと動作モードを選択できるため、生徒の熟練度に合わせてトレーニングの難易度を設定することができます。

オプションのトレーナーコードで2台の送信機を接続して使用します。先生側 ([TEACH]：ティーチャー) でトレーナー・スイッチを入れると、生徒側 ([STUD]：スチューデント) で操縦が可能となります。(“MIX”モードを設定すると、生徒が操縦している場合でも先生側で補正ができます。) 先生側がスイッチを離すと、先生側の操縦に戻ります。生徒の操縦が危険な状態に陥ったときはすぐに切替えます。

なお、このトレーナー・システムは以下の条件のもとで使用してください。

【注意事項】(重要)

- T12FG 送信機 (T12Z, T14MZ, FX-40 を含む) と従来の送信機ではチャンネルの順序が異なっています。T12FG (T12Z, T14MZ, FX-40 を含む) 以外の送信機と接続する場合は、リンクページ・メニューにある [FUNCTION] 機能でチャンネルの順序を必ず合わせる必要があります。また、受信機のチャンネル順序も変更しなければなりません。
- 先生モードで T12FG を使う場合は、生徒の送信機のモジュレーション・モードを PPM にしてください。生徒モードで使用する場合は、先生の送信機で規定されたモードに T12FG を設定してください。(先生の送信機が T14MZ, FX-40, T12Z, T12FG, T9Z, T9C, T7C の場合は、PPM モードにしてください。)
- 飛行の前に必ず、先生、生徒側とも全てのチャンネルが正常に動作することを確認してください。
- トレーナー・コードのコネクターは必ず奥まで押込み、確実に接続されていることを確認してください。

【対応機種およびトレーナー・コードについて】

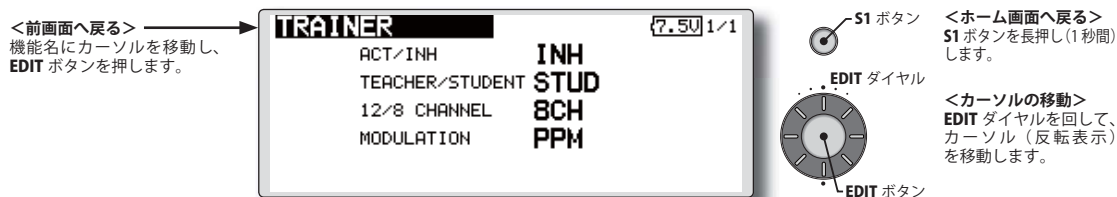
T12FG 送信機をトレーナー機能の先生側で使用する場合、生徒側の機種により使用するトレーナー・コードが異なります。下表をご参照ください。

先生側	生徒側	対応トレーナー・コード
T12FG	T4EX, T6EX, T7C, T9C	T12FG 専用トレーナー・コード
	T12Z, T14MZ, FX-40	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇄ FF9)
	T4V	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇄ DIN)
	T6X, T7U, T8U, T9Z は非対応	
T12FG 以外	T12FG	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇄ FF9) または FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇄ DIN)

* T12FG 専用トレーナー・コードは接続する方向が決まっています。トレーナー・コードに表示の先生側コネクタを先生側となる T12FG に、生徒側コネクタを生徒側となる送信機に接続します。

接続方向が逆の場合、先生側の電源を ON にしても生徒側の電源が ON になりません。また、接続方向が正しい場合でも、先生側の T12FG のトレーナー機能が先生モードで機能が有効になっていない場合も生徒側の電源が ON にはなりません。

- システム・メニューで **[TRAINER]** を選択し、**EDIT** ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



生徒側で使用する場合

1. 各モードの設定

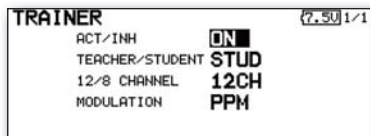
*変更したい項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモードを変更すると点滅表示となり、EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

“TEACHER/STUDENT”：[STUD]（生徒側）を選択

“ACT/INH”：[ON]

“12/8 CHANNEL”：先生が T12FG（T12Z, T14MZ, FX-40 を含む）を使用しているときは [12CH] を選択。その他の送信機の場合は [8CH] を選択。

“MODULATION”：先生側の送信機で規定されたモード（PPM）または [PCM] に設定する。



⚠注意

❗ **生徒モードの場合、電源スイッチは常に OFF にしておきます。**

- 先生側の電源を入れると、生徒側の電源も連動して ON になります。

❗ **トレーナー機能を使用しないときは機能を [INH] に設定してください。**

- 生徒モードに設定された送信機は強制的に電波の出力が停止されます。
- また、ホーム画面上にインジケータ表示されます。（画面右下に “TRAINER STUDENT” を表示）

先生側で使用する場合

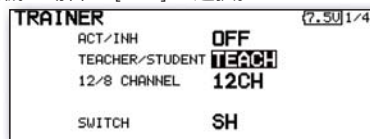
1. 各モードの設定

*変更したい項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモードを変更すると点滅表示となり、EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

“TEACHER/STUDENT”：[TEACH]（先生側）を選択。

“ACT/INH”：[OFF] または [ON] の表示に変更し動作可能な状態にする。

“12/8 CHANNEL”：生徒が T12FG（T12Z, T14MZ, FX-40 を含む）を使用しているときは [12CH] を選択。その他の送信機の場合は [8CH] を選択。



2. トレーナー・スイッチの選択

スイッチを設定もしくは変更する場合、“SWITCH”の項目に移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ選択画面を呼び出し、希望のスイッチと ON/OFF 方向を選択する。

（選択方法の詳細は巻末の「スイッチ選択方法」を参照）

*スイッチ設定画面の ON 位置の設定時、スイッチ・モードも選ぶことができます。[NORMAL] を選ぶと、通常の ON/OFF 動作。[ALTERNATE] を選ぶと、スイッチを入れる度にトレーナー機能が交互に ON/OFF するようになります。これにより、モーメンタリー・スイッチ（SH）を使用している場合でも、交互に ON/OFF が可能となります。

【重要】トレーナー・スイッチを選択しても、先生側と生徒側の送信機をトレーナー・コードで接続していない場合は [ACT/INH] のモード表示は OFF のままです。先生側、生徒側ともに動作状態になったときに ON になります。

3. 各チャンネルの動作モードの選択

TRAINER		7.5U2/4	
CH	FUNCTION	MODE	SU RATE
1	ELEVATOR	OFF	---
2	RUDDER	OFF	---
3	THROTTLE	OFF	---
4	AILERON	OFF	---

* 2/4 ~ 4/4 ページに各チャンネルの設定画面が表示されます。(PCM-G3 モードの場合)

* 動作モードを変更する場合は、変更したいチャンネルの "MODE" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモードを変更すると点滅表示となり、EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

"NORM" (ノーマル・モード) : 生徒の送信機からの信号でコントロールされます。(先生と生徒のデータを同一にする必要があります。)

"MIX" (ミックス・モード) : 先生と生徒の送信機からの信号がミックスされてコントロールされます。(生徒側のデータは初期値に戻し、トレーナー機能を使用してください。)

"FUNC" (ファンクションモード) :

生徒の送信機からの信号が先生の AFR 設定が加味されてコントロールされます。(生徒側のデータは初期値に戻し、トレーナー機能を使用してください。)

"OFF" (オフ) : 先生側のみ動作。

* 上記設定で、[MIX] または [FUNC] モードを選択した場合、生徒側の操作量に対するサーボの動作量を設定することができます。(生徒と先生が同方向に操作したときに、サーボが振り切れるのを防止するために、生徒側のレートを減らします。)

レートを変更する場合は、変更したいチャンネルの "RATE" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルで調整します。

調整範囲 : -100 ~ +100

初期値 : +100

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 調整時、EDIT ボタンを長押し (1 秒間) すると初期値にリセットされます。

4. チャンネル毎のスイッチ設定

* チャンネル毎にスイッチを設定する場合は、変更したいチャンネルの "SW" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ選択画面を呼び出し、変更したいスイッチに移動し EDIT ボタンを押します。

"--" : 常時 ON。

"SA" ~ "SH" : 生徒側の操作を許可するスイッチを選択できます。

画面設定 [DISPLAY]

LCD 画面のコントラストを調整する機能です。

- システム・メニューで **[DISPLAY]** を選択し、**EDIT** ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



LCD コントラストの調整

1. 画面の濃さの調整

"LCD CONTRAST" の項目を選択し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に操作して調整します。

調整範囲：(薄い) 0～30 (濃い)

初期値：15

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 画面表示を見ながら見やすい濃さに調整してください。数値が変化して、現在の設定値を表示します。

* 調整時、EDIT ボタンを長押し (1 秒間) すると初期値にリセットされます。

システム・タイマーのリセット [SYSTEM TIMER]

この T12FG 送信機には送信機の総使用時間をカウントするトータル・タイマー [TOTAL] およびモデル・データ毎の使用時間をカウントするモデル・タイマー [MODEL] の 2 種類のシステム・タイマーが搭載されています。

- ホーム画面に表示されるタイマーを選択可能。
- 各タイマーは前回リセットしたときからの積算時間を表示します。

- システム・メニューで [SYSTEM TIMER] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



ホーム画面表示タイマーの選択

[MODE] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモードを変更すると点滅表示となり、EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

[TOTAL]：トータル・タイマー

[MODEL]：モデル・タイマー

システム・タイマーのリセット

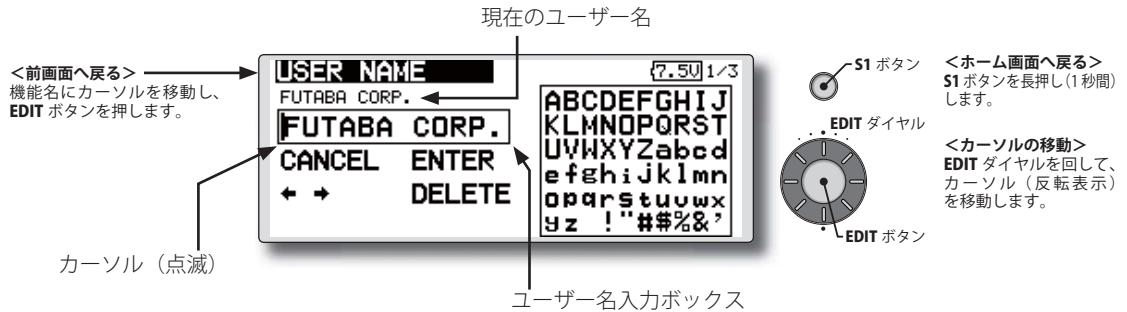
[SYSTEM TIMER] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを長押し (1 秒間) するとリセットされます。

*リセット後タイマーは "00:00:00" から再スタートします。

ユーザー名 [USER NAME]

T12FG のユーザー名を登録する機能です。12 文字までの名前をつけることができます。(スペースも一文字として数える)

- システム・メニューで [USER NAME] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

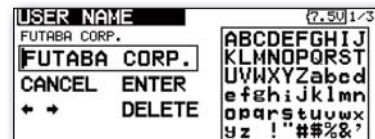


ユーザー名の登録方法

- 下記の操作方法により、ユーザー名を変更してください。
 - 入力ボックス内のカーソル移動：
[←] または [→] を選択し EDIT ボタンを押します。
 - 文字の消去：
[DELETE] を選択し EDIT ボタンを押すと、カーソル直後の文字が消去されます。
 - 文字の追加：
文字リストから候補文字を選択し EDIT ボタンを押すと、カーソル直後の位置に文字が追加されます。
- 入力完了したら [ENTER] を選択し EDIT ボタンを押します。(入力を途中で止めて元の状態に戻りたい場合は、[CANCEL] を選択し EDIT ボタンを押します。)

- * 下記の文字リストの文字が使用可能です。
- 文字リストのページ切替：
S1 ボタンを押してページを切替えます。

(文字リスト 1/3)



(文字リスト 2/3)



(文字リスト 3/3)



H/W 設定 [H/W SETTING]

この H/W 設定には H/W リバース機能およびスティック・モード設定機能が含まれます。

H/W リバースは、スティック、スイッチ、トリム・レバー、ノブなどの操作信号を反転する機能です。

注意：ただし、この設定で実際の操作信号は反転されますが、ディスプレイ上のインジケータ類の表示は変更されません。特別な理由が無い限り通常モードでお使いください。

●操作方向が逆の場合に有効です。

使用例：エレベータを引いてダウン、押してアップ操作する場合

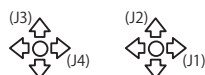
使用例：スロットル（ピッチ）を引いてハイ（+ピッチ）、押してスロー（-ピッチ）操作する場合

スティック・モード設定により、モード1～4のスティック・モードに変更が可能です。

注意：設定されたモードは、次回の新規モデル設定から有効となります。使用中のモデルや既に設定されているモデルは変更されません。

注意：ただし、この変更はソフト的なスティック配置の変更です。スロットルのラチェット機構の変更が必要な場合は、弊社ラジコン・サービスセンターへご依頼ください。

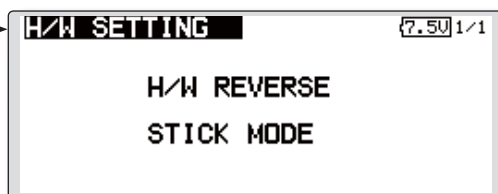
(スティック・モード)



モード	J1	J2	J3	J4
1	エルロン	スロットル	エレベーター	ラダー
2	エルロン	エレベーター	スロットル	ラダー
3	ラダー	スロットル	エレベーター	エルロン
4	ラダー	エレベーター	スロットル	エルロン

●システム・メニューで [H/W SETTING] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>

S1 ボタンを押して、
ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、
カーソル（反転表示）
を移動します。

H/W リバースの設定

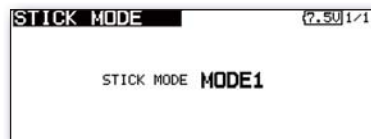
1.[H/W REVERSE] の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。

H/W REVERSE						(7.5U) 1/2
H/W	MODE	H/W	MODE	H/W	MODE	
J1	NORM	SA	NORM	SE	NORM	
J2	NORM	SB	NORM	SF	NORM	
J3	NORM	SC	NORM	SG	NORM	
J4	NORM	SD	NORM	SH	NORM	

2. 反転したい H/W（ハードウェア）に対応する "MODE" の項目にカーソルを移動する。
3. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
4. ダイヤルを回して方向を切替えます。点滅状態となります。
"NORM"：通常の動作方向
"REV"：動作方向が反転
5. EDIT ボタンを押して反転します。（中止する場合はダイヤルを回すか S1 ボタンを押します。）

スティック・モードの変更

1.[STICK MODE] の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。



- 2."STICK MODE" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
 4. ダイヤルを回してモードを選択します。点滅状態となります。
設定範囲：モード1～4
初期設定：モード1
 5. EDIT ボタンを押してモードを変更します。（中止する場合はダイヤルを回すか S1 ボタンを押します。）
- *実際のモード変更は、次回の新規モデル設定またはデータ・リセット後から有効となります。既に設定済みのモデルのモードは変更されません。

インフォメーション [INFORMATION]

このインフォメーション画面では、T12FG システム・プログラムのバージョン情報、SD カード（モデル数の容量、空き容量）の情報、表示言語の選択（英語／日本語（*かたか*））およびプロダクト ID が表示されます。

* SD カードが挿入されていない場合は、SD カードの情報は表示されません。

* SD カードは付属していません。

- システム・メニューで **[INFORMATION]** を選択し、**EDIT** ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

● "PRODUCT ID" (プロダクト ID)
送信機のプロダクト ID No. が表示されます。

● "LANGUAGE" (ランゲージ) 画面表示の言語が表示されます。

● "MEMORY CARD SIZE" (メモリー・カード・サイズ)
SD カードのモデル数の容量を表示 (SD カードが挿入されている場合)

● "VERSION" (バージョン)
システム・プログラムのバージョンを表示。

● "CARD FREE SIZE" (カード・フリー・サイズ)
SD カードの空き容量 (モデル数) (SD カードが挿入されている場合)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

S1 ボタン

EDIT ダイアル

EDIT ボタン

INFORMATION 7.50 1/1

PRODUCT ID : 00300001

LANGUAGE : ENGLISH

VERSION : 1.0

MEMORY CARD SIZE: NO MEMORY CARD

CARD FREE SIZE : NO MEMORY CARD

画面表示言語の変更方法

1. "LANGUAGE" の項目にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して言語を選択し、**EDIT** ボタンを押します。

* 表示言語が切り替わります。

"ENGLISH" : 英語

"JAPANESE" : 日本語 (*かたか*)

日本語選択時の表示例 (ホーム画面)

MODEL 1 CONDIT1 7.40

タイマー 1 UP +0

00:00.0

タイマー 2 UP +0

00:00.0

FUTABA CORP. +0

00:34:20

システム
ランゲージ
モデル

AIRPLANE 17 (72.130MHz)
PCM-G3

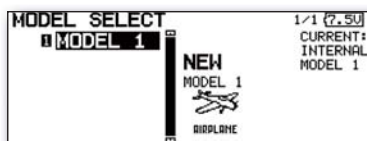
ON AIR

モデルの基本設定手順

飛行機／グライダーの基本設定手順

1. モデルの追加・呼び出し

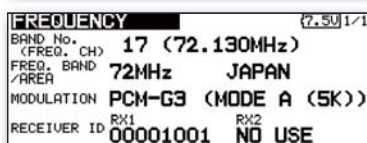
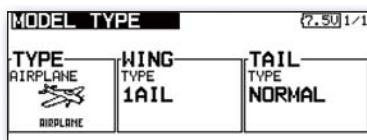
この T12FG 送信機には初期設定で 1 つのモデルが割り付けてあります。新規にモデルを追加する場合や、すでに設定されているモデルを呼び出す場合は、リンケージ・メニューのモデル・セレクト機能 [MODEL SELECT] で行います。



なお、モデルの名前を登録しておくことで後で呼び出す時に便利です。(送信機本体には 30 機分迄のデータを保存できます。市販の SD カードへも保存可能。)

現在呼び出されているモデル名が画面上部に表示されます。飛行する前や設定を変更する前には必ずモデル名・周波数を確認してください。

新規にモデルを追加した場合、モデル・タイプを選択画面 [MODEL TYPE] および周波数／モジュレーション・モード／受信機 ID の設定画面 [FREQUENCY] が自動的に現れます。使用するモデル・受信機に合わせて変更または確認してください。

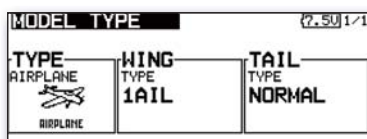


2. モデル・タイプを選択

リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択 [MODEL TYPE] で、機体に合ったモデル・タイプを選択します。

モデル・タイプを変更すると主翼タイプの選択画面が表示され、主翼タイプを選択すると尾翼タイプの選択画面が表示されますので、それぞれ機体に合ったタイプを選択します。

モデル・タイプが飛行機、グライダーの場合、1 3 種類の主翼タイプと 3 種類の尾翼タイプがあります。



3. 機体側のリンケージ

エルロン、エレベーター、スロットル、ラダー、等の各舵を模型の取扱説明書に従ってリンケージします。接続方法については受信機・サーボ接続をご覧ください。(49、50、51 ページ)

注意：この T12FG と、従来の当社システムではチャンネル配列が異なります。またモデル・タイプが同じ“飛行機モデル”でも、ウイング・タイプ、尾翼タイプが違っていると、チャンネル配列が異なることがありますので十分注意してください。(リンケージ・メニューのファンクション機能 [FUNCTION] で各ファンクションの割り当てチャンネルを確認することができます。)

FUNCTION		CONDIT1 (7.50) 1/5	
CH FUNCTION	CONTROL	---	TRIM ---
1 ELEVATOR	J3	T3	COMB.
2 RUDDER	J4	T4	COMB.
3 THROTTLE	J2	T2	COMB.
4 AILERON	J1	T1	COMB.

●リンケージの動作方向が逆の場合は、リンケージ・メニューのサーボ・リバース機能 [SERVO-REVERSE] で方向を合わせます。

SERVO REVERSE (7.50) 1/2			
CH FUNCTION	MODE	CH FUNCTION	MODE
1 ELEVATOR	NORM	5 GEAR	NORM
2 RUDDER	NORM	6 AIR BRAKE	NORM
3 THROTTLE	NORM	7 AUXILIARY6	NORM
4 AILERON	NORM	8 AUXILIARY5	NORM

●スロットルに関してはトリム全開でキャブレター全開となり、エンジン・カットできるようにリンケージして下さい。モーター・コントロール・アンプについては、使用するアンプにより動作方向を設定してください。

●ニュートラルおよび舵角は基本的にリンケージ側で調整し、サブトリム機能 [SUB-TRIM]、エンド・ポイント機能 (舵角調整) [END POINT] で微調整します。リンケージ保護のため、エンド・ポイント機能でリミット位置も設定できます。エンド・ポイント機能は、チャンネル毎の上下、左右の動作量、リミット、サーボ・スピードが調整出来ます。

SUB-TRIM (7.50) 1/2			
CH FUNCTION		CH FUNCTION	
1 ELEVATOR	+0	5 GEAR	+0
2 RUDDER	+0	6 AIR BRAKE	+0
3 THROTTLE	+0	7 AUXILIARY6	+0
4 AILERON	+0	8 AUXILIARY5	+0

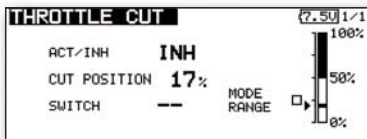
END POINT (7.50) 1/3			
CH FUNCTION	LIMIT TRAV.	TRAV. LIMIT	SPEED
1 ELEVATOR	135% 100%	100% 135%	0
2 RUDDER	135% 100%	100% 135%	0
3 THROTTLE	135% 100%	100% 135%	0
4 AILERON	135% 100%	100% 135%	0

4. スロットル・カットの設定

エンジン・カットをスロットル・トリムのトリム位置を変えずに専用スイッチにてワンタッチで行えます。(アイドル調整後)

*このスロットル・カット機能作動時は、エンジン・カット位置に固定されます。オフセット動作でエンジン・カットしたい場合は、次のアイドル・ダウン機能を使用してください。

リンケージ・メニューのスロットル・カット [THROTTLE CUT] で設定します。機能を動作状態にし、スイッチを選択してから、カット・ポジションをキャブレターが全閉になるように調整します。安全のため、スロットル・スティックが約 1/3 以下 (スロー側) のときのみ、機能が働きます。



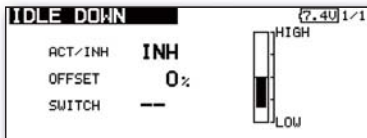
5. アイドル・ダウンの設定

*スロットルカット機能が動作状態の場合はアイドル・ダウン機能は動作しません。

スロットル・トリムのトリム位置を変えずに専用スイッチにてワンタッチでアイドル回転数を下げることが出来ます。

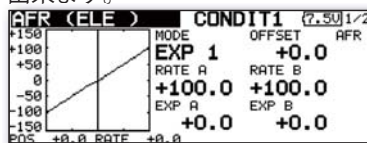
リンケージ・メニューのアイドル・ダウン [IDLE DOWN] で設定します。機能を動作状態にし、スイッチを選択してから、アイドル・ダウン回転数を調整します。

ただし、安全のため、スロットル・スティックが約 1/3 以下 (スロー側) のときのみ、機能が働きます。



6. AFR、デュアル・レートの設定

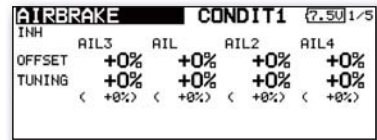
AFR 機能は操縦感覚に合わせて、舵の利きを調整する機能です。基本的な舵の動作幅をリンケージ・メニューのエンド・ポイント機能 [END POINT] で設定後、操縦感覚に合わせて、モデル・メニューの AFR 機能 [AFR] で舵角を調整します。また、デュアル・レート機能 [D/R] を設定すると、スイッチを切り替えることで演技に合わせた舵角設定を呼び出す事が出来ます。



DUAL RATE		CONDIT1 (7.50) 1/2	
D/R NAME	STATUS	FUNCTION	SWITCH
1 D/R 1	INH	AILERON	--
2 D/R 2	INH	AILERON	--
3 D/R 3	INH	AILERON	--
4 D/R 4	INH	AILERON	--

7. エアブレイキ

エアブレイキ機能は、着陸時など、降下角を大きくとってもスピードを上げたくない場合などに使用します。この機能はリンケージ・メニューのモデル・タイプ [MODEL TYPE] で主翼に "2 AILERON" 以上を使用している場合のみに機能します。通常は左右両エルロン共に上方へ動作するように設定し、動作させた時の機首の上下をエレベーターにより補正するミキシングも完備されています。



8. フライト・コンディションの追加

初期設定ではモデル毎にフライト・コンディションが 1 つだけ割り付けてあります。コンディションが 1 つでも基本飛行を行うのに支障はありませんが、競技会出場などで、より細かい設定が必要な場合は、モデル・メニューのコンディション・セレクト機能 [COND. SELECT] で必要数のコンディションを追加します。コンディション切り替えスイッチ、コンディションの優先順位、コンディションの名前等も同時に設定します。



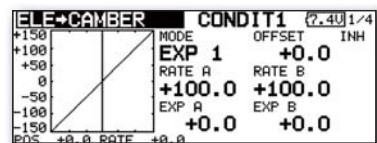
コンディションを設定し終わったらスイッチを操作し、画面上に表示されるコンディション名で動作を確認してください。

*新しいコンディションを追加すると自動的に "CONDIT1" のデータがコピーされます。

*コンディションのスイッチを選択し、ON の状態で新しいコンディションのデータを設定してください。ただし、グループ・モード ("GROUP") を選択しておく、すべてのコンディションに同じデータが入力されます。変化させたいコンディションはシングル・モード ("SINGLE") に設定して調整してください。

9. 無尾翼機のモデルを選択した場合

無尾翼機のエレベーター操作はエレベーター→キャンバー・ミキシング [ELE→CAMBER] を使用します。初期設定のままでは操作できません。

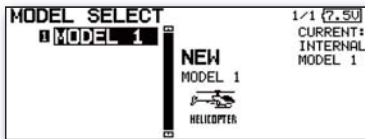


ヘリコプターの基本設定手順

ここでは、T12FGのヘリコプター機能の使用例について概略を説明してあります。実際の数値等はご使用機体に合わせて調整してください。

1. モデルの追加・呼び出し

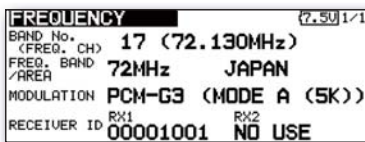
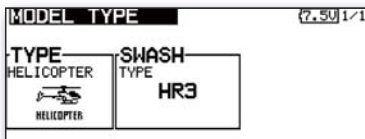
このT12FG送信機には初期設定で1つのモデルが割り付けてあります。新規にモデルを追加する場合やすでに設定されているモデルを呼び出す場合はリンケージ・メニューのモデル・セレクト機能 [MODEL SELECT] で追加または呼び出しを行います。



なお、モデルの名前を登録しておくことで後で呼び出す時に便利です。(送信機本体には30機分迄のデータを保存できます。市販のSDカードへも保存可能。)

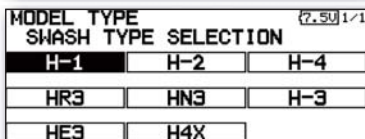
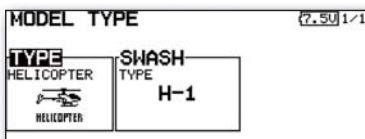
現在呼び出されているモデル名が画面上部に表示されます。飛行する前や設定を変更する前には必ずモデル名を確認してください。

新規にモデルを追加した場合、モデル・タイプを選択画面 [MODEL TYPE] および周波数/モジュレーション・モード/受信機IDの設定画面 [FREQUENCY] が自動的に現れます。使用するモデルのタイプ、周波数、受信機のタイプに合わせて変更または確認してください。



2. モデル・タイプ、スワッシュ・タイプの選択

別のモデル・タイプがすでに選択されている場合は、リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能 [MODEL TYPE] で、ヘリを選択した後、機体に合ったスワッシュ・タイプを選択します。

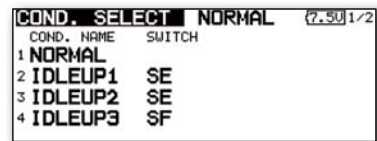


3. フライト・コンディションの追加

初期設定ではノーマルのコンディションを含めて、5つのコンディションが設定されています。

- ・ノーマル
- ・アイドルアップ1
- ・アイドルアップ2
- ・アイドルアップ3
- ・ホールド

(初期設定のコンディションを含めて、1モデルあたり8コンディション迄追加が可能)



コンディション切り替えスイッチ、コンディションの優先順位、コンディションの名前等を設定してください。コンディションを設定し終わったらスイッチを操作してみて、画面上に表示されるコンディション名で確認してください。

(一般的なフライト・コンディションの設定例)

- ノーマル：スイッチ OFF の時動作)
エンジン始動からホバリング演技に使用します。
- アイドル・アップ1：(SW-Eの真ん中で動作)
540° ストール・ターン、ループ、ローリング・ストール・ターンの演技等に使用します。
- アイドル・アップ2：(SW-Eの手前側で動作)
ロールの演技に使用します。
- スロットル・ホールド：(SW-Gの手前側で動作)
オート・ローテーションに使用します。

優先順位はスロットル・ホールド/アイドル・アップ2/アイドル・アップ1/ノーマルとし、スロットル・ホールドが最優先とします。

その他必要によりコンディションを追加してください。

4. 機体側のリンケージ

スロットル、ラダー、エルロン、エレベーター、ピッチ等の各舵をキットの取扱説明書に従ってリンケージします。接続方法については受信機・サーボ接続をご覧ください。(48、52ページ)

*このT12FGと従来のシステムとではチャンネル配列が異なります。(リンケージ・メニューのファンクション機能 [FUNCTION] で各ファンクションの割り当てチャンネルを確認することができます。)

FUNCTION		NORMAL	(7.50)1/5
CH FUNCTION	CONTROL	---	TRIM---
1 THROTTLE	J2	T2	SEPAR
2 RUDDER	J4	T4	SEPAR
3 GYRO	---	---	---
4 AILERON	J1	T1	SEPAR

- リンケージの動作方向が逆の場合は、リンケージ・メニューのサーボ・リバース機能 [SERVO-REVERSE] および H-1 モード以外の場合はスワッシュ AFR 機能 [SWASH] も使用して方向を合わせます。

SERVO REVERSE		(7.50)1/2
CH FUNCTION	MODE	CH FUNCTION MODE
1 THROTTLE	NORM	5 ELEVATOR NORM
2 RUDDER	NORM	6 PITCH NORM
3 GYRO	NORM	7 GOVERNOR NORM
4 AILERON	NORM	8 GOVERNOR2 NORM

SWASH		(7.50)1/3
NEUTRAL POINT	100%	SWASH AFR
POINT 50%		AILERON +50%
HIGH PITCH		ELEVATOR +50%
LOW PITCH	0%	PITCH +50%

- ジャイロの動作方向を合わせます。(ジャイロ側の機能)
- スロットルに関してはトリム全閉でキャブレター全閉となり、エンジン・カットできるようにリンケージして下さい。
- ニュートラルおよび舵角は基本的にはリンケージ側で調整し、サブトリム機能 [SUB-TRIM]、エンド・ポイント機能 (舵角調整) [END POINT] で微調整します。また、リンケージ保護のため、エンド・ポイント機能でリミット位置も設定できます。

SUB-TRIM		(7.50)1/2
CH FUNCTION		CH FUNCTION
1 THROTTLE	+0	5 ELEVATOR +0
2 RUDDER	+0	6 PITCH +0
3 GYRO	+0	7 GOVERNOR +0
4 AILERON	+0	8 GOVERNOR2 +0

END POINT		(7.50)1/3	
CH FUNCTION	LIMIT TRAV.	TRAV.	LIMIT SPEED
1 THROTTLE	135%	100%	100% 135% 0
2 RUDDER	135%	100%	100% 135% 0
3 GYRO	135%	100%	100% 135% 0
4 AILERON	135%	100%	100% 135% 0

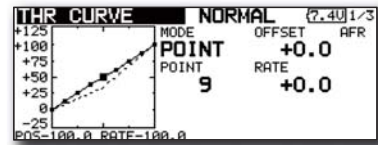
- スワッシュ・プレートの補正 (H-1 モード以外)
スワッシュ AFR 機能 [SWASH] の補正ミキシングでスワッシュ・プレートの動作を補正できます。ピッチ、エルロン、エレベーター操作に対してスワッシュ・プレートが正常な方向からずれて動作する場合に使用します。
また、ピッチのスロー側、ハイ側のリンケージ補正が可能。ピッチ操作に対してスワッシュ・プレートが水平な状態で上下するように調整します。

SWASH		(7.50)2/3
MIXING RATE		
MIXING	+++	MIXING +++
PIT→AIL	100% 100%	AIL→PIT 100% 100%
PIT→ELE	100% 100%	ELE→AIL 50% 50%
		ELE→PIT 50% 50%

SWASH		(8.80)3/3
LINKAGE COMPENSATION		
FUNCTION	DIR.	LOW PITCH
AILERON	+	0% 0%
ELEVATOR	+	0% 0%
SPEED COMPENSATION 0		

5. スロットル・カーブ、ピッチ・カーブの設定

モデル・メニューからスロットル・カーブ [THR CURVE] またはピッチ・カーブ [PIT CURVE] を呼び出し、各コンディション毎のカーブを設定します。



(17 ポイントカーブについて)

カーブ設定は最大 17 ポイントで設定可能ですが、設定ポイントを減らして調整することもできます。機体側のある場合や簡単にカーブを設定するときに応用できます。

* カーブ選択時の初期値は 9 ポイント設定です。

注意：設定モードがグループ・モード ("GROUP") になっている場合、追加されたすべてのコンディションに同じ内容が設定されます。コンディション毎に設定したい場合は、シングル・モード ("SINGLE") に切り替えてから設定してください。

<設定例>

各コンディションのスロットル・カーブの呼び出しはコンディション切り替えスイッチで行います。

スロットル・カーブの設定例を下記に示します。

- スロットル・カーブ (ノーマル)
ホバリング (スティック 50% 位置) を基準にホバリング時のレスポンス、回転数を見ながら、各ポイントで調整します。ピッチとの兼ね合いもあるので合わせて考えてください。
- スロットル・カーブ (アイドル・アップ 1)
この設定はスロットル・スティックをスロー側にしても回転を維持する設定となります。
- スロットル・カーブ (アイドル・アップ 2)
スロットル・スティックをスロー側にしてピッチをぬいた時でも、回転が維持できるアイドル・アップ量となります。
- ホールド・コンディション時の設定について
注意：ホールド・コンディションではカーブ自体は使用しませんが、スロットル・カーブのアイドル・ポイントはスロットル・ホールド機能のアイドル・ポイントの基準となります。スティック最スロー位置 (0%) のレートが 0% (初期設定) になっていることを確認してください。

ピッチ・カーブの設定例を下記に示します。

各コンディションのピッチ・カーブ呼び出しは、コンディション切り替えスイッチで行います。

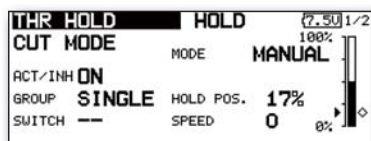
- ピッチ・カーブ (ノーマル)
ホバリング時のピッチを約 +5 ~ 6° にします。
ホバリングではスティック位置が 50% のポイントを基準にピッチを設定します。
* ホバリング時の安定は、スロットル・カーブとの兼

ね合いがあります。ホバリング・スロットル機能、ホバリング・ピッチ機能を合わせて使うと調整が楽になります。

- ピッチ・カーブ (アイドル・アップ1)
アイドル・アップ1のピッチ・カーブは、上空飛行に合わせたカーブを作ります。
目安として -7° ~ $+9^{\circ}$ 程に設定します。
- ピッチ・カーブ (アイドル・アップ2)
ハイ側ピッチの設定はアイドル・アップ1より少し減らし、 $+8^{\circ}$ 程が目安です。
- ピッチ・カーブ (ホールド)
オート・ローテーションの場合はハイ/ロー側とも最大ピッチを使用します。
[ピッチ角度の設定例]
スロットル・ホールド： -7° ~ $+12^{\circ}$

6. スロットル・ホールドの設定

モデル・メニューからスロットル・ホールドを呼び出し、コンディション切り替えスイッチでスロットル・ホールドのコンディションに切り替えます。



注意：この機能は他のコンディションでは使用しないため、設定モードをシングル・モードに切り替えてから設定してください。

- 機能を動作できる状態にする
スロットル・ホールド機能にはカット用の設定および練習用としてアイドル位置に固定する機能をスイッチで切り替えることができます。いずれかもしくは両方の機能を動作できる状態とします。
- ホールドポジションの設定
スロットル・ホールド時のサーボ動作位置を設定します。(エンジン・カットおよびアイドル位置)
- その他の設定
動作をスティック操作に連動させたい場合はオート・モードを設定できます。
サーボ動作スピードを調整したい場合は [SPEED] で調整してください。

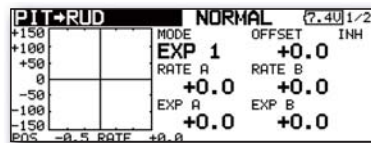
7. ピッチ→ラダー・ミキシングの設定

メインローターの反動トルクを抑えるミキシングで、各コンディション毎にカーブで設定できます。ただし、下記のような高性能ジャイロを使用する場合はこのピッチ→ラダー・ミキシングは使用しないでください。

注意：GY611、GY601、GY502、GY401等の高性能ジャイロを使用する場合はこのピッチ→ラダー・ミキシングは使用する必要がありません。反動トルクの補正はジャイロ側で補正されます。特にジャイロがAVCSモードで動作しているときは、ミキシングされた信号により、ニュートラルず

れの症状となりジャイロが正常に動作できなくなります。

モデル・メニューからピッチ→ラダー・ミキシング [PIT → RUD] を呼び出し、各コンディション毎のカーブを設定します。(初期設定では機能は "INH" の状態です。使用する場合は "ON" の状態にしてください。)



(17ポイントカーブについて)

カーブ設定は最大17ポイントで設定可能ですが、下記の設定例の場合は [EXP1] のカーブタイプを使用して簡単にカーブを調整できます。

注意：設定モードがグループ・モード [GROUP] の場合、追加されたすべてのコンディションに同じ内容が設定されます。コンディションに設定したい場合は、シングル・モード [SINGLE] に切り替えてから設定してください。

<設定例>

各コンディションのミキシング・カーブの呼び出しはコンディション切り替えスイッチで行います。

カーブの設定例を下記に示します。

- ピッチ→ラダー・ミキシング・カーブ (ノーマル)
ホバリング系に使用し、離着陸、一定スピードの垂直上昇に合わせて設定します。
*このカーブの場合、カーブタイプを初期設定の [EXP1] (EXP レートは 0%) を使用し、左右のレートを調整します。
- ピッチ→ラダー・ミキシング・カーブ (アイドル・アップ1)
540° ストール・ターン、ループ、ローリング・ストール・ターンに使用し、風に正対した状態で直進するように合わせます。
*このカーブの場合、カーブタイプを [EXP1] (EXP レートは 0%) オフセット [OFFSET] を使用し、カーブ全体を下げるすることができます。
- ピッチ→ラダー・ミキシング・カーブ (ホールド)
直線オート・ローテーションで、直進するように設定します。テール・ローターのピッチ角は 0° 近くにります。
*このカーブの場合、カーブタイプを [EXP1] (EXP レートは 0%) を使用し、オフセット [OFFSET] を使用し、カーブ全体を下げるすることができます。
- その他の設定
ピッチ操作時のミキシングの立ち上がり特性を調整できます。(アクセレーション機能)

8. エルロン、エレベーター、およびピッチ操作時のクセ取り

モデル・メニューのスイッチ・ミキシング [SWASH MIX] で、エルロン、エレベーター、ピッチの各操作に独立してミキシング・カーブで調整が可能です。

SWASH MIX	ACT	SWITCH	TRIM	GROUP
MIXING				
AIL→ELE	INH	--	OFF	SINGLE
ELE→AIL	INH	--	OFF	SINGLE
PIT→AIL	INH	--		SINGLE
PIT→ELE	INH	--		SINGLE

9. エルロンおよびエレベーター操作時のエンジンの沈み込み、ピルエット時のトルクの補正

モデル・メニューのスロットル・ミキシング [THROTTLE MIX] で、エルロンまたはエレベーター操作時のスイッチ・プレート動作によって生じるエンジンの沈み込みを補正することができます。また、ピルエットを行ったときの右回転、左回転のトルクのかかり方を補正できます。

THROTTLE MIX	ACT	SWITCH	MODE	GROUP
MIXING				
AIL→THR	INH	--	CTRM	SINGLE
ELE→THR	INH	--	CTRM	SINGLE
RUD→THR	INH	--	CTRM	SINGLE

10. ジャイロの感度およびモード切り替え

ジャイロ感度およびモード切り替えは、モデル・メニューのジャイロ専用ミキシング [GYRO] で、コンディション毎に設定可能。

GYRO	RATE	IS ON	MODE	RATE
	123		NORMAL	
ACT/INH	ON		AVCS	50% (< +50%)
TYPE	GY		FINE TUNING	
SWITCH	--		CONTROL	--
GROUP	SNGL		RATE	+0% (< +8%)

- AVCS システムのジャイロを使用する場合、コンディション呼出スイッチとは別のスイッチを一旦設定し、ニュートラルを記憶させる初期設定を終了させてから、コンディション・スイッチに割り当てます。
- ノーマル・コンディション (ホバリング)：ジャイロ感度大
- アイドル・アップ1 / アイドル・アップ2 / スロットル・ホールド：ジャイロ感度小
- 但し、オート・ローテーション時にテール駆動されているヘリの場合は、ジャイロ感度大で効果がある場合もあります。

11. スロットル・カットの設定

フライト終了時のエンジン・カットをスロットル・トリムのトリム位置を変えずに専用スイッチにてワンタッチで行なえます。

リンケージ・メニューのスロットル・カット [THROTTLE CUT] で設定します。機能を動作状態にし、スイッチを選択してから、スロットル・カットのポジションをキャブレターがアイドル位置から全開になるように調整します。

THROTTLE CUT	MODE RANGE
ACT/INH	INH
CUT POSITION	17%
SWITCH	--

ただし、安全のため、スロットル・スティックがスロー側 25% より下側のときにのみ、エンジン・カット機能が働きます。

12. その他の専用ミキシング

● ピッチ→ニードル・ミキシング [PIT → NEEDLE]

飛行中のニードル・コントロールが可能な構造のエンジンの場合 (混合気調整) に使用する専用ミキシングで、ニードル・カーブが設定できます。また、スロットル・スティックの加速/減速操作時のニードル・サーボの立ち上がり特性を調整が可能です。(アクセレーション機能)

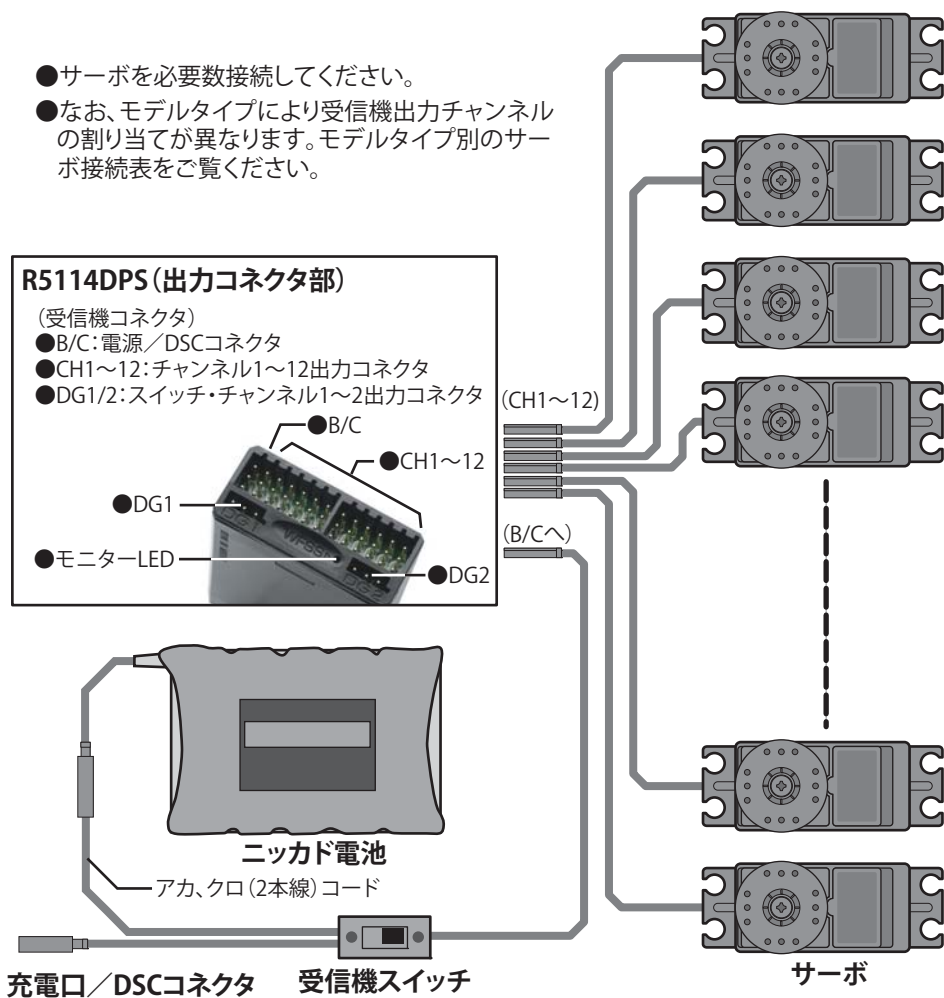
● ガバナー・ミキシング [GOVERNOR]

GV-1 (ガバナー) を使用している場合のガバナー専用ミキシングです。コンディション毎に最大3つのレート (回転数) を切り替えることができます。

受信機・サーボ接続

受信機、サーボは下記の接続図にしたがって接続してください。また、「お使いになる前に」の「受信機・サーボ搭載時の安全上の注意」(25 ページ)を必ずお読みください。機体に組み込むときは、キットの取扱説明書等に合わせて、必要な箇所を接続してください。

受信機・サーボ接続図



- モデルタイプ別のサーボ接続表は次のページ以降にあります。使用する機体に合わせてサーボ接続を行ってください。

モデル・タイプ別サーボ接続

このT12FG送信機の場合、リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能で選択したタイプに応じて、各ファンクションが最適な組み合わせにチャンネル割り当てされます。各モデルタイプ別のチャンネル割り当て（初期設定）は以下のとおりです。ご使用のタイプに合わせて、受信機、サーボを接続してください。

*なお、リンケージ・メニューのファンクション機能の画面で設定されているチャンネルを確認できます。また、チャンネルの割り当てを変更することも可能です。詳しくは、ファンクション機能の説明をお読みください。

飛行機／グライダー

●テール・タイプがノーマルとVテール機の場合

[PCM-G3 モード 初期設定 CH]

受信機 CH	1 エルロン		2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP		2 エルロン +4FLAP		4 エルロン +2FLAP		4 エルロン +4FLAP	
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー
1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター
2	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
3	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
5	引込み脚	AUX7	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2
6	エアブレーキ	エアブレーキ	引込み脚	AUX7	フラップ	フラップ	引込み脚	AUX5	引込み脚	AUX3	引込み脚	AUX3	引込み脚	AUX1
7	AUX6	AUX6	AUX6	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ	エルロン3	エルロン3	エルロン3	エルロン3
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2	エルロン4	エルロン4	エルロン4	エルロン4
9	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	フラップ3	フラップ3	フラップ1	フラップ1	フラップ1	フラップ1
10	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	フラップ4	フラップ4	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2
11	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	フラップ3	フラップ3
12	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	フラップ4	フラップ4
VC1	AUX1	AUX1	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

* VC1～4は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1、DG2 はスイッチ・チャンネルです。それぞれ、スイッチ SD（初期設定）、スイッチ SA（初期設定）で操作します。

[PCM-1024/PPM モード 初期設定 CH]

受信機 CH	1 エルロン		2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP		2 エルロン +4FLAP		4 エルロン +2FLAP	
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー
1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	/	エルロン	/	エルロン
2	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	/	エルロン2	/	エルロン2
3	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	/	フラップ	/	エルロン3
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	/	フラップ2	/	エルロン4
5	引込み脚	AUX7	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	/	フラップ3	/	フラップ
6	エアブレーキ	エアブレーキ	引込み脚	AUX7	フラップ	フラップ	引込み脚	AUX5	/	フラップ4	/	フラップ2
7	AUX6	AUX6	AUX6	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	/	ラダー	/	ラダー
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	フラップ2	フラップ2	/	エレベーター	/	エレベーター
VC1	AUX1	AUX1	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	/	キャンパー	/	キャンパー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	/	バタフライ	/	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	/	AUX1	/	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	/	AUX1	/	AUX1

* VC1～4は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1（CH9）はスイッチ・チャンネルです。スイッチ SD で操作します。

●エルベーター機の場合

[PCM-G3 モード 初期設定 CH]

受信機 CH	1 エルロン		2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP		2 エルロン +4FLAP		4 エルロン +2FLAP		4 エルロン +4FLAP	
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー
1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター
2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2
3	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
5	スロットル	モーター	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2
6	エアブレーキ	エアブレーキ	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター
7	引込み脚	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ	エルロン3	エルロン3	エルロン3	エルロン3
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	引込み脚	AUX5	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2	エルロン4	エルロン4	エルロン4	エルロン4
9	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	引込み脚	AUX4	フラップ3	フラップ3	フラップ1	フラップ1	フラップ1	フラップ1
10	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	フラップ4	フラップ4	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2
11	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	引込み脚	AUX2	引込み脚	AUX2	フラップ3	フラップ3
12	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	フラップ4	フラップ4
VC1	AUX1	AUX1	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

* VC1～4 は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1、DG2 はスイッチ・チャンネルです。それぞれ、スイッチ SD (初期設定)、スイッチ SA (初期設定) で操作します。

[PCM-1024/PPM モード 初期設定 CH]

受信機 CH	1 エルロン		2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP	
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー
1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター
2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2	エレベーター2
3	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
5	スロットル	モーター	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2
6	エアブレーキ	エアブレーキ	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター
7	引込み脚	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	引込み脚	AUX5	フラップ2	フラップ2
VC1	AUX1	AUX1	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー	キャンパー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ	AUX1	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

* VC1～4 は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1 (CH9) はスイッチ・チャンネルです。スイッチ SD (初期設定) で操作します。

●無尾翼機の場合

[PCM-G3 モード 初期設定 CH]

受信機 CH	2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP		2 エルロン +4FLAP		4 エルロン +2FLAP		4 エルロン +4FLAP	
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー
1	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
3	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
5	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2
6	引込み脚	AUX7	フラップ	フラップ	引込み脚	AUX5	引込み脚	AUX3	引込み脚	AUX3	引込み脚	AUX1
7	AUX6	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ	エルロン3	エルロン3	エルロン3	エルロン3
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2	エルロン4	エルロン4	エルロン4	エルロン4
9	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	AUX4	フラップ3	フラップ3	フラップ1	フラップ1	フラップ1	フラップ1
10	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	AUX3	フラップ4	フラップ4	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ2
11	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	フラップ3	フラップ3
12	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	フラップ4	フラップ4
VC1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター
VC2	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	パタフライ	AUX1	パタフライ	AUX1	パタフライ	AUX1	パタフライ	AUX1	パタフライ
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

* VC1 ~ 4 は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1、DG2 はスイッチ・チャンネルです。それぞれ、スイッチ SD (初期設定)、スイッチ SA (初期設定) で操作します。

[PCM-1024/PPM モード 初期設定 CH]

受信機 CH	2 エルロン		2 エルロン +1FLAP		2 エルロン +2FLAP		2 エルロン +4FLAP			4 エルロン +2FLAP		
	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー	飛行機	グライダー ノーマル	グライダー ウイングレット	飛行機	グライダー ノーマル	グライダー ウイングレット
1	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	/	エルロン	エルロン	/	エルロン	エルロン
2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	/	エルロン2	エルロン2	/	エルロン2	エルロン2
3	スロットル	モーター	スロットル	モーター	スロットル	モーター	/	フラップ	フラップ	/	エルロン3	エルロン3
4	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	/	フラップ2	フラップ2	/	エルロン4	エルロン4
5	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	エルロン2	/	フラップ3	フラップ3	/	フラップ	フラップ
6	引込み脚	AUX7	フラップ	フラップ	引込み脚	AUX5	/	フラップ4	フラップ4	/	フラップ2	フラップ2
7	AUX6	AUX6	引込み脚	AUX6	フラップ	フラップ	/	ラダー	ラダー	/	ラダー	ラダー
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	フラップ2	フラップ2	/	AUX1	ラダー2	/	AUX1	ラダー2
VC1	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	/	エレベーター	エレベーター	/	エレベーター	エレベーター
VC2	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	/	キャンバー	キャンバー	/	キャンバー	キャンバー
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	パタフライ	AUX1	パタフライ	/	パタフライ	パタフライ	/	パタフライ	パタフライ
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	/	AUX1	AUX1	/	AUX1	AUX1

* VC1 ~ 4 は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* 受信機出力 DG1 (CH9) はスイッチ・チャンネルです。スイッチ SD (初期設定) で操作します。

ヘリコプター

CH	全スワッシュ・タイプ (H-4, H4X 除く)	H-4, H4X タイプ
1	スロットル	スロットル
2	ラダー	ラダー
3	ジャイロ	エルロン
4	エルロン	エレベーター
5	エレベーター	ピッチ
6	ピッチ	エレベーター 2
7	ガバナー 1	ジャイロ
8	ガバナー 2	ガバナー 1
9	ニードル	ガバナー 2
10	AUX3	ニードル
11	AUX2	AUX2
12	AUX1	AUX1
VC1	AUX1	AUX1
VC2	AUX1	AUX1
VC3	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1

* PCM-G3 モード以外の受信機を使用の場合は上表の塗りの部分のみ対応可能。

* VC1 ~ 4 は受信機出力を持たないバーチャル・チャンネルです。詳しくは、リンケージ・メニューのファンクション機能の説明をお読みください。

* PCM-G3 モードの場合、受信機出力 DG1、DG2 はスイッチ・チャンネルです。それぞれ、スイッチ SD (初期設定)、スイッチ SA (初期設定) で操作します。

* PCM1024/PPM モードの場合、受信機出力 DG1 (CH9) はスイッチ・チャンネルです。スイッチ SD (初期設定) で操作します。

リンケージ・メニュー機能 [LINKAGE MENU]

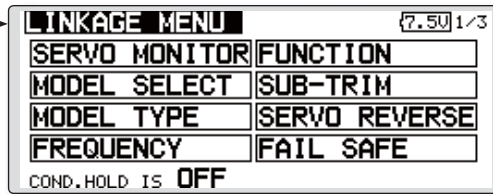
リンケージ・メニューはモデルの追加、モデルタイプの選択、周波数の設定、エンド・ポイントの設定等の主にモデルの基本設定を行う機能で構成されています。

なお、使用するモデル・タイプによって、一部選択できる機能が異なります。下記のメニュー画面は一例を示します。

- ホーム画面の **[LINKAGE]** の表示を選択し、**EDIT** ボタンを押して、下記のリンケージ・メニューを呼び出します。

EDIT ダイアルを回して設定したい機能を選択し、**EDIT** ボタンを押して設定画面を呼び出してください。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押します。

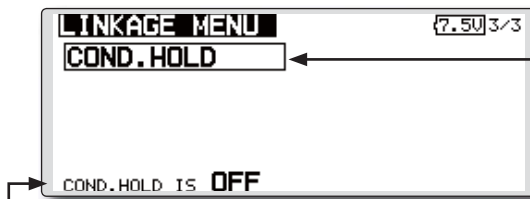


(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。下図はヘリコプター・タイプの場合。)

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- コンディション・ホールド機能の動作表示 (ヘリのみ)
動作中: "COND. HOLD IS ON" が表示される。
機能 OFF 時: "COND HOLD IS OFF" が表示される。

コンディション・ホールド機能の ON/OFF 操作

(この機能はヘリコプター・タイプのみ)

1. ノーマルのコンディションに切替えます。
2. スロットル・スティックが 1/3 よりスロー側で、スロットル・サーボを固定したい位置に操作します。
3. 上記の条件で、メニューの [COND. HOLD] にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押して ON/OFF を反転します。

(詳しくは、コンディション・ホールド機能の説明を参照)

リンケージ・メニューの機能一覧

[SERVO MONITOR] サーボ・モニタ: サーボ・テストおよび動作位置の表示

[MODEL SELECT] モデル・セレクト: モデルの追加、呼び出し、削除、コピー、モデル名の設定

[MODEL TYPE] モデル・タイプ: モデル・タイプ、ウイングタイプ、スワッシュタイプ等の選択

[FREQUENCY] フリクエンシー (周波数): 周波数選択、モジュレーション・モード選択、受信機 ID 設定

[FUNCTION] ファンクション: 各ファンクションのチャンネル割り当ての変更が可能

[SUB-TRIM] サブ・トリム: 各サーボのニュートラル位置の調整

[SERVO-REVERSE] サーボ・リバース: サーボの動作方向の反転

[FAIL SAFE] フェール・セーフ: フェール・セーフ機能、バッテリー・フェール・セーフ機能の設定

(PCMG3/PCM1024 のみ)

[END POINT] エンド・ポイント: サーボの基本舵角の調整、リミット設定

[THROTTLE CUT] スロットル・カット: エンジンを安全にかつ容易に停止させます (飛行機、ヘリのみ)

[IDLE DOWN] アイドル・ダウン: エンジンのアイドル回転数を下げます (飛行機、ヘリのみ)

[SWASH RING] スワッシュ・リング: スワッシュ動作量を一定範囲に制限する機能 (ヘリのみ。)

[SWASH] スワッシュ設定: スワッシュ AFR およびリンケージ補正機能 (ヘリのみ。H-1 以外。)

[TIMER] タイマー: タイマーの設定

[T1-T6 SETTING] トリム設定: デジタル・トリムのステップ量、モードの設定

[DATA RESET] データ・リセット: モデル・メモリーの設定データのリセット (項目別)

[COND. HOLD] コンディション・ホールド: コンディションホールドの ON/OFF (ヘリのみ)

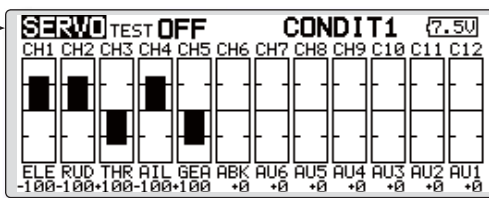
サーボ・モニタ [SERVO MONITOR]

リンケージメニューやモデルメニューの機能を設定したときの各サーボの動作をバーグラフおよび数値で確認することができます。このサーボ・モニタ画面はモデル・メニューからでも呼び出すことが可能です。

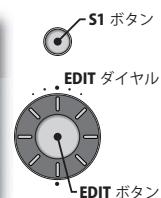
また、2種類のサーボ・テストが可能です。往復動作モード [MOVING] の場合はサーボが反復動作します。ニュートラル・モード [NEUTRAL] の場合はサーボがニュートラル位置に固定されます。サーボ・ホーンのニュートラル位置を調整するときに便利です。

- リンケージ・メニューで [SERVO MONITOR] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

サーボ・テストの操作

1. サーボ・テストの開始

[TEST] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してテスト・モードを選び、EDIT ボタンを押します。

*テストが開始されます。

[MOVING] : 各サーボが反復動作するモード

[NEUTRAL] : 各サーボがニュートラルに固定されるモード

2. サーボ・テストの終了

[TEST] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

ダイヤルを回して [OFF] を選び、EDIT ボタンを押します。

*テストが終了し、サーボ・モニターの画面となります。

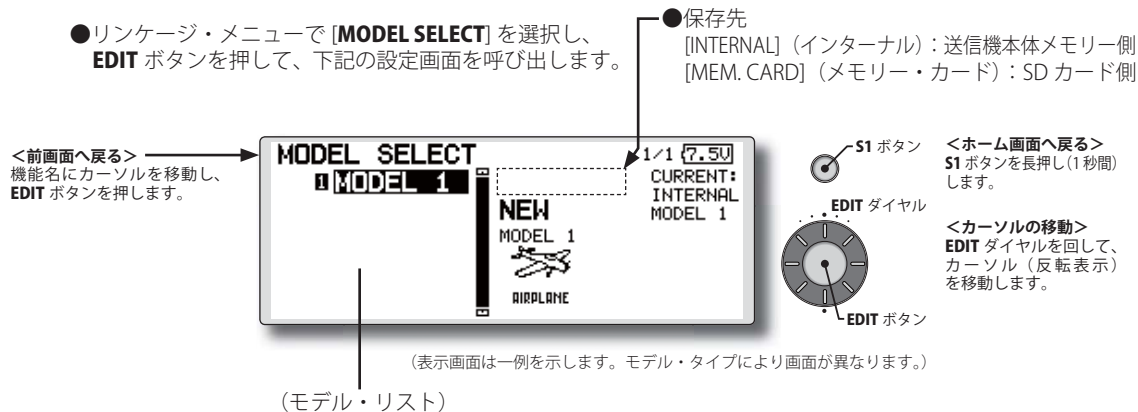
モデル・セレクト [MODEL SELECT]

このモデル・セレクト機能でモデルの追加、呼び出し、削除、コピー、モデル名の設定が行えます。送信機本体および SD カード（市販）に保存されたモデル・データについて操作が可能です。

なお、送信機のメモリーには最大 30 機分のモデルを記憶できます。

わかりやすいモデルの名前を付けておくと、後でモデルを見分けるのに大変便利です。モデル名は最長 8 文字まで可能。使用中のモデルが常に画面に表示されます。

コピー機能は送信機および SD カードへのモデルのバック・アップや、新しいモデルを設定する場合に、すでに有るモデルをコピーして必要部分のみ変更して作る時などに使用できます。新しい設定を行う前にバック・アップ・コピーを取る場合にも便利です。



モデルの呼び出し [SELECT] (セレクト)

*現在使用中のモデル以外の本体または SD カードに保存されているモデル・データを呼び出すことができます。

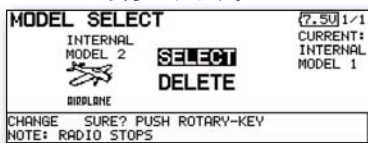
1. 保存先の表示 ("INTERNAL" または "MEM. CARD") にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して、希望のモデルが保存されている場所を選択し、EDIT ボタンを押します。

[INTERNAL] : 送信機本体メモリー側

[MEM. CARD] : SD カード側

2. モデル・リスト中の希望するモデルにカーソルを移動した後、EDIT ボタンを押します。
3. [SELECT] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*確認メッセージが表示されます。



4. 再度 EDIT ボタンを押すと、呼び出しが完了します。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

*送信が停止され、新しいモデルでの送信をしようかどうかの確認メッセージ ("TRANSMIT?") が現れます。

5. 送信を開始する場合は、[YES] を選択し、EDIT ボタンを押します。

送信をしない場合は [NO] を選択して EDIT ボタンを押します。

モデルの追加 [NEW] (ニュー)

*本体または SD カードに新規にモデルを追加することができます。

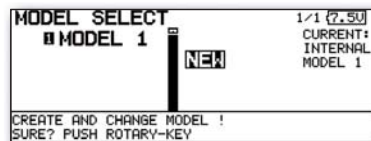
1. 保存先の表示 ("INTERNAL" または "MEM. CARD") にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して、保存先を選択し、EDIT ボタンを押します。

[INTERNAL] : 送信機本体メモリー側

[MEM. CARD] : SD カード側

2. [NEW] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*確認メッセージが表示されます。



3. 再度 EDIT ボタンを押します。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

*モデル・タイプ選択画面および周波数設定画面が自動的に表示されます。確認または変更してください。

*新しいモデルでの送信を開始しようかどうかの確認メッセージ ("TRANSMIT?") が現れます。

4. 送信を開始する場合は、[YES] を選択し、EDIT ボタンを押します。

送信をしない場合は [NO] を選択して EDIT ボタンを押します。

*追加されたモデルは内部メモリーの空き領域の状態によってはリストの末尾ではなく途中に挿入される場合があります。

モデルの削除 [DELETE] (デリート)

*本体またはSDカードに保存されたモデルを削除することができます。

重要：現在呼び出し中のモデルは削除できません。

1. 保存先の表示 ("INTERNAL" または "MEM. CARD") にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して、保存先を選択し、EDIT ボタンを押します。

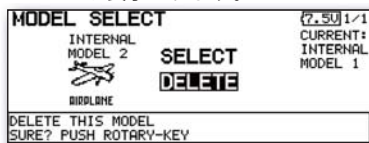
[INTERNAL]：送信機本体メモリー側

[MEM. CARD]：SDカード側

2. モデル・リスト中の削除したいモデルにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

3. [DELETE] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*確認メッセージが表示されます。



4. 再度 EDIT ボタンを押すと、モデルが削除されます。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

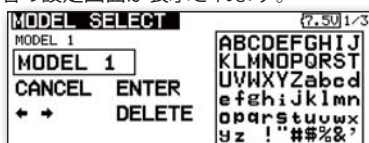
モデル名の変更 [RENAME] (リネーム)

*現在動作中のモデルの名前を変更することができます。

1. モデル・リスト中の現在動作中のモデルを選択し、EDIT ボタンを押します。

3. [RENAME] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*モデル名の設定画面が表示されます。



4. 下記の操作方法により、モデル名を変更してください。

・入力ボックス内のカーソル移動：

[←]または[→]を選択しEDIT ボタンを押します。

・文字の消去：

[DELETE] を選択しEDIT ボタンを押すと、カーソル直後の文字が消去されます。

・文字の追加：

文字リストから候補文字を選択しEDIT ボタンを押すと、カーソル直後の位置に文字が追加されます。

*文字リストは3ページに分かれています。S1 ボタンを押して切替が可能です。

*モデル名として8文字までの名前を付けることができます。(スペースも1文字に数える)

2. 入力が完了したら [ENTER] を選択しEDIT ボタンを押します。(入力を途中で止めて元の状態に戻りたい場合は、[CANCEL] を選択しEDIT ボタンを押します。)

3. 画面上段の [MODEL SELECT] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して前の画面に戻ります。

*変更されたモデルは内部メモリーの空き領域の状態によってはリスト上の順番が入れ替わる場合があります。

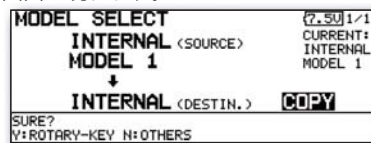
モデルコピー [COPY] (コピー)

*現在動作中のモデルのコピーを作成することができます。

2. モデル・リスト中の現在動作中のモデルにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

3. [COPY] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*コピー画面が現れます。



4. 画面下部のコピー先の位置にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤル回して保存先を選択しEDIT ボタンを押します。

5. [COPY] にカーソルを移動します。

6. EDIT ボタンを押します。確認メッセージが表示され、再度 EDIT ボタンを押すとコピーが実行されます。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

*コピーされたモデルがモデル・リスト上に表示されます。ただし、リスト上の表示順は内部メモリーの空き領域の状態により入れ替わる場合があります。

モデル・タイプ [MODEL TYPE]

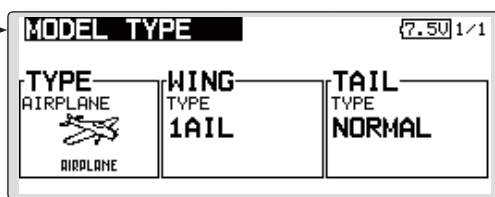
この機能は、飛行機、ヘリコプター、グライダーのモデル・タイプを選択する機能です。モデル・タイプを選択することにより、その機体に最適なミキシング機能等が使用可能となります。モデルを設定する前に必ずこのモデル・タイプの選択を行う必要があります。

飛行機およびグライダーは7種類の主翼タイプ、6種類の無尾翼タイプ、および3種類の尾翼タイプから使用する機体に合ったタイプを選択します。

ヘリコプターの場合は8種類のスワッシュ・タイプから選択します。

- リンケージ・メニューで [MODEL TYPE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

モデル・タイプの選択

1. 変更したい項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出します。

"TYPE": モデル・タイプ

"WING": 主翼タイプ (飛行機/グライダー)

"TAIL": 尾翼タイプ (飛行機/グライダー)

"SWASH": スワッシュ・タイプ (ヘリコプター)

2. 変更したいタイプにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、タイプを選択します。

* モデル・タイプを変更した場合はそのモデルに応じて、順次主翼タイプ、尾翼タイプ、またはスワッシュ・タイプの選択画面が現れます。最後に確認メッセージ "MODEL TYPE CONFIRMATION" (モデルタイプ・コンファメーション) の点滅表示が現れます。



重要: このモデル・タイプ画面でモデル・タイプを設定すると、すでに設定されているその他の設定データが失われます。十分注意してください。

必要な場合は、モデル・セレクト機能で、新規にモデルを追加するか、バック・アップ用のコピーを作成してください。

ただし、ヘリコプター・タイプの場合、下記のスワッシュ・タイプの各グループ内での変更の場合は、スワッシュ設定 [SWASH] 以外の設定データを引き継ぐことが可能です。この場合、スワッシュ・タイプ変更時に確認画面が表示され、[NO] を選択するとデータが引き継がれます。

(スワッシュ・タイプ・グループ)

グループ A: H-1、H-2、H-3、HR3、HN3 および HE3
グループ B: H-4、H4X

3. 変更を実行する場合は EDIT ボタンを押します。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

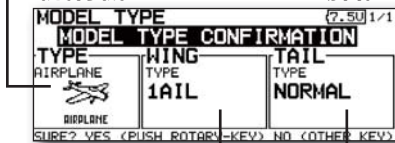
* 使用する受信機のタイプにより、表示される(選択できる)モデルタイプが異なります。例えば、R149DP の場合は 8CH で対応できるモデル・タイプのみ選択できます。モデル・タイプ別サーボ接続 (ページ 49 ~ 52) を参照。

●モデル・タイプの選択

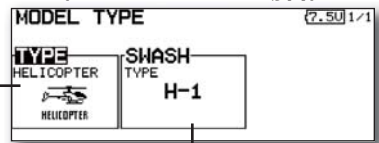


モデル・タイプ
 飛行機、ヘリコプター、またはグライダーから選択します。

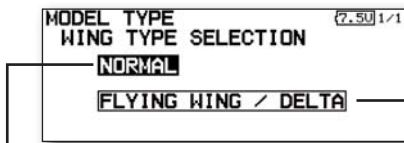
(飛行機・グライダーの場合)



(ヘリコプターの場合)



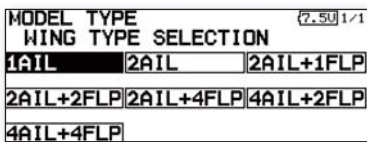
●主翼タイプの選択



●スワッシュ・タイプ選択

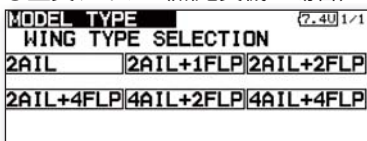
MODEL TYPE SHASH TYPE SELECTION (7.50) 1/1		
SHASH TYPE SELECTION		
H-1	H-2	H-4
HR3	HN3	H-3
HE3	H4X	

●主翼タイプ (ノーマルの場合)



ヘリコプター・スワッシュ・タイプ
 H-1、H-2、H-4、HR3、HN3、H-3、HE3、または H4X から選択します。

●主翼タイプ (無尾翼機の場合)



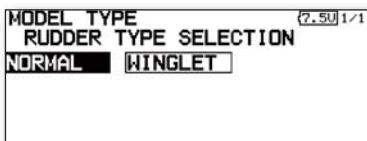
主翼タイプ (ノーマルの場合)
 1 エルロン、2 エルロン、2 エルロン + 1 フラップ、2 エルロン + 2 フラップ、2 エルロン + 4 フラップ、4 エルロン + 2 フラップ、または 4 エルロン + 4 フラップ から選択します。

主翼タイプ (無尾翼機の場合)
 2 エルロン、2 エルロン + 1 フラップ、2 エルロン + 2 フラップ、2 エルロン + 4 フラップ、4 エルロン + 2 フラップ、4 エルロン + 4 フラップ から選択します。

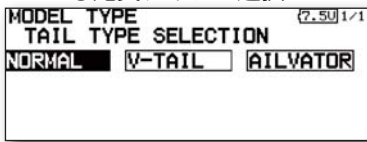
* 無尾翼機の場合はノーマル・ラダーまたはウィングレットのどちらかのラダータイプが選択可能となります。

尾翼タイプ
 ノーマル、Vテール、またはエルベーターから選択します。

●ラダー・タイプの選択



●尾翼タイプの選択



飛行機・グライダーのタイプ別サーボ配置

●主翼タイプ（ノーマルの場合）

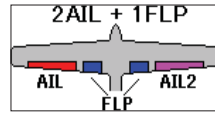
1 エルロン



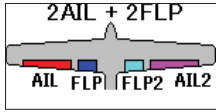
2 エルロン



2 エルロン+1 フラップ



2 エルロン+2 フラップ



2 エルロン+4 フラップ



4 エルロン+2 フラップ

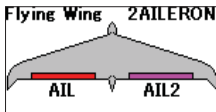


4 エルロン+4 フラップ

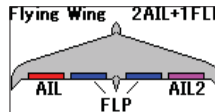


●主翼タイプ（無尾翼機の場合）

2 エルロン



2 エルロン+1 フラップ



2 エルロン+2 フラップ



2 エルロン+4 フラップ



4 エルロン+2 フラップ

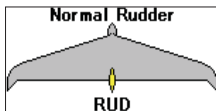


4 エルロン+4 フラップ

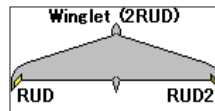


●ラダータイプ

ノーマル・ラダー



ウィングレット

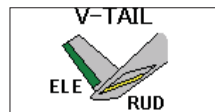


●尾翼タイプ

ノーマル



Vテール

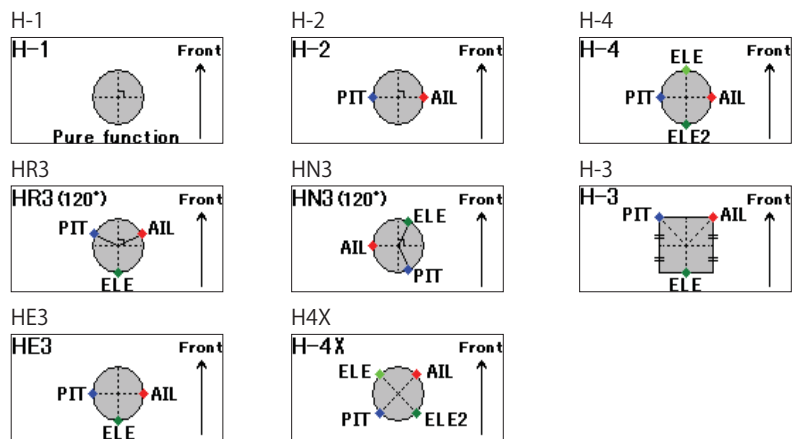


エルベーター



ヘリコプターのタイプ別サーボ配置

●スワッシュ・タイプ



周波数 [FREQUENCY]

周波数の設定

この T12FG 送信機はシンセサイザー方式を採用しています。使用するモジュールの周波数帯の範囲内で周波数の変更が可能です。

また R5114DPS 受信機の場合、周波数設定は送信機側より無線または DSC コードで設定されます。送信機側の周波数帯に合った受信機を使用してください。

受信機 ID コード

R5114DPS 受信機 (PCM-G3 受信機) を使用する場合、受信機ケース裏側に記載の ID コードの入力が必要です。

*大型機等で 2 つの受信機を使用する場合は 2nd 受信機 ID も入力します。

変調方式 (モジュレーション) の選択

この T12FG では、PCM-G3 / PCM1024 / PPM (FM) の 3 種類のモジュレーション方式を選択すること

ができます。使用する受信機のタイプに合わせて選択してください。

PCM-G3 通信モードの選択

通信モード A または B が選択できます。

モード A (5K) :

G3 本来のレスポンス性能を引き出すためのモード (推奨モード)。

対応受信機 : R5014DPS および R5114DPS

モード B (4K) :

通信品質を強化したモード。妨害特性がモード A より改善されます。(ただし、レスポンス特性はモード A より約 20%低下)

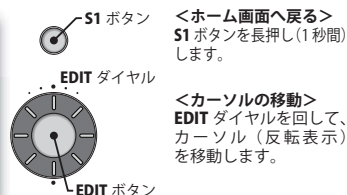
対応受信機 : R5114DPS

*ラジコン電波の性質上、隣接飛行場が近い場合、特に飛行範囲の広い飛行機等では、同電波の影響を避けることはできませんが、軽度の影響の場合は、モード B を選択することにより、混信の影響が軽減される場合があります。

- リンケージ・メニューで [FREQUENCY] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。または、ホーム画面より周波数表示にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

FREQUENCY		7.50 1/1
BAND No.	17	(72.130MHz)
(FREQ. CH)		
FREQ. BAND	72MHz	JAPAN
/AREA		
MODULATION	PCM-G3	(MODE A (5K))
RECEIVER ID	RX1 00001001	RX2 NO USE



周波数切替方法

周波数切替方法および ID 設定方法は基本操作の項目に記載の手順を参照してください。(28 ページ)

受信機 ID コードの入力

*受信機ケースに表示されている 8 桁の ID 番号を入力します。

1. [RECEIVER ID] の項目を選択し、EDIT ボタンを押します。

*受信機 ID コードの設定画面が現れます。

FREQUENCY		7.50 1/1							
PLEASE INPUT THE RECEIVER ID									
00001001	→								
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
BACK-SPACE ENTER									

2. 先頭の桁の候補文字を選び、EDIT ボタンを押します。順次、8 桁の数字を設定してください。

*誤って入力した場合は、[BACK-SPACE] を選択し、EDIT ボタンを押して消去します。

5. 入力が完了したら、[ENTER] を選択して、EDIT ボタンを押します。

*一旦、ID コードを設定すると、受信機を変更しないかぎり設定の必要はありません。

変調方式 (モジュレーション) の変更

1. "MODULATION" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押す。

*モジュレーションの選択画面が現れます。

FREQUENCY		7.50 1/1
PLEASE SELECT A MODULATION TYPE		
CURRENT:	PCM-G3	(MODE A (5K))
PCM-G3	(MODE: MODE A (5K))	
PCM1024		
PPM		

2. モードを選択し、EDIT ボタンを押す。

*確認メッセージ "MODUL.TYPE IS CHANGED. SURE ?" が現れます。

3. 再度 EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

*送信が停止され、新しいモードでの送信をするかどうかの確認メッセージ "TRANSMIT ?" が現れます。

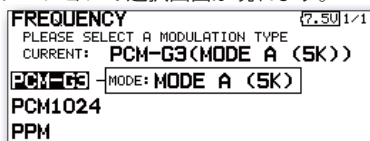
4. 送信を開始する場合は、[YES] を選択し、EDIT ボタンを押します。送信をしない場合は [NO] を選択して EDIT ボタンを押す。

* PCM-G3 から他のモードへ変更する場合、使用しているウイング・タイプによりチャンネル数が不足する場合はモード変更ができません。

PCM-G3 通信モードの選択方法

1."MODULATION" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押す。

*モジュレーションの選択画面が現れます。



2."MODE：" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。


3.ダイヤルを回してモードの表示を変更し、EDIT ボタンを押して確定します。

*モードが変更されます。

注意：通信モード B を使用する場合は、モード B に対応した受信機 R5114DPS を使用してください。(R5014DPS は対応していません。)

通信モード B は、スティック操作に対するサーボのレスポンスがモード A より約 20% 低下します。

警告

 周波数変更後のフライト時は特に周波数の確認を充分行ってから、電波を発射してください。

■周波数リボンも変えておきましょう。思い込みで発射すると大変危険です。

ファンクション [FUNCTION]

サーボ接続チャンネル（エルロン、エレベーター等）とそのチャンネルのコントロール（スティック、スイッチ、トリム・レバー、トリム・スイッチ）は、モデル・タイプ選択画面で選択されたモデル・タイプおよびウイング・タイプ（スワッシュ・タイプ）に応じて、最適な組み合わせに自動設定されます。

通常はこの組み合わせで使用することを推奨しますが、このファンクション設定画面でその関係を自由に変更することが可能です。

*たとえばエレベーター・スティック操作を受信機の2チャンネルと3チャンネルに設定し、2個のエレベーター・サーボを接続することも可能になります。

注意：PCM-G3 では、CH1-CH3, CH4-CH6, CH7-CH9, CH10-CH12 の3チャンネルごとの4ブロックに分け、同ブロック内のチャンネル同時動作を実現しています。

複数のチャンネル・サーボを同時に動作させる必要のあるヘリコプターのスワッシュ・プレート、飛行機のデュアル・エレベーター・サーボ、およびフラップロン・ミキシング等で不均一なサーボ動作を無くすことができます。

なお、最良の組み合わせになるように初期設定されています。通常はそのままのチャンネル・オーダーで使用することをおすすめします。

VC1～VC4（バーチャル・チャンネル）について

直接のサーボ出力を持たない4つのバーチャル・チャンネルが設定できます。コントロール（スティック、スイッチ、トリム・レバー、トリム・スイッチ）操作とファンクションの関係を自由に変更できます。（プログラム・ミキシングのマスターCHとして使用可能）

モード別チャンネル数の制限について

PCM-G3 モードでは12のリニア・チャンネル（CH1～CH12）および2つのスイッチ・チャンネル（DG1/2）が設定可能です。

PCM1024 モードでは8つのリニア・チャンネルおよび1つのスイッチ・チャンネル（DG1）が設定可能です。また、PPM モードでは8つのリニア・チャンネルが設定可能です。

* DG1/2（スイッチ・チャンネル）について
DG1/2はスイッチチャンネルとして使用できます。コントロール（スティック、スイッチ、トリム・レバー等）操作との関係は自由に変更できます。

- リンケージ・メニューで [FUNCTION] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

FUNCTION		CONDIT1		7.50 / 5
CH	FUNCTION	CONTROL	---	TRIM
1	ELEVATOR	J3	T3	COMB.
2	RUDDER	J4	T4	COMB.
3	THROTTLE	J2	T2	COMB.
4	AILERON	J1	T1	COMB.

- トリムの動作モード表示
"COMB.": コンビネーションモード
"SEPAR": セパレートモード

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル（反転表示）を移動します。



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

ファンクションの変更

1. 変更したいチャンネルの "FUNCTION" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* ファンクション選択画面が表示されます。

2. 設定したいファンクション名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* ファンクション名が点滅表示されます。

3. 変更を実行する場合は EDIT ボタンを押します。（中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。）

* 複数チャンネルを1つのファンクションに割り当てることもできます。

操作コントロールの変更

1. 変更したいチャンネルの "CONTROL" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* コントロール選択画面が表示されます。

HARDWARE SEL.		CONDIT1		7.50 / 11
HARDWARE LIST				
J1	SA	SE	LD	T1 T5
J2	SB	SF	RD	T2 T6
J3	SC	SG	LS	T3 --
J4	SD	SH	RS	T4

2. 設定したいコントロール名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* 複数のチャンネルに同じコントロールを割り付けることも可能。

*コンディション毎に設定を変更することも可能。
コントロールに対応する設定モードをグループ・モード [G] からシングル・モード [S] に変更してから、コントロールの変更を行うことにより、そのコンディションの設定のみ変更され、他のコンディションの設定は変更されません。

トリムの設定

1. 変更したいチャンネルの "TRIM" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*トリム設定画面が表示されます。

HARDWARE SEL		CONDIT1		7.50 1/1		
HARDWARE LIST				RATE		
J1	SA	SE	LD	TRIM	T5	30%
J2	SB	SF	RD	T2	T6	MODE
J3	SC	SG	LS	T3	--	NORMAL
J4	SD	SH	RS	T4		

トリム設定画面で、下記の項目について設定が可能。

*コンディション毎に設定を変更することも可能。
トリムに対応する設定モードをグループ・モード [G] からシングル・モード [S] に変更してから、コントロールの変更を行うことにより、そのコンディションの設定のみ変更され、他のコンディションの設定は変更されません。

●トリムの選択

設定したいトリム・レバー等にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*トリムが変更されます。

●トリム・レートの設定

[RATE] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して設定します。

初期値：+30%

調整範囲：0 ~ 200%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*調整時、EDIT ボタンを 1 秒間押すと初期値にリセットされます。

●トリム・モードの選択

[TRIM MODE] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して選択します。

[NORM]：ノーマル・モード。通常のトリム（平行移動トリム）の動作となります。

[ATL]：ATL 動作モード。スロットル・トリムで通常使用する動作でスロー付近が最大の変化量のモード。リバースも可能。（ATL モードを選択したときに表示される "ATL REVERSE" の項目で [NORMAL]/[REVERSE] の選択が可能）

[CENTER]：センタートリム動作でセンター付近が最大の変化量のモード。

サブトリム [SUB-TRIM]

サブトリムは各サーボのニュートラル位置を設定する機能です。また、リンケージとプッシュ・ロッドを接続したまま操舵面のニュートラルの微調整もできます。

サブトリムの設定を始めるときは、必ずデジタル・トリムをセンター位置にしてください。

- リンケージ・メニューで [SUB-TRIM] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。

SUB-TRIM		7.5V 1/2	
CH FUNCTION		CH FUNCTION	
1 ELEVATOR	+0	5 GEAR	+0
2 RUDDER	+0	6 AIR BRAKE	+0
3 THROTTLE	+0	7 AUXILIARY6	+0
4 AILERON	+0	8 AUXILIARY5	+0



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、
ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

サブトリムの調整

1. カーソルを調整したいチャンネルに移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
2. ダイアルを回して調整します。

初期値：0

調整範囲：-240 ~ +240 (ステップ)

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

- *サブトリムを調整する前に、まずリンケージの調整等で、舵面等をなるべくサブトリムを使用しなくて良いように調整しておくことが大切です。
 - *調整時、EDIT ボタンを1秒間押しと初期値にリセットされます。
3. 各チャンネルに対してこの手順を繰り返してください。

サーボ・リバーズ [SERVO REVERSE]

各チャンネルのサーボ動作方向を反転します。

- * 集合スイッチ・プレート機構 (HR-3 等) 付きのヘリコプターの場合は、ピッチ・サーボの動作方向をまずサーボ・リバーズで合わせ、スイッチ AFR 機能を使用して、エルロン、エレベーターの動作方向を設定してください。
- * 複数のサーボで同一機能をコントロールするように設定された飛行機/グライダー・タイプのミキシングを使う場合は、サーボを反転すべきか、機能設定で反転すべきかは大変複雑で分かりにくいものです。そうした特殊な機能についてはそれぞれの機能説明を参照してください。

- リンケージ・メニューで [SERVO REVERSE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

SERVO REVERSE				7.5V 1/2	
CH	FUNCTION	MODE	CH	FUNCTION	MODE
1	ELEVATOR	NORM	5	GEAR	NORM
2	RUDDER	NORM	6	AIR BRAKE	NORM
3	THROTTLE	NORM	7	AUXILIARY6	NORM
4	AILERON	NORM	8	AUXILIARY5	NORM

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

サーボ・リバーズ手順

- * 新しいモデルのリンケージが終了したら、サーボがそれぞれ正しい受信チャンネルに繋がっているかどうかを確認してください。
 - * 次に、各スティックを動かして、各チャンネルの動作方向をリバーズするべきかどうか判断してください。
1. カーソルを反転したいチャンネルに移動します。EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
 2. ダイヤルを回して、表示を [REV] (または [NORM]) に反転します。
* 点滅表示となります。
 3. EDIT ボタンを押すと点灯となりサーボ動作が反転します。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)
- * リバーズさせる必要のある各チャンネルについて以上の操作を繰り返します。

警告



いつも飛行前に周波数、選択モデル、サーボ動作、動作方向、およびスイッチ設定等が正しいことを必ず確認してください。

何らかの原因で、送信機からの信号を正常に受信できなくなった場合、予め設定した位置にサーボを移動させる設定が可能。(フェール・セーフ機能)

- チャンネル毎にホールドまたはフェール・セーフのモードに設定できます。

[HOLD]: ホールド・モード。受信できなくなる直前のサーボ位置を保持します。

[F/S]: フェール・セーフ・モード。サーボは事前に設定された位置に動作し保持します。

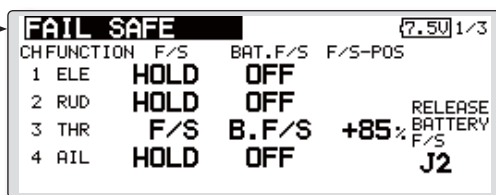
- 設定データは送信機電源 ON 時および以降随時自動送信されます。

また、受信機用バッテリーの電圧が低下した場合、予め設定した位置にサーボを動作させることが可能です。(バッテリー・フェール・セーフ機能)

- PCM1024 の場合、バッテリー・フェール・セーフ機能は 3CH 目のみの動作となります。
- バッテリー・フェール・セーフ機能の解除スイッチを設定可能。(初期設定: スロットル・スティックの最スロー側)

- リンクージ・メニューで [FAIL SAFE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

フェール・セーフ設定手順

1. カーソルを設定したいチャンネルの "F/S" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
2. ダイアルを左に回して [F/S] を表示させる。
* 点滅表示となります。
3. EDIT ボタンを押す。(中止する場合はダイアルを回すか、S1 ボタンを押します。)
* F/S モードに切り替わります。
4. カーソルを "F/S-POS" の項目に移動する。
5. 対応するスティック、ノブ、スライダー等を、フェール・セーフ時に動作させたい位置に保持し、EDIT ボタンを 1 秒間押します。
* 設定位置がパーセントで表示されます。
* そのチャンネルをホールド・モードに戻したい場合は、再度 "F/S" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイアルを右に回して [HOLD] を表示させてから、EDIT ボタンを押してモードを変更してください。

警告

安全上、必ずフェール・セーフ機能の設定を行なってください。

- 特にスロットルチャンネルについては、飛行機の場合最スロー、ヘリの場合はホバリング位置よりスロー側になるように設定します。混信等で正しく電波を受信できなくなった場合に、フル・ハイで墜落すると大変危険です。
- バッテリー・フェール・セーフ解除がスロットル・スティックの場合、エンジン不調と勘違いし、スロットル・スローで解除になり、飛行させてしまう場合がありますので、疑わしい場合は直ちに着陸させてください。
- バッテリー・フェールセーフの解除後は飛行を続けず、できる限り速やかに着陸させてください。
- その他、操作をしていないにもかかわらず、サーボがフェール・セーフ位置に突然動作したときは、一旦着陸させ、受信機のバッテリー電圧をチェックしてください。
- 6Vバッテリー使用の場合、バッテリー・フェール・セーフは正常に動きません。

バッテリー・フェール・セーフ設定手順

フェール・セーフ設定手順と同様の方法で、チャンネル毎に設定が可能です。"BAT.F/S" の項目を選択して設定してください。

- [B.F/S]: バッテリー・フェール・セーフ機能が動作。
- [OFF]: バッテリー・フェール・セーフ機能 OFF

バッテリー・フェール・セーフ解除スイッチの設定

この機能は、受信機のバッテリー電圧が低下し、バッテリー・フェール・セーフ機能が作動後、機体の回収のためにそれを一時解除する機能です。解除するスイッチの選択を行います。

1. カーソルを [RELEASE BATTERY F/S] の項目に移動する。
2. EDIT ボタンを押す。
* スイッチ選択画面が呼び出されます。
* スイッチの選択および ON/OFF 方向の設定方法は巻末の「スイッチ選択方法」をご参照ください。

エンド・ポイント [END POINT]

エンド・ポイントはサーボの動作量を左右片側ずつ個別に調整できる機能で、リンケージの補正に使用します。レート可変量は30%から140%まで可能です。(CH1～CH12)

また最大動作量を制限するリミット・ポイントを0%から155%までの間で設定できます。このリミット・ポイントを設定することにより、ミキシング等により動作量が増えてもリミット・ポイントを越えてサーボが動作することが無いので、サーボのロック、リンケージの破損等が防止できます。

- リンケージ・メニューで [END POINT] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

END POINT		7.5V	1/3
CHFUNCTION	LIMIT TRAV.	TRAV.	LIMIT SPEED
1 ELEVATOR	135% 100%	100% 135%	0
2 RUDDER	135% 100%	100% 135%	0
3 THROTTLE	135% 100%	100% 135%	0
4 AILERON	135% 100%	100% 135%	0



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

*設定するチャンネルの操作コントロールの上下、左右、または左右回転の両方向について個別に調整できます。

サーボ動作量の調整

- カーソルを調整したいチャンネルの "TRAV." の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
- ダイヤルを回して調整する。
初期値：100%
調整範囲：30%～140%
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*調整時、EDIT ボタンを長押し(1秒間)すると初期値にリセットされます。
- 各レートについて上記の手順を繰り返してください。

リミット・ポイント調整

- カーソルを調整したいチャンネルの "LIMIT" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
- ダイヤルを回して調整する。
初期値：135%
調整範囲：0%～155%
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*調整時、EDIT ボタンを長押し(1秒間)すると初期値にリセットされます。
- 各リミット・ポイントについて上記の手順を繰り返してください。

サーボ・スピード設定

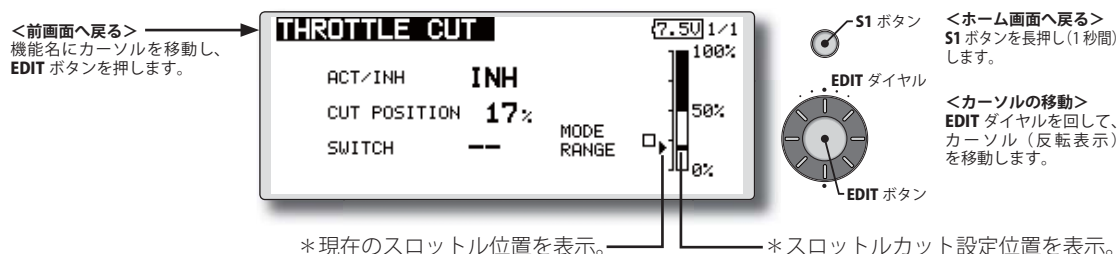
- カーソルを調整したいチャンネルの "SPEED" の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
- ダイヤルを回して調整する。
初期値：0
調整範囲：0～27 (ステップ)
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*調整時、EDIT ボタンを長押し(1秒間)すると初期値にリセットされます。
- 各チャンネルについて上記の手順を繰り返してください。

スロットル・カット [THROTTLE CUT]

スロットル・カットは、スイッチを操作するだけで簡単にエンジンを止めることができる機能です。安全のため、スロットル・スティックが 1/3 以下の状態で機能します。

●スイッチは初期設定で"--"に設定されていますので、初めにスイッチと ON 方向を決めておく必要があります。

- リンケージ・メニューで [THROTTLE CUT] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



スロットル・カット設定手順

* 下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

1. 機能を有効にする；

[ACT/INH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左側に回して "INH" から "ACT" の点滅表示とし、EDIT ボタンを押します。

2. スイッチの設定；

[SWITCH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ設定画面を呼び出し、スイッチおよび ON 方向を選択してください。

(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

3. スロットル・カット・ポジションの設定；

[CUT POSITION] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してスロットル・カット操作時のサーボ動作位置を調整します。

初期値：17%

調整範囲：0%～50%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 選択したカット・スイッチを ON にし、スロットル・スティックがアイドリングの状態で、エンジンが確実に停止するまでレートを調整してください。

ただし、スロットル・リンケージを引きすぎて、サーボ

に無理な力がかからないように注意してください。

* カット・ポジションは絶対に最スローよりハイ側にセッティングしないでください。エンジン（モーター）が吹け上がり危険です。

* 調整時、EDIT ボタンを長押し（1秒間）すると初期値にリセットされます。

アイドル・ダウン [IDLE DOWN]

アイドル・ダウンは、スイッチを操作したとき、エンジンのアドリング回転数を下げる機能です。

- 機能はスロー側でのみ使用できます。
- 初期設定ではスイッチ設定が "--" となっていますので、スイッチと動作方向を設定する必要があります。

- リンケージ・メニューで [IDLE DOWN] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



アイドル・ダウン設定手順

* 下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

1. 機能を有効にする；

[ACT/INH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左側に回して "INH" から "ACT" の点滅表示とし、EDIT ボタンを押します。

2. スイッチの設定；

[SWITCH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ設定画面を呼び出し、スイッチおよび ON 方向を選択してください。

(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

3. オフセット・レート設定；

[OFFSET] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してアイドル・ダウン操作時のサーボのオフセット・レートを調整します。

初期値：0%

調整範囲：0%～100%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 最スロー付近が最大のオフセット量となります。

* 調整時、EDIT ボタンを長押し (1 秒間) すると初期値にリセットされます。

このスワッシュ・リング機能は、エルロンとエレベータの同時操作によるスワッシュ・リングの破損を防ぐため、スワッシュ動作量を一定範囲に制限する機能です。舵角を大きく取る3D演技などに有効です。

- リンケージ・メニューで [SWASH RING] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* 機能を "ACT" にすると、スワッシュ・リングおよび [RATE] の項目が表示されます。

S1 ボタン
<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

EDIT ダイアル
<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

EDIT ボタン

* 動作範囲表示エリア
上下方向がエレベータ、左右方向がエルロンの操作量を示します。

* マーカーがスティックの位置を表しています。

スワッシュ・リング設定手順

* 下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

1. 機能を有効にする；

[ACT/INH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左側に回して "INH" から "ACT" の点滅表示とし、EDIT ボタンを押します。

* スワッシュリング機能が有効となり、動作範囲表示エリアに円が表示されます。スティックの動作は、この円の範囲内に制限されます。

2. スワッシュ動作量の設定

[RATE] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して、動作量を調整します。

調整範囲：50～200%

初期値：100%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* レートはスワッシュの傾き最大量に調整してください。

* 調整時、EDIT ボタンを長押し(1秒間)すると初期値にリセットされます。

(スワッシュ・タイプ H-1 の場合はこのスワッシュ設定画面は現れません。)

ニュートラル・ポイント [NEUTRAL POINT]

リンクージ時にサーボ・ホーンニュートラル位置がずれていると、リンクージ補正機能が有効に働きません。このニュートラル・ポイントの設定で、リンクージ補正のニュートラル位置を読み込みます。ただし、この調整はスワッシュ設定の補正機能の基準点を変更するだけであって、他の機能のニュートラル位置に影響を与えるものではありません。

*補正機能を使用する前に、このニュートラル・ポイントを設定してください。

スワッシュ AFR [SWASH AFR]

スワッシュ AFR は、エルロン、エレベータ、ピッチのレート（移動量）を調整する（減らす／増やす／反転する）機能です。

ミキシング・レート [MIXING RATE]

(通常は初期値のままで使用します)

このミキシング・レートは、エルロン、エレベータ、ピッチの各操作毎に、スワッシュ・プレートが正しい方向に動作するように補正する機能です。

次のような補正ミキシングが可能です。

* PIT → AIL / PIT → ELE / AIL → PIT / ELE → AIL / ELE → PIT (HR3 の場合)

ただし、スワッシュ・タイプにより補正ミキシングが異なります。

*対応する補正ミキシングを使って、正しい方向に動作するよう補正してください。

リンクージ補正 [LINKAGE COMPENSATION]

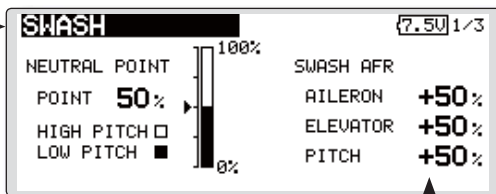
この補正ミキシングは、スロットル・スティックが、スローまたはハイ時にエルロンまたはエレベータ操作を行ったときに発生する、相互干渉を補正する機能です。

スピード補正 [SPEED COMPENSATION]

このスピード補正は、スワッシュ・プレートの動作時、各サーボの動作量が異なるときに発生する相互干渉を補正する機能です。HR-3 の場合、エレベータ操作時に、エルロン、ピッチ・サーボの動作スピードを落として補正します。

- リンクージ・メニューで [SWASH] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。
<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

●+、-で動作方向が変わります。

*下記の各設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

ニュートラル・ポイント [NEUTRAL POINT] 設定手順

補正の基準点となります。

*ニュートラル・ポイントがほぼ 50% の位置になるようにサーボホーンで合わせたほうがミキシング量が少なく済みます。

1. ニュートラル・ポイントの設定

[POINT] の項目にカーソルを移動し、サーボ・ホーンがリンクージ・ロッドと直角になるようにピッチ操作を保持した状態で、EDIT ボタンを 1 秒間押してニュート

ラル・ポイントを読み込みます。

*ニュートラル・ポイントはバーグラフでも表示されます。

このニュートラル・ポイントの読み込みが終わってから、その他の補正機能を使って調整してください。

スワッシュ AFR [SWASH AFR] 設定手順

エルロン [AILERON]、エレベータ [ELEVATOR]、ピッチ [PITCH] の各操作で規定操作量となるように調整します。

1. 設定したい操作の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
2. ダイアルを左右に回して、AFR レートを調整してくだ

さい。

初期値：+50%

調整レンジ：-100%～+100%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*調整時、EDIT ボタンを1秒間押しと初期値にリセットされます。

ミキシング・レート [MIXING RATE] 設定手順

HR-3 を例に説明します。他のスワッシュ・モードでもかかるミキシングは異なりますが設定手順は同様です。

MIXING RATE		MIXING	
PIT→AIL	100% 100%	AIL→PIT	100% 100%
PIT→ELE	100% 100%	ELE→AIL	50% 50%
		ELE→PIT	50% 50%

予め設定したニュートラル・ポイントにスロットル・スティックを合わせます。この位置でスワッシュ・プレートが水平となるように、リンケージ・ロッドの長さを調整します。

*わずかな調整はサブトリムを使っても良いでしょう。

*ピッチカーブは直線で最大ピッチ動作状態としてください。

下記の各操作に対応する項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えてから、それぞれ調整を行ってください。

各項目の調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

1. エルロン操作時の調整 [AIL → PIT]

エルロン・スティックを左右に振ったとき、エレベータまたはピッチ方向に干渉しないよう、AIL → PIT 量を調整します。

*ダイヤルを左右に回して調整します。

*左右個別に調整できます。

2. エレベータ操作時の調整 [ELE → AIL]/[ELE → PIT]

エレベータ・スティックをアップ、ダウンに振ったとき、エルロンまたはピッチ方向に干渉しないよう、ELE → AIL、ELE → PIT 量を調整します。

*ダイヤルを左右に回して調整します。

*アップ、ダウン個別に調整できます。

3. ピッチ操作時の調整 [PIT → AIL]/[PIT → ELE]

スロットル・スティックを、最スロー、フル・ハイと動かしたとき、スワッシュ・プレートが水平に動くように、PIT → AIL、PIT → ELE 量を調整します。

*ダイヤルを左右に回して調整します。

*スロー、ハイ側個別に調整できます。

リンケージ補正 [LINKAGE COMPENSATION]

設定手順

*ミキシング・レートの設定を終了してから行います。

*集合ピッチ (HR3 等) ・コントロール時の Low ピッチ時および Hi ピッチ時にエルロン操作がエレベータに干渉する、またエレベータ操作がピッチに干渉するのを補正します。

LINKAGE COMPENSATION		LOW PITCH	
FUNCTION	DIR.	←→	↔
AILERON	+	0%	0%
ELEVATOR	+	0%	0%
SPEED COMPENSATION		0	

下記の各操作に対応する項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えてから、それぞれ調整を行ってください。

各項目の調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

1. エルロン操作時の補正 [AILERON]

スロットル位置を最スロー位置にします。エルロン・スティックを左右に動かし、そのとき、エレベータまたはピッチ方向の干渉が最小となるように、エルロン補正量を調整します。

*ダイヤルを左右に回して調整します。

*左右個別に調整できます。

*補正量を増やしたとき、干渉が増える場合は、補正方向 [DIR] を " - " としてください。

2. エレベータ操作時の補正 [ELEVATOR]

同様にエレベータ・スティックをアップ、ダウンに動かしたとき、ピッチ方向の干渉が最小となるように、エレベータ補正量を調整します。

3. 上記 1～2 について、スロットル・スティックのフル・ハイ側についても、同様にエルロン、エレベータの補正を行います。

スピード補正 [SPEED COMPENSATION] 設定手順

1. "SPEED COMPENSATION" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

スロットル・スティックをニュートラル・ポイント位置にします。エレベータ・スティックをすばやく動かし、ピッチ方向への干渉が最小となるように、スピード補正量 [SPEED COMPENSATION] を調整します。

*ダイヤルを左右に回して調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

注意

- リンケージが突っ張った状態や、伸び切った状態では、正常な補正はかけられません。リンケージに余裕を持たせた状態で補正を行ってください。
- 補正後のピッチ角度は変化します。実際の飛行時のピッチ角度設定は、補正処理を終了してから再設定してください。

タイマー [TIMER]

このタイマー機能は、飛行時間、競技用の特定の時間など様々なタイマーとして使用可能です。それぞれ独立した2種類のタイマーが設定できます。

これらのタイマーはモデルごとに独立した機能で、モデルを変更した場合には、その新たなモデルに対応したタイマーが自動的に呼び出されます。

*タイマーは、スイッチやスティックなどの操作でスタートさせたりストップさせたりすることができます。ONとOFFの方向も自由に設定できます。タイマーはそれぞれ59分59秒まで設定できます。

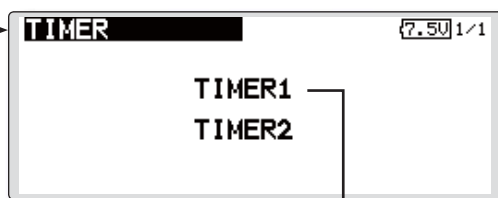
*設定時間に対してアップタイマーまたはダウンタイ

マーのどちらにでも設定できます。

*設定時間になるとブザーで知らせます。ダウン・タイマーの場合は、設定時間に対して20秒前から短いピープ音(1回)が鳴りはじめ、10秒前になると短いピープ音(2回)に変化します。設定タイムになると長いピープ音が鳴ります。その後もタイマーは計測を続け、表示にはマイナス記号が表示されます。アップタイマーの場合も設定時間の20秒、10秒、設定タイムと同様にピープ音が鳴ります。タイマー・スイッチがOFFになるまでカウントは引き続き行われます。

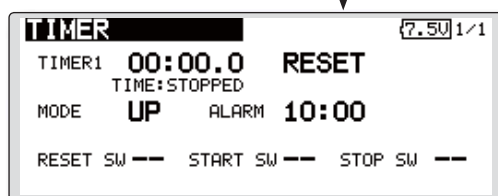
- リンケージ・メニューで[TIMER]を選択し、EDITボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDITボタンを押します。



<ホーム画面へ戻る>
S1ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDITダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- EDITダイヤルで[TIMER1]または[TIMER2]を選択し、EDITボタンを押して設定画面を呼び出します。

タイマーの設定

*下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

1. アップ・タイマー/ダウン・タイマーの選択

[MODE]の項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してモードを選択し、EDITボタンを押します。

[UP]: アップタイマー

[DOWN]: ダウンタイマー

2. タイマー時間設定

[ALARM]の[10]:[00]の設定したい項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して時間を設定します。

[10]:[00]: [分]:[秒]

設定後、EDITボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

3. スイッチの設定;

設定したいスイッチの項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してスイッチ設定画面を呼び出し、スイッチおよびON方向を選択してください。

(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

[RESET SW]: リセット・スイッチ

[START SW]: スタート・スイッチ

[STOP SW]: ストップ・スイッチ

タイマー操作

- タイマー1、タイマー2のスタート/ストップは、事前に設定されたスタート/ストップ・スイッチで操作します。
- タイマーをリセットするには、予め設定したりセット・スイッチを操作するか、タイマー画面上的[RESET]表示にカーソルを移動し、EDITボタンを押してください。

トリム設定 [T1-T6 SETTING]

デジタル・トリムの動作ステップ量および動作モード（コンビネーション／セパレート）の設定が可能です。

動作モード：

- コンビネーション・モード（COMB.）
トリム・データがコンビネーション・モードに設定された全てのコンディションに反映されるモード。
- セパレート・モード（SEPAR.）
フライト・コンディション毎のトリム調整としたい場合にこのモードを使用します。（コンディション毎に独立した設定が可能です。）

- リンケージ・メニューで [T1-T6 SETTING] を選択し、**EDIT** ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る> → 機能名にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押します。

STEP		MODE	STEP		MODE
T1	4	COMB.	T4	4	COMB.
T2	4	COMB.	T5	4	COMB.
T3	4	COMB.	T6	4	COMB.

S1 ボタン
EDIT ダイヤル
EDIT ボタン

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル（反転表示）を移動します。

動作ステップ量の設定

1. 変更したいトリムの [STEP] の項目にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して設定します。

初期値：4

調整範囲：1～200

調整後、**EDIT** ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

- * 数値を大きくすると1ステップあたりの変化が大きくなります。

- * 調整時、**EDIT** ボタンを1秒間押すと初期値にリセットされます。

セパレート／コンビネーション・モードの選択

1. 変更したいトリムの [SEPA./COMB.] の項目にカーソルを移動し、**EDIT** ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して、モード表示を変更し（点滅表示）、**EDIT** ボタンを押します。

[COMB.]：コンビネーション・モード。トリム・データがコンビネーション・モードに設定されている全てのフライト・コンディションに反映される。

[SEPAR.]：セパレート・モード。フライト・コンディション毎のトリム調整となる。

データ・リセット [DATA RESET]

使用中のモデル・メモリーの設定データを項目別にリセットすることが可能です。

T1～T6：

デジタル・トリムの調整量をリセットします。

*全てのコンディションまたは表示中(グループ設定の場合、グループ全体)のコンディションを選択できます。

*トリムのステップ量、レートはリセットされません。

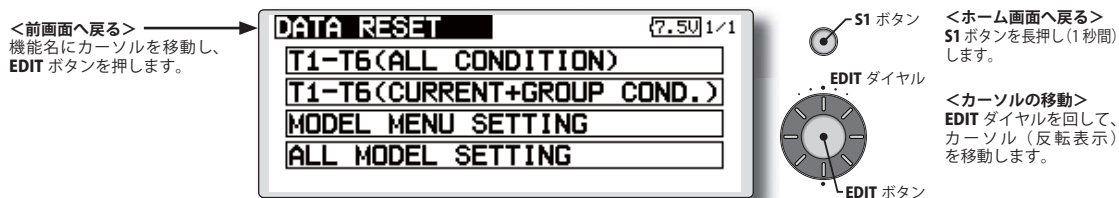
モデル・メニューのデータ：

コンディション選択機能を除くモデル・メニュー内の全ての機能をリセットします。

全てのモデル設定データ：

周波数、モデル・セレクト、およびモデル・タイプ機能を除くリンケージ・メニューとモデル・メニュー内の全ての機能をリセットします。

- リンケージ・メニューで [DATA RESET] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



データ・リセットの方法

1. リセットしたい項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

*確認メッセージが現れます。

2. 再度 EDIT ボタンを押してリセットを実行します。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

[T1-T6 (ALL CONDITION)]：T1-T6 (全てのコンディション) のデータのみリセット。

[T1-T6 (CURRENT+GROUP COND.)]：T1-T6 (使用中のコンディション。グループ設定の場合は全体。) のデータのみリセット。

[MODEL MENU SETTING]：コンディション選択機能を除くモデル・メニュー内の全ての機能をリセット。

[ALL MODEL SETTING]：周波数、モデル・セレクト、およびモデル・タイプ機能を除くリンケージ・メニューとモデル・メニュー内の全ての機能をリセット

エンジンをかけた状態でアイドル・アップ等の調整をするときにエンジンがふけ上らないようにスロットルを固定する場合に使用します。調整が終わり次第、必ず機能を [INH] にしてください。

- ノーマルのコンディションでスロットル・スティックが 1/3 よりスロー側にある場合に ON/OFF 操作が可能で、そのときのスティック位置にスロットル・サーボが固定されます。スティックが 1/3 を超えている場合およびノーマルのコンディション以外の場合は ON/OFF 操作ができません。
- 機能動作中はアラーム音が鳴ります。
- ヘリ・タイプの場合のホーム画面、リンケージ・メニュー、モデル・メニューで操作が可能です。

コンディション・ホールド機能の ON/OFF 操作

* コンディション・ホールドの ON/OFF 操作は、ノーマルのコンディションで、且つスロットル・スティックが 1/3 よりスロー側にある場合に ON/OFF 操作が可能です。ON 操作時のスティック位置にスロットル・サーボが固定されます。

● ホーム画面の場合の ON/OFF 操作

上記の条件で、画面左下の [CND HOLD] 表示にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

機能動作時、[CND HOLD] 表示の右に "IS ON" の文字が現れます。

* S1 ボタンを押すと [CND HOLD] に直接移動可能です。

● リンケージ・メニュー／モデル・メニューの場合の ON/OFF 操作

上記の条件で、メニューの [COND. HOLD] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

メニュー下部に動作表示されます。

動作中："COND. HOLD IS ON" が表示される。

機能 OFF 時："COND. HOLD IS OFF" が表示される。

モデル・メニュー機能（共通） [MODEL MENU] [全モデル・タイプ]

このモデル・メニュー機能（共通）のセクションでは、AFR 機能、プログラム・ミキシング等の全モデル・タイプに共通の機能を説明します。

モデル・データを設定する前に、予め、リンクページ・メニューのモデル・タイプ選択機能で、使用する機体に合わせて、モデル・タイプを選択してください。

注意：後から別のモデルタイプを選択し直すと、AFR、プログラム・ミキシング等設定したデータがリセットされてしまいます。

モデル・メニュー内の機能はフライト・コンディション毎の設定が可能です。スイッチやスティックのポジション等でコンディション毎の設定を切り

替えて使用したい場合は、コンディション選択機能でフライト・コンディションを追加してください。（最大 8 コンディション迄使用可能）

注意：なお、この T12FG の場合、飛行機およびグライダー（EP グライダー含む）のモデル・タイプについては、同様の主翼タイプの機体に対応できるように設計されています。

一部の専用機能を除いて、飛行機およびグライダーに共通の機能については、モデル・タイプに関係なく、まとめて説明してあります。

また、使用する主翼タイプによって、サーボ数などの違いにより設定項目が異なりますが、読み替えてください。取扱説明書の設定画面は代表例を使用しています。

- ホーム画面に表示された [MODEL] を選択し EDIT ボタンを押して下記のメニューを呼び出します。
- 設定したい機能を選択し、EDIT ボタンを押して設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

MODEL MENU	CONDIT1	7.5U 1/3
SERVO MONITOR	PROG. MIXES	
COND. SELECT	AIL DIFF.	
AFR	FLAP SETTING	
DUAL RATE	AIL+CAMB.FLP	

MODEL MENU	CONDIT1	7.5U 2/3
AIL+BRAKEFLP	ELE+CAMBER	
AIL+RUD	CAMB.FLP+ELE	
AIRBRAKE+ELE	RUD+AIL	
CAMBER MIX	RUD+ELE	

MODEL MENU	CONDIT1	7.5U 3/3
SNAP ROLL	MOTOR	
AIRBRAKE		
GYRO		
AILEVATOR		



<ページの移動>

S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

(モデル・メニュー画面例)

*モデル・タイプにより異なります。この画面はモデル・タイプ 4AIL+4FLP の画面です。

[SERVO MONITOR] サーボ・モニタ

サーボ・テストおよびサーボ・ポジションの表示。（機能説明はリンクージ・メニューを参照してください。）

【全モデルタイプ】

[COND. SELECT] コンディション選択

フライト・コンディションの追加、削除、コピー、コンディション名の変更、およびコンディション・ディレーの設定。

【全モデルタイプ】

[AFR] AFR 機能

操作ファンクションの舵角およびカーブの設定。

【全モデルタイプ】

[DUAL RATE] デュアル・レート機能

スイッチ等で切替可能な D/R カーブの追加。

【全モデルタイプ】

[PROG. MIXES] プログラム・ミキシング

自由にカスタマイズが可能なプログラム・ミキシング。コンディション毎に 10 系統使用可能。

【全モデルタイプ】

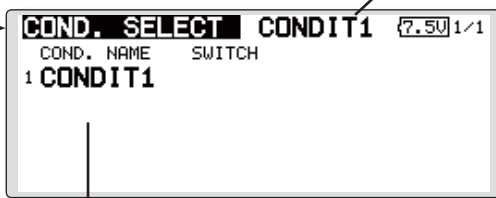
このコンディション選択機能でフライト・コンディションを追加することにより、モデル・メニュー内の機能は、最大8つ迄のフライト・コンディションの設定を切り替えて使用できます。必要によりコンディションを追加してください。

このコンディション切替機能を使用しない場合は特にここでの設定は必要ありません。この場合、初期設定で既に割付けられているフライト・コンディションが使用されます。

- フライト・コンディションの切替スイッチとしては通常のトグルスイッチの他、スティックやレバーの位置等での切替も可能なため、様々な操作に連動させることが可能。

- モデル・メニューで[COND. SELECT]を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



(現在選択されているコンディション名)



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

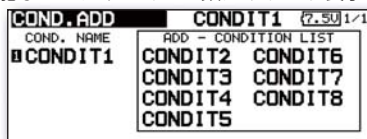
<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

(コンディション・リスト)

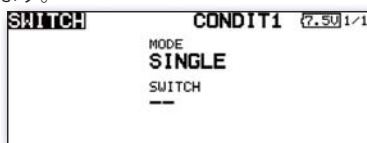
* 下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動してから行います。

コンディションの追加 [ADD]

1. コンディション・リストの何れかのコンディションにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。
2. カーソルを[ADD]に移動し、EDIT ボタンを押します。
*追加可能なコンディションの数だけリスト表示されます。



3. 追加したいコンディション名を選択し、EDIT ボタンを押してコンディションを追加します。
EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
4. 追加したコンディションの[SWITCH]の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、スイッチ設定画面を呼び出します。



[SWITCH]の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、スイッチ選択画面を表示させ、コンディションの切替に使用するスイッチおよびON方向を選択してくだ

- コンディション・ディレイ機能を設定可能。コンディション切替時のサーボ位置の急激な変化やチャンネル間で動作時間にバラツキがある場合等に発生する機体の不要な挙動を抑えることができます。チャンネル毎にディレイが設定できます。

切替先のコンディションでディレイ機能が設定されている場合に、関連するファンクションは、その設定量に対応する時間をかけてなめらかに変化します。

- コンディションを複数設定した場合、動作の優先順を自由に変更できます。
- コンディションの名前を変更できます。選択されているコンディション名が画面に表示されます。コンディションを追加したら確認しやすい名前をつけてください。

さい。
(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)
ロジック・スイッチを使用する場合、[MODE]の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ変更モードとします。ダイヤルを左に回して[LOGIC]を選択後、EDIT ボタンを押して、ロジック・スイッチ設定画面を表示させ、スイッチおよびロジック・モードを選択してください。
(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

*追加されたコンディションには現在使用中のコンディションのデータ(コンディション名は除く)がコピーされます。

コンディションの削除 [REMOVE]

1. コンディション・リスト中の削除したいコンディションに移動しEDIT ボタンを押します。
*コンディション名の前の数字が反転表示に切り替わり、操作対象のコンディションであることを示します。
2. [REMOVE]にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。
*確認メッセージが表示されます。
3. 再度 EDIT ボタンを押すと、コンディションが削除されます。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)
4. EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

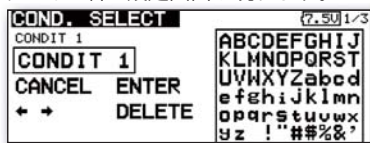
コンディション名の変更 [RENAME]

1. コンディション・リスト中の変更したいコンディションにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* コンディション名の前の数字が反転表示に切り替わり、操作対象のコンディションであることを示します。

2. [RENAME] に移動し、EDIT ボタンを押します。

* コンディション名の設定画面が現れます。



3. 下記の操作方法により、コンディション名を変更してください。

・入力ボックス内のカーソル移動：

[←]または[→]を選択しEDIT ボタンを押します。

・文字の消去：

[DELETE] を選択しEDIT ボタンを押すと、カーソル直後の文字が消去されます。

・文字の追加：

文字リストから候補文字を選択しEDIT ボタンを押すと、カーソル直後の位置に文字が追加されます。

* モデル名として8文字までの名前を付けることができます。(スペースも1文字に数える)

4. 入力が完了したら [ENTER] を選択しEDIT ボタンを押します。(入力を途中で止めて元の状態に戻りたい場合は、[CANCEL] を選択しEDIT ボタンを押します。)

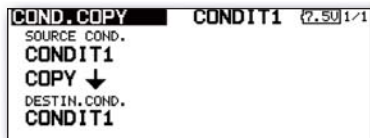
5. 画面上段の [COND. SELECT] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して前の画面に戻り、再度 EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに戻ります。

コンディションのコピー [COPY]

1. コンディション・リストの何れかのコンディションにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

2. [COPY] にカーソルを移動しEDIT ボタンを押します。

* コピー画面が現れます。



3. "SOURCE COND." (コピー元) の項目にカーソルを移動しEDIT ボタンを押します。

* 画面右に既に保存されているモデルが表示されます。

4. コピー元となるコンディションに移動した後、EDIT ボタンを押します。

* "SOURCE COND." の位置に表示されます。

5. "DESTIN. COND." (コピー先) の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* 画面右に既に保存されているモデルが表示されます。

6. コピー先となるコンディションに移動した後、EDIT ボタンを押します。

* "DESTIN. COND." の位置に表示されます。

7. [COPY] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

コピーが実行されます。(中止する場合はダイヤルを回すか、S1 ボタンを押します。)

8. EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに戻ります。

優先順位の変更 [PRIORITY]

1. コンディション・リスト上の優先順位を変更したいコンディションにカーソルを移動しEDIT ボタンを押します。

2. [PRIORITY] の項目の [UP] または [DOWN] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

* [UP] の場合は1つ上に、[DOWN] の場合は1つ下に移動します。(最後尾のコンディションが優先順が最上位となります。)

* 初期設定のコンディションは移動できません。優先順は最下位です。

コンディション・ディレイの設定 [DELAY]

1. コンディション・リスト中の変更したいコンディションにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

2. [DELAY] に移動し、EDIT ボタンを押します。

* コンディション・ディレイ設定画面が現れます。

COND. DELAY	CONDIT1
CH FUNCTION DELAY GROUP	
CH1 ELEVATOR 0 GROUP	
CH2 RUDDER 0 GROUP	
CH3 THROTTLE 0 GROUP	
CH4 AILERON 0 GROUP	

3. 設定したいチャンネルの "DELAY" の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルでディレイ量を調整します。

初期値：0

調整範囲：0～27 (ディレイ量大)

4. EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

●設定モード(グループ [GROUP] / シングル [SINGLE] モード)の切替が可能 (詳細については巻末の説明を参照)

AFR 機能により CH1 ~ CH12 および VC1 ~ VC4 (バーチャルチャンネル) のチャンネルに設定されたファンクションの舵角および動作カーブをコンディション毎に調整できます。ミキシング機能動作時、この AFR 設定が加味されてミキシングがかかります。

予め、リンケージ・メニューのエンド・ポイント機能 [END POINT] で基本となる最大舵角を設定しておきます。実際の舵角はエンド・ポイントの設定を基準に動作します。

また、デュアル・レート機能を使用することにより、AFR カーブとは別に、スイッチやスティック・ポジションで切替可能な追加のカーブが設定できます。(カーブの追加はデュアル・レート機能で行います。)

- 動作カーブの調整: 3種類のカーブタイプ (EXP1、EXP2 および POINT) を選択できます。ポイント (POINT) カーブ・タイプの場合、最大 17 ポイントカーブが使用できます。(初期設定は 9 ポイント) また、ポイント数は増減が可能で、複雑なカーブからシンプルなカーブも使用可能。
- サーボ・スピードの調整: 各ファンクションの操作時 (フライトコンディションの切替時を含む)、ファンクションの動作スピードを調整できます。設定したスピード量に対応した一定のスピードでなめらかに動作します。

- モデル・メニューで [AFR] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

* 現在選択されているコンディション名

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

AFR (ELE) CONDIT1 7.50 1/2

+150	MODE	EXP 1	OFFSET	AFR
+100	RATE A	+100.0	+0.0	
+50	RATE B	+100.0	+100.0	
0	EXP A	+0.0	+0.0	
-50	EXP B	+0.0	+0.0	
-100				
-150	POS	+0.0	RATE	+0.0

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し (1 秒間) します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

●動作カーブの設定
カーブ設定方法については巻末の説明を参照してください。

[AFR/D/R]: D/R が設定されている場合、現在選択されているレート表示に切り替わります。

●ファンクションの選択

●サーボ・スピードの調整
調整方法については巻末の説明を参照してください。

●グループ/シングル・モードの設定 [GROUP/SINGLE]

* 現在選択されているファンクションに設定されている D/R カーブ No. が表示されます。動作中の D/R カーブ No. が反転表示されます。

AFR CONDIT1 7.50 2/2

+150	FUNC.	ELE	AFR
+100	SPEED	IN MODE	OUT
+50	GROUP	0 LIN.	0
0	ACTIVE	GROUP	
-50	D/R NO.		
-100			
-150			

ファンクションの選択方法

1. [FUNC.] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

ダイアルを回してファンクションを表示させ、EDIT ボタンを押して選択します。

- 設定モード (グループ [GROUP] / シングル [SINGLE] モード) の切替が可能 (詳細については巻末の説明を参照)

このデュアル・レート機能により、AFR カーブ以外の追加のカーブ (D/R) を各ファンクションに割り付けることができます。また、切替スイッチを設定します。

追加された D/R カーブのカーブ設定は AFR 機能設定画面で行います。

- D/R の設定は、各コンディション毎に 6 つまで設定できます。
- D/R は、各コンディション毎の設定で、他のコンディションには反映されません。
- D/R の優先順位はリスト上方が優先されます。

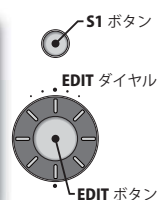
設定例

★スイッチを使って舵角の ON/OFF。また、同じスティックでコンディションを使って D/R を利用すると更にもう一つ違った舵角を設定することができます。

- モデル・メニューで [DUAL RATE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

DUAL RATE		CONDIT1		7.50 1/2
D/R NAME	STATUS	FUNCTION	SWITCH	
1 D/R 1	INH	AILERON	---	
2 D/R 2	INH	AILERON	---	
3 D/R 3	INH	AILERON	---	
4 D/R 4	INH	AILERON	---	



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

デュアル・レートの設定

1. まだ使用されていない D/R の [INH] 表示にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
2. データ入力ダイヤルを左に回して [OFF] とし、EDIT ボタンを押して D/R を有効にします。
3. [FUNCTION] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
4. ダイアルを回して追加したいファンクションを選択し、EDIT ボタンを押します。

- *選択したファンクションに D/R が割り当てられます。
5. [SWITCH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ設定画面を呼び出し、スイッチおよび ON 方向を選択してください。
(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

このプログラム・ミキシングはコンディション毎に10系統使用可能で、機体のクセ取りのほか、様々な用途に応用が可能です。

- リンク機能：他のミキシングとのリンク設定が可能。マスターチャンネルおよびスレーブチャンネル個別にリンク設定が可能。また、リンクの極性を反転することも可能。
- トリムモード：トリムモードのON/OFFが可能。
- スレーブチャンネル AFR モード (STK → STK) を使用可能。スレーブチャンネルのリンク機能設定時、AFR 機能 (D/R 機能) 設定を加味することが可能。
- 微調整トリムの設定が可能。

- サーボ動作スピードの設定が可能
- ミキシング ON/OFF 動作のディレー設定が可能。
- ミキシングカーブの調整：3種類のカーブ・タイプ (EXP1、EXP2 および POINT) を選択できます。ポイント (POINT) のカーブ・タイプの場合、最大17ポイント・カーブが使用できます。(初期設定は9ポイント) また、ポイント数は増減が可能で、複雑なカーブからシンプルなカーブも使用可能。

- モデル・メニューで [PROG. MIXES] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

PROG. MIXES		CONDIT1	7.50 1/3
MIXING	MODE	GROUP	
1 INHIBIT	MIXING	GROUP	
2 INHIBIT	MIXING	GROUP	
3 INHIBIT	MIXING	GROUP	
4 INHIBIT	MIXING	GROUP	



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

ミキシング設定画面の呼び出し

- 機能を有効にしたいミキシング No. にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して設定画面を呼び出します。
*機能を有効にすると、マスター、スレーブの CH 名が表示されます。

- 設定モード (グループ [GROUP] / シングル [SINGLE] モード) の切替が可能 (詳細については巻末の説明を参照)

*現在選択されているコンディション名

*現在設定中のプログラム・ミキシング No. を表示します。

PROG. MIX 1		CONDIT1	7.50 1/3
MODE	OFFSET	INH	
EXP 1	+0.0		
RATE A	+0.0		
EXP A	+0.0		
RATE B	+0.0		
EXP B	+0.0		
POS	+0.0	RATE	+0.0

*ミキシング動作表示
INH/OFF/ON

- 動作カーブの設定
カーブ設定方法については巻末の説明を参照してください。

- マスター CH
- スレーブ CH

PROG. MIX 1		CONDIT1	7.50 2/3
FUNCTION, H/W	LINK	MODE	
MASTER AILERON	OFF	TRIM OFF	
SLAVE ELEVATOR	OFF	STK OFF	
	OFF	→STK OFF	
CTRL	RATE(%)		
FINE TUNING --	+0 (< +0)		

- トリム・モードの設定
- スレーブ・チャンネル AFR モードの設定
- リンクの設定

- 微調整トリムの設定
(設定方法については巻末の説明を参照)

- 機能の ON/OFF
- スイッチの選択 (スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

PROG. MIX 1		CONDIT1	7.50 3/3
STATUS	INH	SPEED	IN MODE OUT
SWITCH	--	MASTER	SLAVE
		START	STOP
		DELAY	0.0s 0.0s

- サーボ・スピードの設定
設定方法については巻末の説明「サーボ・スピードの設定 (その2)」を参照してください。

- ディレーの設定

設定方法

* 下記の設定はカーソルを設定したい項目に移動して行います。

●グループ / シングル・モードの選択

1. 選択中のコンディションのみに機能を有効にしたい場合は最初の画面で、[GROUP]の項目にカーソルを移動します。

2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えて、ダイヤルを左に回して[SINGLE]の点滅状態とし、EDIT ボタンを押します。

* シングル・モード [SINGLE] に変更されます。

* 各コンディションで共通の設定を使用する場合は [GROUP] を選択しておきます。

●機能を有効にする

1. 最初の画面で、まだ使用していないミキシング No. の [INHIBIT] にカーソルを移動し EDIT ボタンを押します。

* ミキシング設定画面が表示されます。

2. S1 ボタンを押して、3/3 ページ目を表示させます。

3. [STATUS] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

4. ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅状態とし、EDIT ボタンを押します。

* 機能が有効となります。

* 機能を有効にしても、ON/OFF スイッチやレートが設定されていないため、このままでは動作しません。

●ON/OFF スイッチの設定

[SWITCH] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してスイッチ設定画面を呼び出し、スイッチおよび ON 方向を選択してください。

(選択方法の詳細は巻末の「スイッチ設定方法」を参照)

* [-] に設定した場合は常時 ON となります。

●マスター・チャンネルの設定

1. 2/3 ページ目の [MASTER] の [FUNCTION.H/W] の項目に移動して、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してファンクション選択し、EDIT ボタンを押します。

2. このミキシングを他のミキシングとリンクさせたい場合は、[LINK] の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してリンク・モードを [+], または [-] を選択し、EDIT ボタンを押します。(+, - はリンクされる CH の極性を変えることができます。)

* 極性は実際の動作で確認してください。

* マスター・チャンネルのコントロールを ATV、AFR、D/R、ミキシング設定等を含まないスティック、ボリューム等の単純動作量に設定することができます。この場合、ファンクションの選択で、"H/W" を選択した状態で EDIT ボタンを押してスイッチ設定画面を表示させます。マスター・チャンネル側のコントロールを選択してください。なお、H/W の選択から通常のファンクションの選択に戻りたいときは、H/W 選択画面で [-] を選択して EDIT ボタンを押してください。

●スレーブ・チャンネルの設定

1. [SLAVE] の [FUNCTION.H/W] の項目に移動して、EDIT

ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してファンクションを選択し、EDIT ボタンを押します。

2. このミキシングを他のミキシングとリンクさせたい場合は、[LINK] の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してリンク・モードを [+], または [-] を選択し、EDIT ボタンを押します。

* 極性は実際の動作で確認してください。

●トリム・モードの ON/OFF 設定

1. トリム・モードを変更する場合は、[TRIM] の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して ON/OFF を選択し、EDIT ボタンを押して設定します。

* マスター側のトリムを含めてミキシングする場合は [ON] に、含めない場合は [OFF] に設定します。

* マスター・チャンネルにファンクションが設定している場合に有効。

●スレーブ・チャンネル AFR モードの設定 (STK → STK)

1. [STK>STK] の項目に移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してモードを選択し、EDIT ボタンを押してモードを変更します。

* スレーブ側にリンクを設定している場合に、AFR (D/R) を加味したミキシング量にしたい場合は [ON] に設定します。

●ミキシング・カーブの設定

(カーブの設定方法については巻末の説明を参照)

●微調整ボリュームの設定

* [FINE TUNING] の項目で操作コントロール [CTRL]、動作モード [MODE]、レート [RATE] の調整が可能です。

(微調整ボリューム設定方法については巻末の説明を参照)

●サーボ・スピードの設定

* [SPEED] の項目でファンクション操作時のスピードを調整できます。

(サーボ・スピードの設定方法については巻末の説明を参照。「サーボ・スピードの設定」)

●ミキシング ON/OFF 動作のディレイ設定

* [DELAY] の項目でミキシング・スイッチ ON 時 ([START]) および OFF 時 ([STOP]) のミキシング動作を遅らせることが可能です。(スイッチが設定されている場合)

1. [START] または [STOP] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。(枠付き表示に切り替わります。)

2. ダイヤルを左右に回して、スイッチ ON 時または OFF 時のミキシング動作の遅延時間を設定します。

初期設定: 0.0 sec

設定レンジ: 0 から 4 sec

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 調整時、EDIT ボタン長押し (1 秒間) で、初期値にリセットされます。

このモデル・メニュー機能（飛行機、グライダー）のセクションでは、飛行機またはグライダーのモデル・タイプが選択されている場合に使用可能な専用ミキシング等を説明します。

予め、リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能で使用する機体に合わせて、モデル・タイプ、主翼タイプ、および尾翼タイプをまず始めに設定してください。

注意：後から別のモデルタイプを選択し直すと、ミキシング機能等で設定したデータがリセットされてしまいます。

これらの専用ミキシングは必要によりフライト・コンディション毎の設定が可能です。スイッチやスティックのポジション等でコンディション毎の設

定を切り替えて使用したい場合は、コンディション選択機能でフライト・コンディションを追加してください。（最大8コンディション迄使用可能）

注意：なお、このT12FGの場合、飛行機およびグライダーのモデル・タイプについては、同様の主翼タイプの機体に対応できるように設計されています。

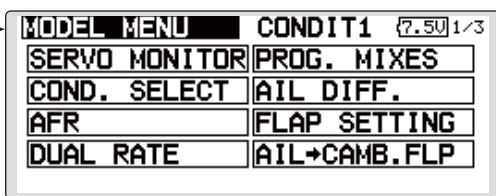
一部の専用機能を除いて、飛行機およびグライダーに共通の機能については、モデル・タイプに関係なくまとめて説明してあります。

また、使用する主翼タイプによって、サーボ数などの違いにより設定項目が異なりますが、読み替えてください。取扱説明書の設定画面は代表例を使用しています。

- ホーム画面に表示された [MODEL] を選択して下記のメニューを呼び出します。
- 設定したい機能にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して設定画面を呼び出します。

（表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。）

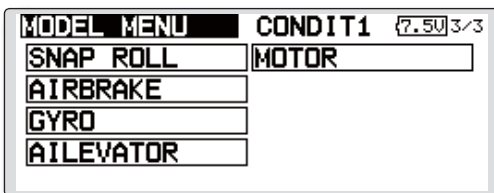
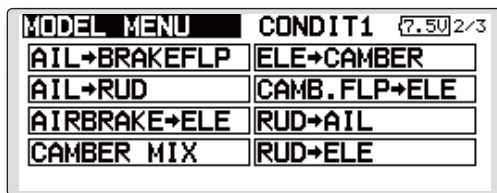
<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



モデル・メニュー機能一覧

* 【 】内は対応モデルを示します。

[AIL DIFF.] エルロン・ディファレンシャル

左右エルロンの調整。ロール軸の補正、VR での微調整も可能でフライトしながらの設定に便利。

【飛行機/グライダー、2エルロン以上】

[FLAP SETTING] フラップ設定

各フラップを個別に調整できます。4フラップ機体の場合、キャンバー・フラップをブレーキ・フラップに連動可能。

【飛行機/グライダー、2フラップ以上】

[AIL → CAMB.FLP] エルロン→キャンバー FLP

キャンバーフラップをエルロンモードで動作させるミキシング。ロール軸の運動性能の改善。

【飛行機/グライダー、2エルロン+2フラップ以上】

[AIL → BRAKEFLP] エルロン→ブレーキ FLP

ブレーキフラップをエルロンモードで動作させるミキシング。ロール軸の運動性能の改善。

【飛行機/グライダー、4フラップ以上】

[AIL → RUD] エルロン→ラダー

エルロン操作にラダー動作を連動させたい場合に使用。浅いバンク角での旋回が可能。

【飛行機/グライダー、2エルロン+2フラップ以上】

[AIRBRAKE → ELE] エアブレーキ→ ELE

着陸時のエアブレーキ（スポイラー）操作の補正に使用。【飛行機/グライダー、全般】

[RUD → AIL] ラダー→エルロン

スタント機のロール系演技、ナイフ・エッジ等

のクセ取りに使用。【飛行機／グライダー、全般】

[CAMBER MIX] キャンバ・ミキシング

キャンバの調整およびエレベータでの補正。

【飛行機／グライダー、2エルロン以上】

[ELE → CAMBER] ELE → キャンバ FLP

エレベータ操作にキャンバを連動させたいときに使用。エレベータアップ時の揚力アップが可能。

【飛行機／グライダー、2エルロン2フラップ以上】

[CAMB.FLP → ELE] キャンバ FLP → ELE

キャンバフラップ使用時の姿勢変化の補正に使用。

【飛行機／グライダー、2エルロン+1フラップ以上】

[BUTTERFLY] バタフライ

強いブレーキ動作が必要なときに使用。

【グライダー、2エルロン以上】

[TRIM MIX 1/2] トリム・ミックス 1/2

エルロン、エレベータ、フラップについて、トリムのオフセット量をスイッチまたはコンディション選択で呼び出し可能。

【グライダー、2エルロン以上】

[AIRBRAKE] エアブレーキ

着陸または飛行中のダイブ等でエアブレーキが必要な場合に使用。【飛行機、全般】

[GYRO] ジャイロ

GYAシリーズジャイロ使用時の専用ミキシング。【飛行機／グライダー、全般】

[V-TAIL] Vテール

V尾翼機の場合のエレベータ、ラダー調整。

【飛行機／グライダー、Vテール仕様】

[AILEVATOR] エルベータ

エルベータ機の場合のエレベータ、エルロンの調整。【飛行機／グライダー、エルベータ仕様】

[WINGLET] ウイングレット

ウイングレット機の場合の左右ラダーの調整。【飛行機／グライダー、ウイングレット仕様】

[MOTOR] モーター

F5B等のEPグライダーでスイッチでモーターをスタートさせる場合の動作スピードの設定が可能。【EPグライダー、全般】

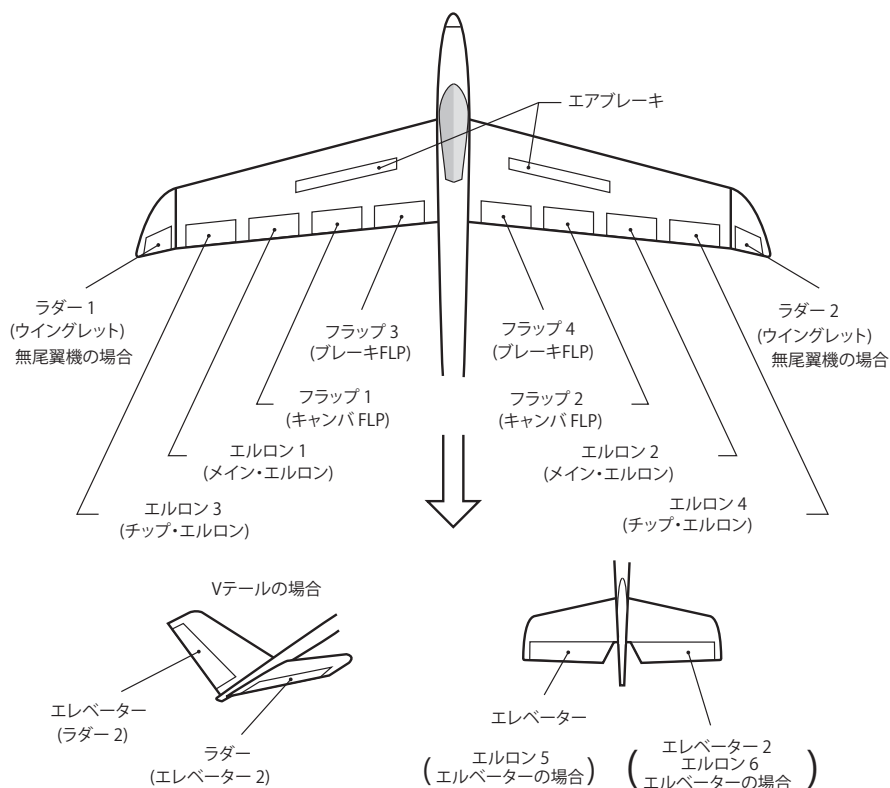
[RUD → ELE] ラダー→エレベータ

スタント機のロール系演技、ナイフ・エッジ等のクセ取りに使用。【飛行機、全般】

[SNAP ROLL] スナップ・ロール

スナップロールのスイッチ選択および各舵の舵角調整。更にサーボのスピード調整も可能。

【飛行機、全般】

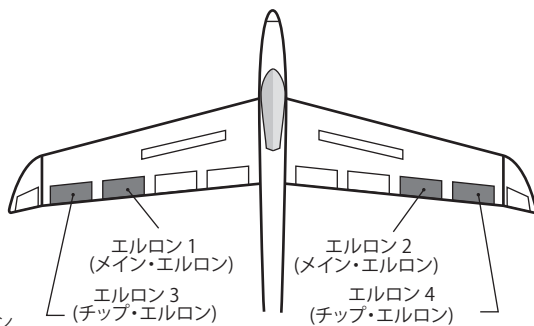


エルロン・ディファレンシャル [AIL DIFF.]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
2 エルロン以上

左右エルロンの差動調整を個別に行うことができます。また、微調整コントロールを設定することにより、飛行状態に応じて差動量を調整できます。

- 微調整のカーブが設定できます。



- モデル・メニューで [AIL DIFF.] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

●エルロン左右の調整

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

<前画面へ戻る> 機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

AIL DIFF.	CONDIT1	7.50	1/1
AILERON	LEFT	RIGHT	GROUP
AILERON2	100%	100%	GROUP
AILERON3	100%	100%	FINE TUNING
AILERON4	100%	100%	AIL-AFR

S1 ボタン <ホーム画面へ戻る> S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

EDIT ダイヤル <カーソルの移動> EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

EDIT ボタン

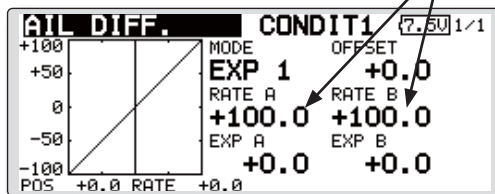
●微調整用コントロールの設定

●エルロン操作の AFR 調整をする場合に AFR 画面を直接呼び出せます。

●カーブ設定画面を表示させます。

- 微調整カーブの設定 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

*ボリューム等を設定することでグラフが動作します。



<ウイング・タイプ：4 エルロン画面>

*表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。

設定方法

- エルロン (AILERON) 1～4 の左 (または右) の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してスティック左 (または右) に切ったときの舵角をそれぞれ個別に調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*エルロン・ディファレンシャル設定画面からエルロン AFR 画面を直接呼び出すことができます。[AIL-AFR] にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押して呼び出します。

- 微調整用コントロールを設定する場合、[FINE TUNING] の設定項目 ([--]) にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出し、ダイヤルを回して調整用のコントロールを選択します。

選択後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

調整量はカーブ設定画面で設定できます。

[CURVE] にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してカーブ画面を呼び出します。

フラップ設定 [FLAP SETTING]

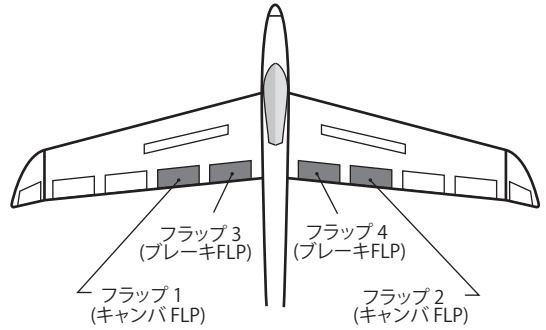
[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
2 フラップ以上

ウイング・タイプに応じて各フラップ (キャンバ・フラップ: FLP1/2、ブレーキ・フラップ: FLP3/4) のアップ/ダウンの動作量をサーボ毎に個別に調整できます。

- 各フラップの動作基準点の移動が可能

また、4 フラップ機体の場合、キャンバ・フラップをブレーキ・フラップに連動させることが可能です。(ブレーキ・フラップ→キャンバ・フラップ)

- ON/OFF スイッチを設定可能。



- モデル・メニューで [FLAP SETTING] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

(キャンバ・フラップ設定画面)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

FLAP SETTING CONDIT1 7.50 1/3

CAMBER FLAP INH

	FLP1	FLP2	
UP	+100%	+100%	GROUP GROUP
DOWN	+100%	+100%	
OFFSET	+0%	+0%	

S1 ボタン

EDIT ダイヤル

EDIT ボタン

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

(ブレーキ・フラップ設定画面)

●アップ側/ダウン側の調整

FLAP SETTING CONDIT1 7.50 2/3

BRAKE FLAP INH

	FLP3	FLP4	
UP	+100%	+100%	GROUP GROUP
DOWN	+100%	+100%	
OFFSET	+0%	+0%	

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

(ブレーキ・フラップ→キャンバ・フラップ設定画面)

FLAP SETTING CONDIT1 7.50 3/3

BRAKE FLAP → CAMBER FLAP

UP	+100%	ACT/INH	INH
DOWN	+100%	GROUP	GROUP
OFFSET	+0%	SWITCH	--

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- ウイング・タイプに応じてフラップ (FLP) 1~4 のアップ、ダウンの設定項目にカーソルを移動して、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作量を個別に調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 各フラップの動作基準点の移動は、対応する [OFFSET] 設定項目にカーソルを移動して、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルで基準点を移動してください。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- ブレーキ・フラップ→キャンバ・フラップを使用する

場合は、[ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。

スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出して、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)

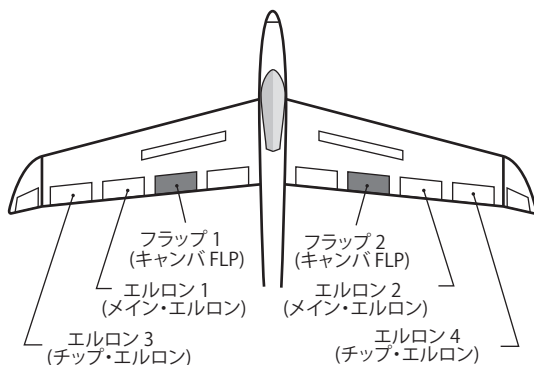
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

エルロン→キャンバ FLP [AIL → CAMB.FLP]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、2
エルロン+2フラップ以上

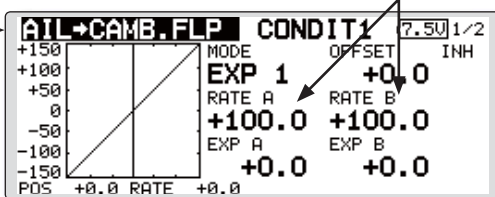
キャンバ・フラップ (FLP1/2) をエルロン・モードで動作させるミキシングです。エルロン・スティック操作時、エルロンとキャンバ・フラップが同時にエルロン動作し、ロール軸の運動性能が改善されます。

- フラップ・サーボ毎にエルロン左右のミキシング量を調整可能
- ミキシング・カーブが設定可能
- ON/OFF スイッチを設定可能。
- リンク設定可能：他のミキシングとリンクされます。



- モデル・メニューで [AIL → CAMB.FLP] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



- レート A、レート B で全体を調整

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

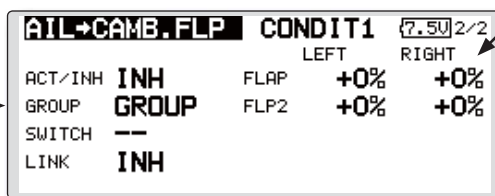
<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- フラップサーボ毎の調整



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON) (スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- フラップ・サーボ毎の左右の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルでミキシング量を調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* リンケージによりミキシング方向が逆の場合はミキシング量の極性を変えることにより調整可能。

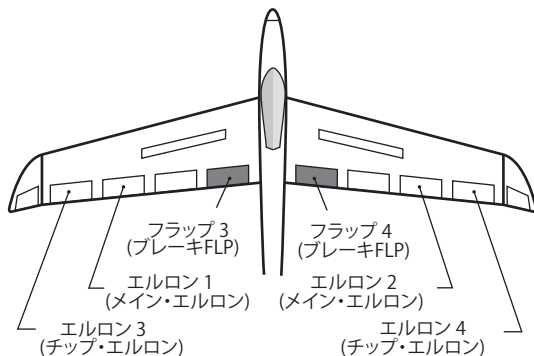
- ミキシング・カーブの設定が可能 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- リンクを設定する場合、[LINK] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ON] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押してリンクを ON にします。

エルロン→ブレーキ FLP [AIL → BRAKEFLP]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー、4フラップ以上

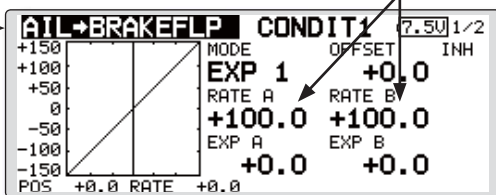
ブレーキ・フラップ (FLP3/4) をエルロン・モードで動作させるミキシングです。エルロン・スティック操作時、エルロンとブレーキ・フラップが同時にエルロン動作し、ロール軸の運動性能が改善されます。

- フラップ・サーボ毎にエルロン左右のミキシング量を調整可能
- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON)
- リンク設定可能：他のミキシングとリンクされます。



- モデル・メニューで [AIL → BRAKEFLP] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



- レート A、レート B で全体を調整

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

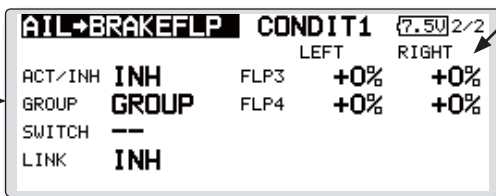
<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- フラップサーボ毎の調整



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON) (スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- フラップ・サーボ毎の左右の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルでミキシング量を調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* リンケージによりミキシング方向が逆の場合はミキシング量の極性を変えることにより調整可能。

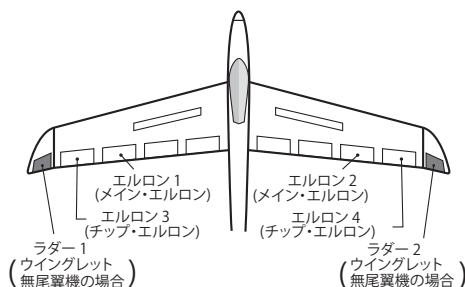
- ミキシング・カーブの設定が可能 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- リンクを設定する場合、[LINK] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ON] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押してリンクを ON にします。

エルロン→ラダー [AIL → RUD]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、全般

エルロン操作にラダー動作を連動させたい場合に使用します。浅いバンク角での旋回が可能となります。

- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON)
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能



- モデル・メニューで [AIL → RUD] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

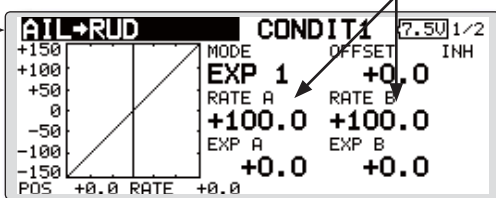
- レート A、レート B で全体を調整

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し (1 秒間) します。

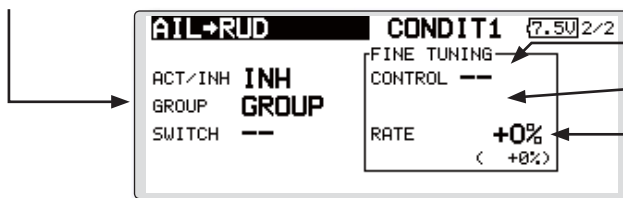
<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)



- 微調整ボリュームの設定 (ボリュームを選択すると、動作モードの設定項目が現れます。)

- 調整量の設定

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON) (スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。 (微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)
- ミキシング・カーブの設定が可能 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

[微調整ボリュームの動作モード]

- [LIN.]:
ボリュームのセンターでミキシング微調整量 0%。ボリュームを左右に回すとミキシング量が増減します。
- [ATL+]: ボリュームの左端または右端でミキシング微調整量 0%。ボリュームを回すとミキシング量が増えます。
- [ATL-]: [ATL+] の左右反転動作。
- [SYM.]:
ボリューム、ニュートラルで微調整量 0%。左右に回すとミキシング量が増えます。

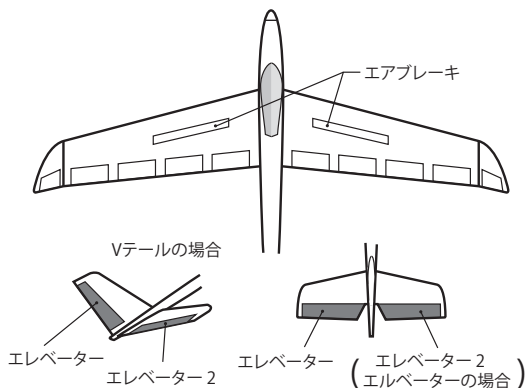
エアブレーキ→ELE [AIRBRAKE → ELE]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
全般

エアブレーキ（スポイラー）操作にエレベーターを連動させたい場合に使用します。着陸時のエアブレーキ操作時の頭下げをエレベーター・アップで補正するミキシングです。

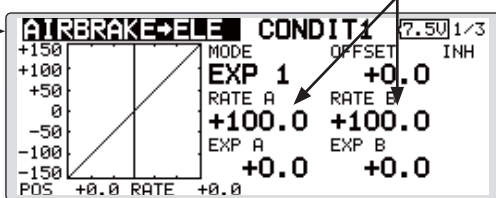
*この機能はリンクージ・メニュー内のファンクション機能でエアブレーキが割り付けられていないと動作しません。

- エレベーター・サーボ毎のレート1側/レート2側のミキシング量を調整可能
- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングをON/OFF可能（[-]設定で常時ON）
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能



- モデル・メニューで[AIRBRAKE → ELE]を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



- レート A、レート B
で全体を調整



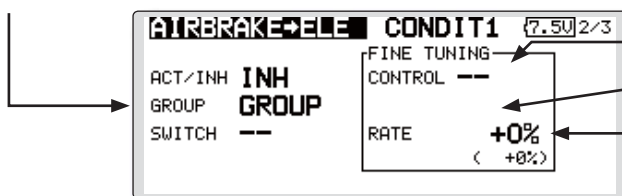
<ページの移動>
S1 ボタンを押して、
ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

- グループ/シングル・
モード切替 (GROUP/
SINGLE)
(詳細については巻末の説
明を参照)

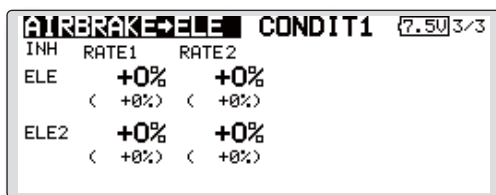
- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)



- 微調整ボリュームの設定
(ボリュームを選択すると、
動作モードの設定項目が現
れます。)

- 調整量の設定

- エレベーター・サー
ボ毎のレート調整



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。
(微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)
- ミキシング・カーブの設定が可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

[微調整ボリュームの動作モード]

[LIN.] :

ボリュームのセンターでミキシング微調整量 0%。
ボリュームを左右に回すとミキシング量が増減します。

[ATL+] : ボリュームの左端または右端でミキシング微調整量 0%。ボリュームを回すとミキシング量が増えます。

[ATL-] : [ATL+] の左右反転動作。

[SYM.] :

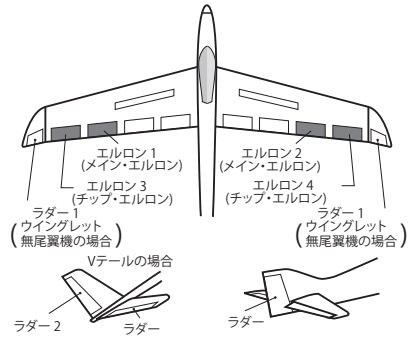
ボリューム、ニュートラルで微調整量 0%。左右に回すとミキシング量が増えます。

ラダー→エルロン [RUD → AIL]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機 / グライダー / 無尾翼機、
全般

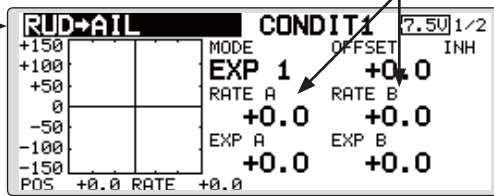
ラダー操作にエルロン動作を連動させたい場合に使用します。スタント機のロール系演技、ナイフ・エッジ等でラダーを打ったときのクセ取りに使用します。スケール機、大型機等で実機さながらの旋回を行うときに利用できます。

- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON)
- リンクを設定可能: 他のミキシングとリンクされます。
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能



- モデル・メニューで [RUD → AIL] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



- レート A、レート B で全体を調整

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

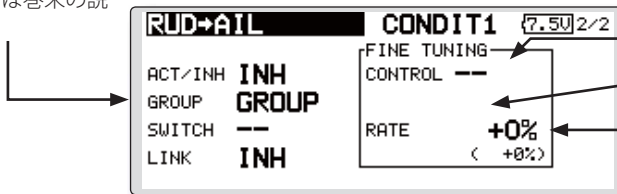
<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)



- 微調整ボリュームの設定
(ボリュームを選択すると、動作モードの設定項目が現れます。)

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

- 調整量の設定

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スwitchを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。
(微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)
- ミキシング・カーブの設定が可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- リンクを設定する場合、[LINK] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ON] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押してリンクを ON にします。

[微調整ボリュームの動作モード]

[LIN.]:
ボリュームのセンターでミキシング微調整量 0%。ボリュームを左右に回すとミキシング量が増減します。

[ATL+]: ボリュームの左端または右端でミキシング微調整量 0%。ボリュームを回すとミキシング量が増えます。

[ATL-]: [ATL+] の左右反転動作。

[SYM.]:
ボリューム、ニュートラルで微調整量 0%。左右に回すとミキシング量が増えます。

キャンバ・ミキシング [CAMBER MIX]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
2 エルロン以上

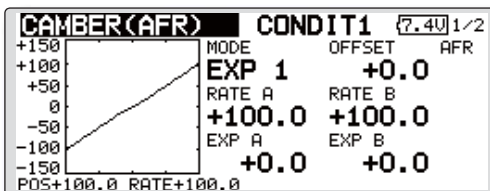
主翼のキャンバ（エルロン、キャンバ・フラップ、ブレーキ・フラップ）をネガティブやポジティブに操作するキャンバ操作のAFRレート調整が可能。また、エルロン、フラップ、およびエレベーターのレートを個別にカーブで調整が可能で、キャンバ操作による姿勢変化を補正することができます。

*キャンバ操作は初期設定でサイドレバーのLSに割り当てられています。

●エルロン、フラップ、エレベーター・サーボ毎にアップ側/ダウン側のレートをカーブで調整可能：リンクagesによりミキシング方向が逆の場合はレートの極性を変えることにより調整可能。

●モデル・メニューで [CAMBER MIX] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON 状態)
- コンディション毎にディレイを設定できます。ディレイ機能を OFF できるカット・スイッチの設定も可能。
- エルロン、フラップ、エレベーター毎にサーボ・スピードの調整ができます。(IN 側 /OUT 側)



●キャンバ AFR 設定画面の呼び出し
(設定方法については AFR 機能を参照)

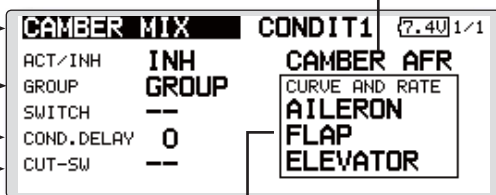
<ページの移動>
S1 ボタンを押して、
ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

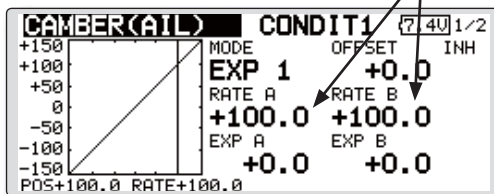
●グループ/シングル・
モード切替 (GROUP/
SINGLE)
(詳細については巻末の説
明を参照)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



- コンディションディ
レイの設定
- コンディションディ
レイのカット・ス
イッチ

(カーブ/レート設定画面) ●レート A、レート B
で全体を調整



●ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明
を参照)

●エルロンのレート
調整

CAMBER(AIL) CONDIT1 7.40 2/2

INH	RATE1	RATE2	SPEED	IN	OUT
AIL1	+0%	+0%	0	0	
AIL2	+0%	+0%			
AIL3	+0%	+0%			
AIL4	+0%	+0%			

●サーボ・スピードの設定
(設定方法については巻末の
説明を参照)

設定方法

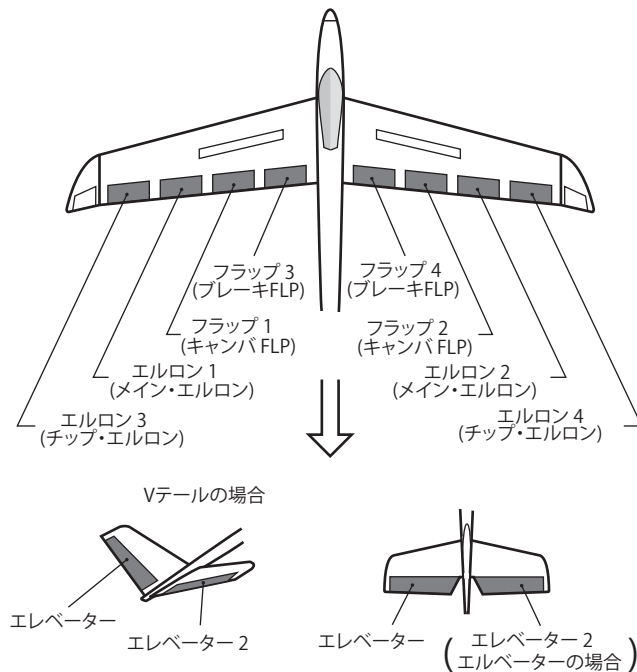
- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- コンディション・ディレーを設定する場合は、[COND. DELAY] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルでディレー量を設定します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
また、カット・スイッチを設定する場合は、[CUT-SW] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、

選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(コンディションディレーについては巻末の説明を参照してください)

- キャンバ AFR 画面の呼び出し
[CAMBER AFR] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、キャンバ AFR 画面を呼び出します。(設定方法については AFR 機能を参照)

(カーブ/レート設定画面)

- エルロン、フラップ、およびエレベーターのカーブ/レート画面を呼び出して調整します。
それぞれの画面で、各サーボのレートおよびカーブが設定できます。(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
また、サーボ・スピードの調整が可能です。



ELE → キャンバ [ELE → CAMBER]

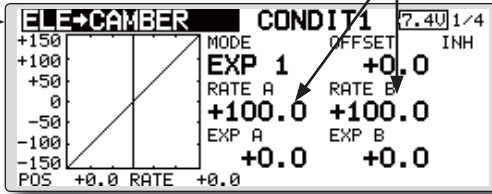
[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
2 エルロン以上

エレベーターの操作にキャンバを連動させたい場合に使用します。エレベーター・アップでフラップが下がるようにミキシングを使用すると、エレベーター・アップ時に揚力を増大させることができます。(無尾翼機の場合、このミキシングを ON にしないと、エレベータ動作ができません。)

- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON)
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能

- モデル・メニューで [ELE → CAMBER] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

ELE→CAMBER		CONDIT1 7.5U 2/4			
INH	AIL3	AIL	AIL2	AIL4	
RATE1	+0%	+0%	+0%	+0%	
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	
RATE2	+0%	+0%	+0%	+0%	
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	

(エルロン、フラップのレート調整画面)

ELE→CAMBER		CONDIT1 7.5U 3/4			
INH	FLP3	FLAP	FLP2	FLP4	
RATE1	+0%	+0%	+0%	+0%	
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	
RATE2	+0%	+0%	+0%	+0%	
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

ELE→CAMBER		CONDIT1 7.4U 4/4	
ACT/INH	INH	FINE TUNING	---
GROUP	GROUP	CONTROL	---
SWITCH	---	RATE	+0%
			< +0% >

- 微調整ボリュームの設定
(ボリュームを選択すると、動作モードの設定項目が現れます。)

- 調整量の設定

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。
(微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)
- ミキシング・カーブの設定が可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

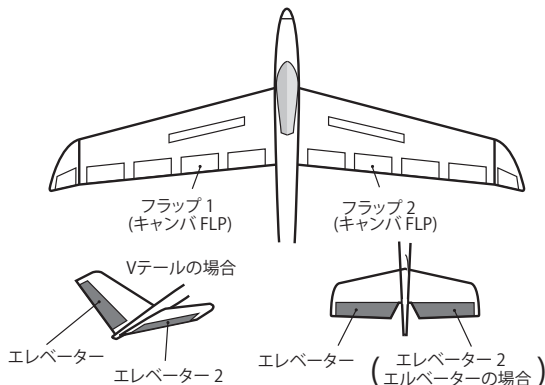
キャンバ FLP → ELE [CAMB.FLP → ELE]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、
2エルロン+1フラップ以上

キャンバ・フラップ（スピード・フラップ）を使用したときに発生する姿勢変化（エレベーター方向）を補正するために使用します。

- エレベーター・サーボのアップ側/ダウン側のレートを調整可能：リンクージによりミキシング方向が逆の場合はレートの極性を変えることにより調整可能。
- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能（[-] 設定で常時 ON）
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能

- モデル・メニューで[CAMB.FLP→ELE]を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



- レート A、レート B で全体を調整

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

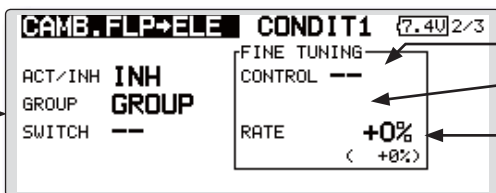
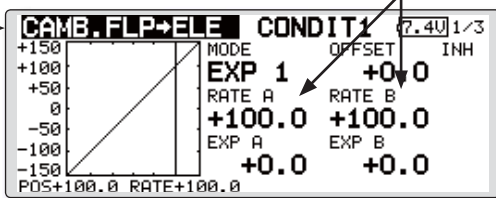
<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

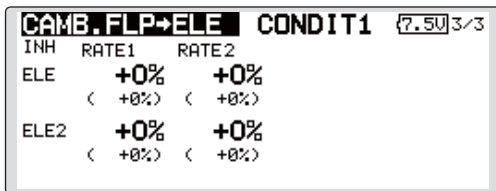
- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)
- エレベーターのレート調整



- 微調整ボリュームの設定
(ボリュームを選択すると、動作モードの設定項目が現れます。)

- 調整量の設定



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- エレベーター・サーボの [RATE1]、[RATE2] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してミキシング量を調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*リンクージによりミキシング方向が逆の場合は極性を変えることにより調整可能。

- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。

(微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定が可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

バタフライ [BUTTERFLY]

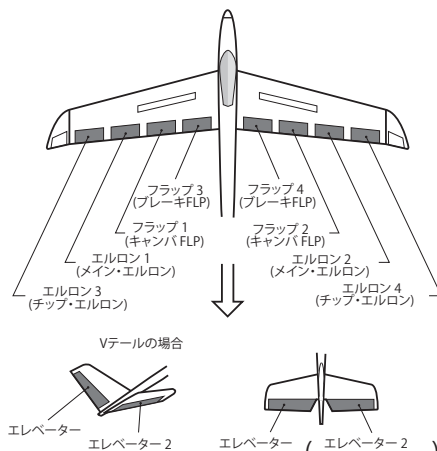
[対応モデル・タイプ]:
グライダー/無尾翼機、2エルロン以上

この機能は左右のエルロンを上方に、フラップ（キャンバ・フラップ、ブレーキ・フラップ）を下方に同時に操作することにより、強いブレーキ動作を可能にします。このとき、エルロンおよびフラップもバタフライ・ミキシングに重ねて操作が可能です。また、バタフライ・ミキシング動作時の機体の姿勢変化をエレベーターで補正できます。

- エルロン、フラップ・サーボ毎にミキシング・レートを調整可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能（[-] 設定で常時 ON）
- バタフライの動作基準点の移動が可能：変更したい位置に操作した状態で、カーソルを [OFFSET] の位置に移動して、EDIT ボタンを押すと基準点が移動します。ただし、基準点をオフセットしすぎると思わぬ動作になることがありますので注意してください。
- エルロン、フラップ動作のスピード調整ができます。（IN 側 /OUT 側）
- 差動量の調整が可能。
- コンディション毎にディレーを設定できます。ディレー機能を OFF できるカット・スイッチの設定も可能。

- モデル・メニューで [BUTTERFLY] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

- エレベーター補正が可能：アップ側/ダウン側でレート調整可能。また、ミキシング・カーブ、スピード（IN 側 /OUT 側）調整ができます。（[ELE SETTING] から設定画面を呼び出せます）
 - バタフライ AFR 設定画面を直接呼び出すことが可能。（[BUTTERFLY] から AFR 画面を呼び出せます。）
- *エルロンおよびフラップをバタフライ・ミキシングに重ねて操作時に不感帯が生じる場合は AFR 機能で舵角を調整します。



<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

- エルロン、フラップのレート調整

BUTTERFLY		CONDIT1		[7.40] 1/3
INH				
AIL3	AIL	AIL2	AIL4	
+0%	+0%	+0%	+0%	
FLP3	FLAP	FLP2	FLP4	
+0%	+0%	+0%	+0%	
BUTTERFLY AFR ELE SETTING				

- バタフライ AFR 設定画面へ
(設定方法については AFR 機能を参照)

- エレベーター補正の設定画面へ



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- グループ/シングル・モード切替 (GRP/SNGL)
(詳細については巻末の説明を参照)

- 動作基準点の移動

BUTTERFLY		CONDIT1		[7.50] 2/3
ACT/INH	INH	SPEED	IN	OUT
GROUP	GROUP	AIL	0	0
SWITCH	--	FLAP	0	0
OFFSET	15%			

- エルロン、フラップのサーボ・スピードの設定
(設定方法については巻末の説明を参照)

- 差動量の調整

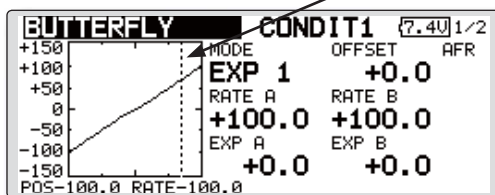
BUTTERFLY		CONDIT1		[7.40] 3/3
INH				
DIFFERENTIAL RATE		CONDITION DELAY		
RATE	+0%	DELAY	0	
		CUT-SW	--	

- コンディションディレーの設定
(設定方法については巻末の説明を参照)

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。下図は 4 エルロン・4 フラップの場合の画面。)

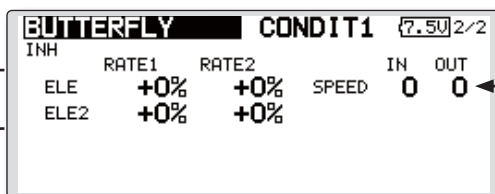
([ELE SETTING] 画面)

(点線はオフセット・ポイントを示します。)



- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- エレベータの補正量の調整



- サーボ・スピードの設定
(設定方法については巻末の説明を参照)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。
([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- エルロン、フラップのレートは各調整ボックスにカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- バタフライの動作基準点を移動したい場合は、カーソルを [OFFSET] に移動した状態で、バタフライ操作で変更したいポイントにスティックを操作し、EDIT ボタンを 1 秒間押し続けて基準点を変更します。

* 設定ポイントがカーブ画面に表示されます。

(エレベータ補正画面の設定)

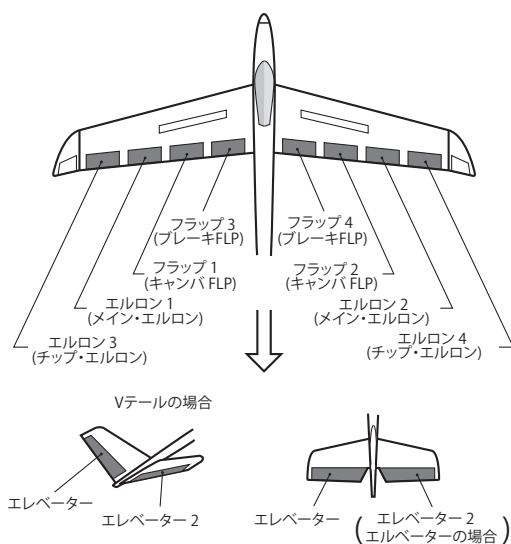
- エレベータの補正量の調整は、エレベータ・サーボの [RATE1] または [RATE2] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してレートを調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

トリム・ミックス 1/2 [TRIM MIX 1/2]

[対応モデル・タイプ]:
グライダー/無尾翼機、2 エルロン以上

エルロン、エレベーター、フラップ（キャンバ・フラップ、ブレーキ・フラップ）について、飛行状態によって予め設定しておいたトリムのオフセット量をスイッチで呼び出すことができます。

- エルロン、エレベーター、フラップ・サーボ毎にオフセットを調整可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にこの機能呼び出すことができます。トリム・ミックス 2 が優先します。
- エルロン、エレベーター、フラップ動作のスピード調整ができます。(IN 側 /OUT 側)
- コンディション毎にディレイを設定できます。ディレイ機能を OFF できるカット・スイッチの設定も可能。
- ボリュームを設定することによりトリム量の微調整が可能。
- オート・モードを設定することにより、トリム・ミックスの呼び出しをスティック等に連動させることができます。機能の ON/OFF スイッチとは別にスティック・スイッチ等を設定できます。



- モデル・メニューで [TRIM MIX 1/2] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

TRIM MIX 1		CONDIT1		7.40 1/5	
INH		AIL3	AIL	AIL2	AIL4
OFFSET	+0%	+0%	+0%	+0%	+0%
TUNING	+0%	+0%	+0%	+0%	+0%
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- エルロン、フラップ、およびエレベーター 毎のオフセット量の調整

TRIM MIX 1		CONDIT1		7.50 2/5	
INH		FLP3	FLAP	FLP2	FLP4
OFFSET	+0%	+0%	+0%	+0%	+0%
TUNING	+0%	+0%	+0%	+0%	+0%
	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >	< +0% >

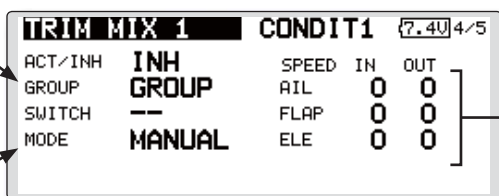
- [FINE TUNING] の項目で微調整ボリュームを設定した場合、エルロン、フラップ、エレベーター毎にトリム・レート調整ができます。

TRIM MIX 1		CONDIT1		7.50 3/5	
INH		ELE	ELE2		
OFFSET		+0%	+0%		
TUNING		+0%	+0%		
		< +0% >	< +0% >		

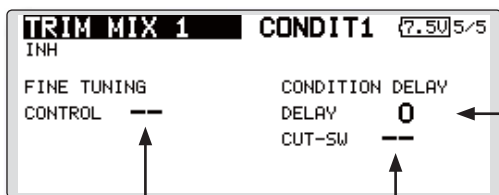
(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。下図は 4 エルロン・4 フラップの場合の画面。)

- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

- マニュアル/オート・モードの選択



- エルロン、フラップ、およびエレベーター・サーボのスピード設定
(設定方法については巻末の説明を参照)



- 微調整ボリュームの選択

- コンディション・ディレーの設定
(設定方法については巻末の説明を参照)

- カット・スイッチの選択

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。
([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- マニュアル/オート・モードの選択
[MANUAL]: スイッチで ON/OFF を切り替えるモード。
[AUTO]: トリム・ミックスの呼び出しをスティック等に連動させることができます。
オート・モードを設定する場合、[MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [AUTO] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押してオート・モードに切り替えます。
画面上にオート・スイッチ設定項目 [AUTO-SW] が現れ、機能の ON/OFF スイッチとは別にスティック・スイッチ等を設定できます。
- オフセット量の調整
エルロン、フラップ、およびエレベーターのオフセット量を調整する場合は、対応する [OFFSET] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 微調整ボリュームを使用する場合は、[CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、ボリュームを選択します。
この場合、エルロン、フラップ、エレベーター毎にトリムレートを調整できます。対応する [TUNING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルで調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

設定項目

<モード設定>

機能: [ON]

* 設定をコンディション毎に切り離す場合はグループ・モード [GROUP] を [SINGLE] に設定する。

スイッチ: 機能の ON/OFF スイッチを選択

動作モード: マニュアル [MANUAL] またはオート [AUTO] モードを選択

* オート・モードの場合は更にオート・モード用のスイッチを選択する。スティック等に連動可能。

<スピードの設定>

IN 側: スイッチ ON の時の動作スピードの調整

OUT 側: スイッチ OFF の時の戻るスピードの調整

<微調整ボリュームの設定>

ボリュームの選択および各サーボ毎のトリムレートの調整。

<コンディション・ディレーの設定>

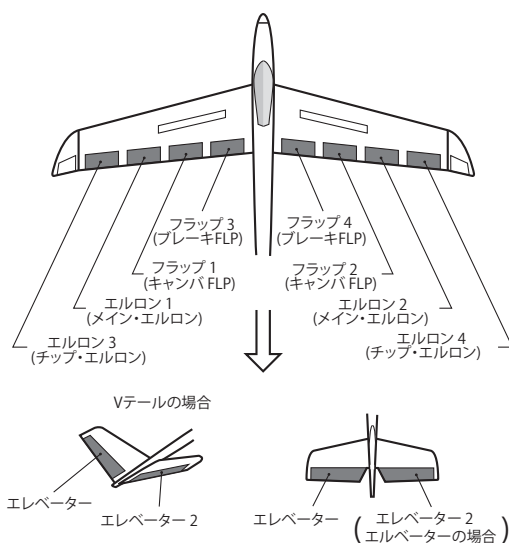
フライトコンディションを設定している場合、各コンディション毎に動作スピードが調整できます。また、カット・スイッチの選択によりコンディション・ディレー動作を途中で中断し、すばやく元の位置に各舵を戻すことも可能。

エアブレーキ [AIRBRAKE]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機、全般

着陸または飛行中のダイブ等でエアブレーキが必要な場合に使用します。エルロン、エレベーター、フラップ（キャンバ・フラップ、ブレーキ・フラップ）について、予め設定しておいたオフセット量をスイッチで呼び出すことができます。

- エルロン、エレベーター、フラップ・サーボ毎にオフセット量を調整可能
- エルロン、エレベーター、フラップ動作のスピード調整ができます。（IN側/OUT側）
- コンディション毎にディレーを設定できます。ディレー機能をOFFできるカット・スイッチの設定も可能。
- 微調整ボリュームを設定することによりトリム量の微調整が可能。サーボ毎にトリム・レートの設定が可能。
- オート・モードを設定することにより、エアブレーキ動作をスティック等に連動させることができます。機能のON/OFFスイッチとは別にスティック・スイッチ等を設定できます。



- モデル・メニューで[AIRBRAKE]を選択し、EDITボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDITボタンを押します。

AIRBRAKE		CONDIT1				[7.50] 1/5
INH	AIL3	AIL	AIL2	AIL4		
OFFSET	+0%	+0%	+0%	+0%		
TUNING	+0%	+0%	+0%	+0%		
	(+8%)	(+8%)	(+8%)	(+8%)		



<ページの移動>
S1ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDITダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- エルロン、フラップ、およびエレベーター毎のオフセット量の調整

AIRBRAKE		CONDIT1				[7.50] 2/5
INH	FLP3	FLAP	FLP2	FLP4		
OFFSET	+0%	+0%	+0%	+0%		
TUNING	+0%	+0%	+0%	+0%		
	(+8%)	(+8%)	(+8%)	(+8%)		

- [FINE TUNING]の項目で微調整ボリュームを設定した場合、エルロン、フラップ、エレベーター毎にトリム・レートを調整できます。

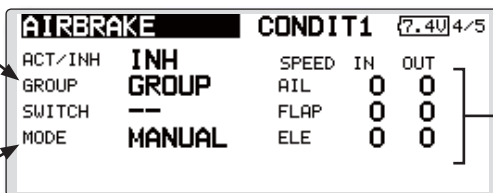
AIRBRAKE		CONDIT1		[7.50] 3/5
INH	ELE	ELE2		
OFFSET	+0%	+0%		
TUNING	+0%	+0%		
	(+8%)	(+8%)		

(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。下図は4エルロン・4フラップの場合の画面。)

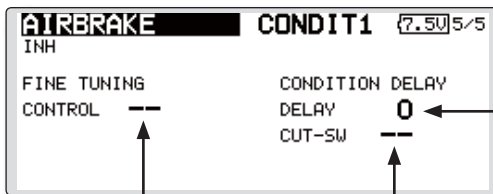
- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)

(詳細については巻末の説明を参照)

- マニュアル/オート・モードの選択



- エルロン、フラップ、およびエレベータ・サーボのスピード設定 (設定方法については巻末の説明を参照)



- コンディション・ディレイの設定 (設定方法については巻末の説明を参照)

- 微調整ボリュームの選択

- カット・スイッチの選択

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([--] 設定で常時 ON) (スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- マニュアル/オート・モードの選択

[MANUAL] : スイッチで ON/OFF を切り替えるモード。

[AUTO] : エアブレーキの動作をスティック等に連動させることができます。

オート・モードを設定する場合、[MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [AUTO] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押してオート・モードに切り替えます。

画面上にオート・スイッチ設定項目 [AUTO-SW] が現れ、機能の ON/OFF スイッチとは別にスティック・スイッチ等を設定できます。

- オフセット量の調整

エルロン、フラップ、およびエレベーターのオフセット量を調整する場合は、対応する [OFFSET] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

- 微調整ボリュームを使用する場合は、[CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、ボリュームを選択します。この場合、エルロン、フラップ、エレベータ毎にトリムレートを調整できます。対応する [TUNING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルで調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

F3A 等のフラップロン仕様の場合の設定例

(モデル・タイプが 2 エルロン選択の場合)

<モード設定>

機能 : [ON]

グループ : [SINGLE]

スイッチ : [SW-C]

動作モード : [MANUAL]

<オフセット量>

AIL : [-35 ~ -45%], AIL2 : [-35 ~ -45%],

ELE : [+5 ~ +7%]

注意 : 入力数字は一例です。動作量は機体に合わせて調整してください。

ジャイロ [GYRO]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、全般

機体姿勢の安定化のために GYA シリーズ・ジャイロを使用する場合のジャイロ専用ミキシングです。感度および動作モード (AVCS モード/NORM モード) をスイッチで切り替えることができます。

- 3つのレートを使用可能 (RATE1/RATE2/RATE3)
- 同時に3軸制御可能 (GYRO/GYRO2/GYRO3)

* T12FGの初期設定では感度設定チャンネル (ジャイロ) は割り当てられていません。予め、リンクージ・メニューのファンクション機能 [FUNCTION] で、空きチャンネルを利用して、使用する感度設定チャンネル (GYRO/GYRO2/GYRO3) を割り当てておく必要があります。

ファンクション以外の [CONTROL]、[TRIM] の項目は [-] に設定してください。

●モデル・メニューで [GYRO] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。
(現在の RATE 設定画面を太字で表示)

(下記画面は RATE1 の場合。RATE2 および RATE3 の画面があります。)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

GYRO		RATE 1 23		CONDIT1		7.40 1/3	
ACT/INH	INH	MODE	RATE				
TYPE	GY	GYRO	AVCS	0%			
SWITCH	--	GYRO2	AVCS	0%			
GROUP	GRP	GYRO3	AVCS	0%			

S1 ボタン

EDIT ダイヤル

EDIT ボタン

●グループ/シングル・モード切替 (GRP/SNGL) (詳細については巻末の説明を参照)

●GYRO/GYRO2/GYRO3 の3軸の動作モード (AVCS/NORM) と感度を設定できます。

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し (1秒間) します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- Futaba GYA ジャイロを使用する場合は [TYPE] (ジャイロ・タイプ) の設定項目が [GY] に設定されていることを確認します。
 - * [GY] タイプを選択すると感度設定値が AVCS モードおよび NORM モードとも直読となります。
 - * その他のジャイロを使用する場合は [NORM] に変更します。モードを変更したい場合は [TYPE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモード表示を変更し、EDIT ボタンを押してモードを変更します。
- 感度切替スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON。スイッチ設定が重

なった場合、優先順位は RATE1、RATE2、RATE3 の順で、RATE1 が最優先します。)

(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

●動作モードの変更/感度の設定

動作モードを変更する場合は、変更したいチャンネル (GYRO/GYRO2/GYRO3) に対応する [MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してモード表示を切り替えて、EDIT ボタンを押してモードを変更します。

[RATE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して感度を設定します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

(例) GYA351、GYA352 (2軸ジャイロ) を使用して、3軸全部を設定する場合

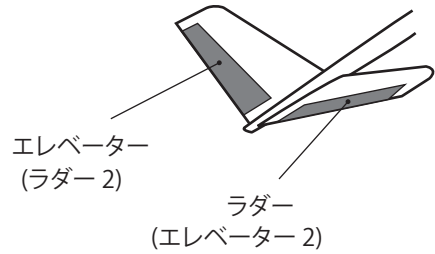
- 主翼タイプ: エルロン2 サーボ搭載の機体を選択した場合
- リンクージ・メニューの [FUNCTION] 設定画面の [FUNCTION] の項目で、GYRO (GYA351 用):7CH、GYRO2 (GYA352 用):8CH、GYRO3 (GYA352 用):9CH を設定。[CONTROL] および [TRIM] の項目は全て [-] にしておきます。
- 設定例
 - RATE1 画面: [OFF] [GY] [SW-E] [GRP] [NORM] [60%] [NORM] [60%] [NORM] [60%]
 - RATE2 画面: [INH] [GY] [-] [GRP] [AVCS] [0%] [AVCS] [0%] [AVCS] [0%]
 - RATE3 画面: [OFF] [GY] [SE-E] [GRP] [AVCS][60%] [AVCS][60%] [AVCS][60%]
- * フライト・コンディションを使用している場合にコンディション毎に設定を変えたい場合は、[GRP] を [SINGL] に変更。
- * SW-E の奥で RATE1 が ON、手前で RATE3 が ON になるように設定します。SW-E のセンターで OFF にするため、RATE2 は [INH] のままにします。

V テール [V-TAIL]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー、Vテール

リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能の尾翼タイプの選択で V-TAIL タイプを選択した場合に、この設定画面で V 尾翼機体のエレベーターとラダーの調整が可能となります。

- 各サーボの動作量を操作毎に個別に調整できます。
(サーボ接続方法はモデル・タイプ別サーボ接続の項を参照)



- モデル・メニューで [V-TAIL] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。
- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。

V-TAIL		CONDIT1		7.40 1/1	
GROUP	GROUP				
FUNCTION	ELEVATOR		RUDDER		
	DOWN	UP	LEFT	RIGHT	
ELE <RUD2>	+50%	+50%	+50%	+50%	
RUD <ELE2>	+50%	+50%	+50%	+50%	



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル (反転表示)
を移動します。

- エレベーター操作時の動作量の調整 (ダウン側/アップ側)
- ラダー操作時の動作量の調整 (左側/右側)

設定方法

●動作量の調整

各サーボのエレベーター・アップ [UP]、ダウン [DOWN] 操作時の動作量およびラダー左 [LEFT]、右 [RIGHT] 操作時の動作量を個別に調整できます。

調整したい設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作量を調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*リンケージによりミキシング方向が逆の場合は動作量の極性を変えることにより調整が可能。

*動作量を大きくしすぎると舵が重なったときに不感帯が発生します。50% 前後で調整してください。

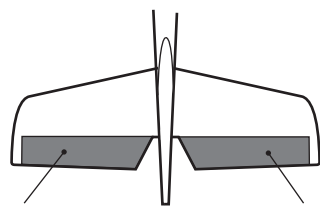
エルベーター [AILEVATOR]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー、エルベーター

リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能の尾翼タイプの選択で AILEVATOR タイプを選択した場合に、この設定画面でエルベーター尾翼機体のエレベーターの調整が可能となります。

エルロン操作時、エレベーター・サーボをエルロン動作させ、ロール軸の運動性能を改善します。

- 各サーボの動作量を操作毎に個別に調整できます。
(サーボ接続方法はモデル・タイプ別サーボ接続の項を参照)



エレベーター
(エルロン 5)

エレベーター 2
(エルロン 6)

- モデル・メニューで [AILEVATOR] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。
- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

AILEVATOR		CONDIT1		7.4V 1/1	
GROUP	GROUP				
FUNCTION	ELEVATOR		AILERON		
	DOWN	UP	LEFT	RIGHT	
ELE <AIL5>	+100%	+100%	+0%	+0%	
ELE2 <AIL6>	+100%	+100%	+0%	+0%	



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- エレベーター操作時の動作量の調整 (ダウン側/アップ側)
- エルロン操作時の動作量の調整 (左側/右側)

設定方法

●動作量の調整

各サーボのエレベーター・アップ [UP]、ダウン [DOWN] 操作時の動作量およびエルロン左 [LEFT]、右 [RIGHT] 操作時の動作量を個別に調整できます。

調整したい設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作量を調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*リンケージによりミキシング方向が逆の場合は動作量の極性を変えることにより調整が可能。

*動作量を大きくしすぎると舵が重なったときに不感帯が発生します。設定時に確認してください。

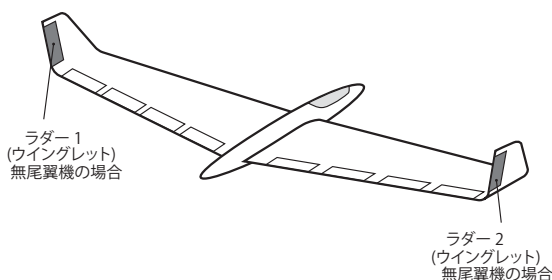
ウイングレット [WINGLET]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー、ウイングレット

リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択機能のウイング・タイプの選択でフライング・ウイングを選択した場合で、ラダー・タイプが WINGLET タイプを選択した場合に、この設定画面でウイングレット仕様の機体のラダー左右舵角調整が可能となります。

●各サーボの動作量を個別に調整できます。

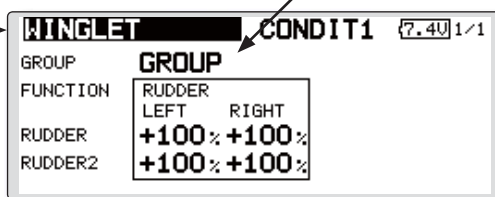
(サーボ接続方法はモデル・タイプ別サーボ接続の項を参照)



●モデル・メニューで [WINGLET] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル (反転表示)
を移動します。

●ラダー操作時の動作量の調整
(左側/右側)

設定方法

●動作量の調整

各サーボのラダー左 [LEFT]、右 [RIGHT] 操作時の動作量を個別に調整できます。

調整したい設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作量を調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*リンケージによりミキシング方向が逆の場合は動作量の極性を変えることにより調整が可能。

モーター [MOTOR]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機/グライダー/無尾翼機、全般

F5B等のEPグライダーの場合で、スイッチでモーターをスタートさせる場合の動作スピードの設定が可能です。また、SPEED1/SPEED2の2つの領域で個別に動作スピードの設定が可能です。

- モーターの操作スイッチはファンクション機能で設定(グライダー・タイプはSW-G初期設定)しますが、安全のため、機能自体のON/OFFスイッチを設定することが可能です。
- 2つの領域(SPEED1/SPEED2)でIN側/OUT側を個別に動作スピードを調整可能
- 2つの領域の境界点を移動できます。(SPEED1->SPEED2)
- 設定された動作スピードの動作を初回のIN側操作

のみに有効にすることが可能。(ONE TIME)ただし、動作が完了する前にスイッチをOFFにすると、再度操作が可能です。

この動作を再セットしたい場合は、SPEEDの設定画面で、[ACT/INH]および[ONE TIME]の設定を一旦[INH]にしてから再度[ON]にします。

- コントロールするスイッチ等を変更または設定する場合は、予めリネージ・メニューの[FUNCTION]機能で変更または設定しておきます。(ファンクション名[MOTOR]に対応するコントロールの項目で設定します。)

注意: この機能を使用する場合、設定によっては思わぬ動作をする可能性があります。初期動作確認は必ずプロペラを外した状態で行ってください。

●モデル・メニューで[MOTOR]を選択し、EDITボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDITボタンを押します。

●モーターOFF方向の設定

●スピード設定の1回動作(ONE TIME)のON/OFF設定

●境界点の移動

●グループ/シングル・モード切替 (GRP/SIGL) (詳細については巻末の説明を参照)

●現在の操作位置 (矢印)

●SPEED1の領域 (白ヌキ部分)

●SPEED2の領域 (黒塗り部分) (スピード設定画面)

●各領域のスピード設定 (IN側/OUT側)

<ページの移動>
S1ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDITダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

設定方法

- [ACT/INH]の設定項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して[ACT]の点滅表示とし、EDITボタンを押して機能を有効にします。
- モーターを操作するスイッチとは別に、機能自体をON/OFFするスイッチを設定する場合は、[SWITCH]の設定項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択およびON方向を設定します。([-)設定で常時ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- モーターOFF方向の設定
モーターを操作するスイッチ(初期設定:SW-G)を操作してみて、ON/OFF方向を逆にしたい場合は、次の方法で方向を逆転してください。
[MOTOR OFF]の設定項目にカーソルを移動し、スイッチをOFFに設定したい位置に操作した状態で、EDITボタンを長押し(1秒間)します。

*モーター・スイッチの動作方向が反転されます。画面のグラフ表示のON方向も連動して変化します。

(スピード設定画面の設定)

- [ACT/INH]の設定項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して[ACT]の点滅表示とし、EDITボタンを押して機能を有効にします。

- SPEED1/SPEED2の境界点を移動したい場合は、[SPEED1->SPEED2]の設定項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して境界点を移動します。

調整後、EDITボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*画面のグラフ表示の境界点も連動して変化します。

- 動作スピードの調整

設定したい領域のIN側またはOUT側の設定項目にカーソルを移動し、EDITボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してスピードを設定します。(設定範囲:0~27、27でディレイ量が最大)

調整後、EDITボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

注意

- モーターOFF方向を先に決め、次にスピードを設定する。モーターOFF方向を再設定した場合は、スピード設定も再設定する必要があります。
- F/S機能を合わせて設定することをおすすめします。
- 基本の動作方向は使用するアンプに合わせて、リバース機能にて設定してください。
- モーターがOFFになるポジションを必ず設定してください。

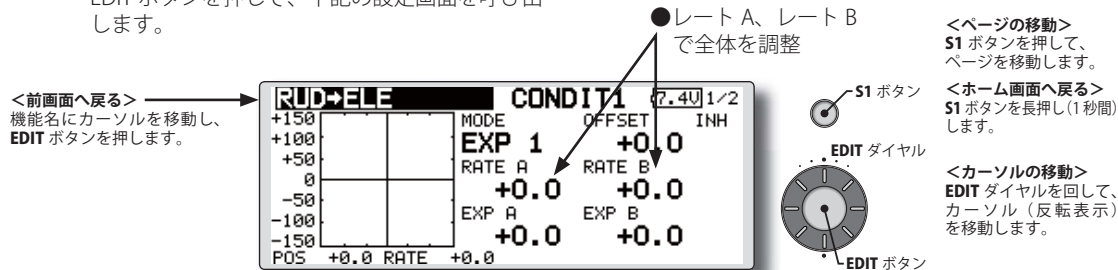
ラダー→エレベーター [RUD → ELE]

[対応モデル・タイプ]:
飛行機、全般

ラダー操作にエレベーター動作を連動させたい場合に使用します。スタント機のロール系演技、ナイフ・エッジ等でラダーを打ったときのクセどりに使用します。

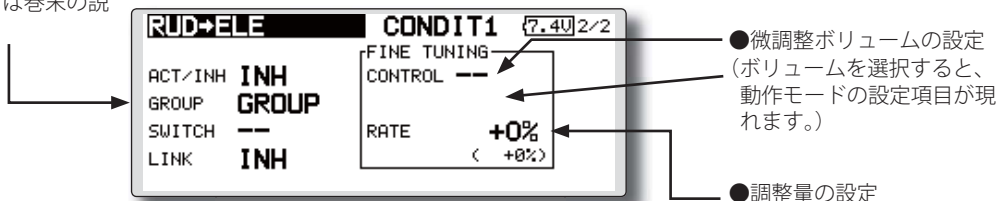
- ミキシング・カーブが設定可能
- スイッチを設定することにより、フライト中にミキシングを ON/OFF 可能 ([-] 設定で常時 ON)
- リンク設定可能：他のミキシングとリンクされます。
- ボリュームを設定することによりミキシング量の微調整が可能 (微調整)

- モデル・メニューで [RUD → ELE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)



(表示画面は一例を示します。モデル・タイプにより画面が異なります。)

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。
- スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定で常時 ON)
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- 微調整ボリュームを設定する場合は、"CONTROL" の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して選択します。また、ボリュームの動作モードおよび調整量を設定できます。
(微調整ボリュームの設定方法は巻末の説明を参照)
- ミキシング・カーブの設定が可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- リンクを設定する場合、[LINK] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ON] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押してリンクを ON にします。

[微調整ボリュームの動作モード]

[LIN.] :
ボリュームのセンターでミキシング微調整量 0%。
ボリュームを左右に回すとミキシング量が増減します。

[ATL+] : ボリュームの左端または右端でミキシング微調整量 0%。ボリュームを回すとミキシング量が増えます。

[ATL-] : [ATL+] の左右反転動作。

[SYM.] :
ボリューム、ニュートラルで微調整量 0%。左右に回すとミキシング量が増えます。

スナップ・ロール [SNAP ROLL]

【対応モデル・タイプ】：
飛行機

スナップ・ロールをスイッチで操作する場合のスイッチ選択および各舵（エルロン、エレベーター、ラダー）のレート調整を行います。

- スナップ・ロールの方向は4方向設定できます。RIGHT/UP（右/上）、RIGHT/DOWN（右/下）、LEFT/UP（左/上）、LEFT/DOWN（左/下）
- 動作モード：[MASTER] モード選択時は、スナップ・ロールしたい方向に方向切り替えスイッチを切り替えた状態で、マスター・スイッチでスナップ・ロール機能をON/OFFします。動作モード切替を[SINGLE]選択時は各方向のスナップ・ロールは、それぞれ独立したスイッチで操作できますが、通常は[MASTER]モードで使用します。
- セーフティ・スイッチを設定可能。安全対策として、例えば引込み脚が出ているときに、間違ってもスイッチを入れてもスナップ・ロールが働かないように設定可能です。セーフティ・スイッチがONのときのみスナップ・ロール・スイッチが機能します。
- エルロン、エレベーター、ラダーサーボ毎の動作スピードをスナップ・ロールの各方向毎に調整可能。（イン側/アウト側）

(例) F3A の場合の設定例

- モード：[MASTER]
- マスター SW：[SW-H]（スナップ・ロールを行うためのメインスイッチ）
- セーフティ SW：[SW-G]（安全対策）
- 方向スイッチ：
*ここでは、スナップ・ロールのアップ側左右、ダウン側左右の各方向のスイッチを選択
RIGHT/UP（右/上）：OFF [SW-D]
RIGHT/DOWN（右/下）：OFF [SW-D]
LEFT/UP（左/上）：OFF [SW-A]
LEFT/DOWN（左/下）：OFF [SW-A]
- スピードの調整
スナップ・スイッチ ON 時のそれぞれの舵面の動作スピードを変え、スイッチ操作でありながら、スティックで操作したようなスナップ・ロールを行うことができる。

- モデル・メニューで [SNAP ROLL] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

SNAP ROLL		CONDIT1		[7.40] 1/4
RATE	AIL	ELE	RUD	
RIGHT/UP	+100%	+100%	+100%	
RIGHT/DOWN	+100%	-100%	-100%	
LEFT/UP	-100%	+100%	-100%	
LEFT/DOWN	-100%	-100%	+100%	

(エルロン) (エレベーター) (ラダー)

- 各舵のレート調整



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

SNAP ROLL		CONDIT1		[7.40] 2/4
MODE	MASTER			
MASTER-SW	--			
SAFETY-SW	--			
GROUP	GROUP			

- 動作モード切替
- マスター・スイッチの選択
- セーフティ・スイッチの選択

SNAP ROLL		CONDIT1		[7.40] 3/4
	ACT	SWITCH		
RIGHT/UP	OFF	--		
RIGHT/DOWN	OFF	--		
LEFT/UP	OFF	--		
LEFT/DOWN	OFF	--		

- 方向スイッチ

SNAP ROLL		CONDIT1 (7.40) 4/4					
SPEED	[AIL]		[ELE]		[RUD]		
	[IN]	[OUT]	[IN]	[OUT]	[IN]	[OUT]	
RIGHT/UP	0	0	0	0	0	0	
RIGHT/DOWN	0	0	0	0	0	0	
LEFT/UP	0	0	0	0	0	0	
LEFT/DOWN	0	0	0	0	0	0	

(エルロン) (エレベーター) (ラダー)

●各舵のサーボ・スピードの調整
(設定方法については巻末の説明を参照)

設定方法

- 動作モードのマスター/シングル・モードを変更する場合は、[MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回して、変更したいモードの点滅表示としてから、EDIT ボタンを押してモードを変更します。
マスター・モードを選択した場合は、[MASTER-SW] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- セーフティー・スイッチを設定したい場合は、[SAFETY-SW] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
- 方向スイッチの選択は、使用したい方向に対応する [SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。
(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

●各舵のレート調整

調整したい方向に対応する各舵 ([AIL]、[ELE]、[RUD]) の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して調整が可能です。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

●各舵のサーボ・スピードの調整

調整したい方向に対応する各舵の [IN] または [OUT] 側の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して調整が可能です。(設定範囲：0～27、27で最大のディレイ量)

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

このモデル・メニューには、リンケージ・メニューのモデル・タイプ選択画面でヘリコプターのモデル・タイプおよびスワッシュ・タイプが選択されたときの専用ミキシングが表示されます。

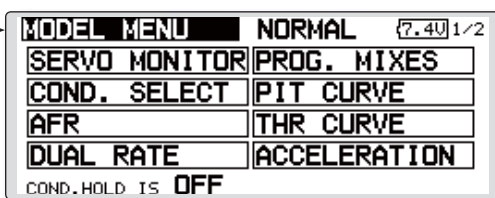
注意：ただし、後からモデル・タイプを変更すると既に設定したデータがリセットされてしまいますので注意してください。

また、各機能でモデル・データを設定する前に、予め、コンディション選択画面でアイドル・アップ等のフライト・コンディションを追加してください。(最大8コンディション迄使用可能)

なお、AFR 機能等の全モデル・タイプに共通の機能については別のセクションで説明しています。

- ホーム画面に表示された [MODEL] を選択し、EDIT ボタンを押して下記のメニューを呼び出します。
- 設定したい機能にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して設定画面を呼び出します。

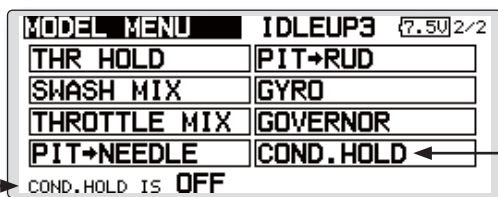
<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。



- コンディション・ホールド機能の動作表示
動作中："COND. HOLD IS ON" が表示される。
機能 OFF 時："COND. HOLD IS OFF" が表示される。

コンディション・ホールド機能の ON/OFF 操作

1. ノーマルのコンディションに切替えます。
2. スロットル・スティックが 1/3 よりスロー側で、スロットル・サーボを固定したい位置に操作します。
3. 上記の条件で、メニューの [COND. HOLD] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して ON/OFF を反転します。
(機能説明はリンケージ・メニューの項目を参照)

モデル・メニュー機能（ヘリコプター）一覧

[PIT CURVE] ピッチ・カーブ

ピッチ・カーブ、ホバリング・ピッチ、ハイ・ピッチ、ローピッチの調整

[THR CURVE] スロットル・カーブ

スロットル・カーブ、ホバリング・スロットルの調整

[ACCELERATION] アクセラレーション・ミキシング

加速／減速操作時のピッチおよびスロットルの立ち上がり特性の調整

[THR HOLD] スロットル・ホールド

オートローテーション降下時の、エンジン・カットの設定。別に、練習用のアイドリング位置設定も可能。

[SWASH MIX] スワッシュ・ミキシング

エルロン方向、エレベーター方向へのスワッシュ・プレートのクセ取り

[THROTTLE MIX] スロットル・ミキシング

エルロンまたはエレベーター操作時のスワッシュ・プレート動作によって生じるエンジン回転の沈み込みの補正

[PIT → NEEDLE] ピッチ→ニードル・ミキシング

エンジンのニードル・コントロールに使用するミキシング

[PIT → RUD] ピッチ→ラダー・ミキシング

ピッチ操作時のメイン・ローターの反動トルクを抑えたい場合に使用（レボリューション・ミキシング）

[GYRO] ジャイロ・ミキシング

Futaba GY シリーズ・ジャイロを使用する場合のジャイロ専用ミキシング

[GOVERNOR] ガバナー・ミキシング

Futaba GV-1（ガバナー）を使用している場合のガバナー専用ミキシング

[COND. HOLD] コンディション・ホールド

コンディション・ホールドの ON/OFF

*機能説明はリンケージ・メニューの項目を参照してください。

ピッチ・カーブ [PIT CURVE] / ピッチ・トリム

ピッチ・カーブ

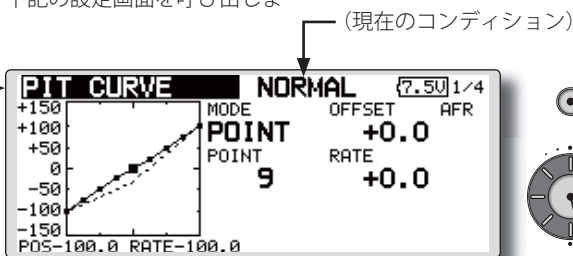
スロットル・スティックの動きに対し最良の飛行状態になるように、各コンディション毎にピッチの動作カーブを調整します。

* T12FG では EXP1、EXP2、およびポイント (POINT) の3タイプのカーブから選択可能です。

* ピッチ・カーブのポイント (POINT) カーブの場合、ポイント数は最大 17 ポイント迄設定可能です。(初期設定 9 ポイント) 状況に合わせてポイント数を増減することが可能です。

- モデル・メニューで [PIT CURVE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、
EDIT ボタンを押します。



<ページの移動>
S1 ボタンを押して、
ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)
します。

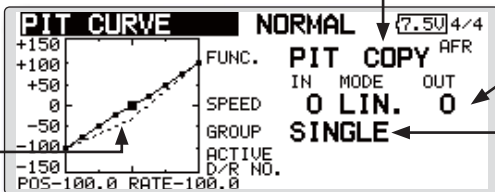
<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、
カーソル(反転表示)
を移動します。

- カーブの設定

ポイント (POINT) タイプを使用する場合、初期設定では 9 ポイントのカーブですが、ポイント数を減らすと、より簡単に設定できます。(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- ピッチ・トリム調整位置のコピー

点線はホバリング・
ピッチ、ロー・ピッ
チおよびハイ・ピッ
チを含めた動作を表
します。



●サーボ・スピードの設定
(詳細については巻末の説明を
参照)

●グループ/シングル・モード切替
(GROUP/SINGLE)
通常は、シングル・モードで使用
します。(詳細については巻末の
説明を参照)

ノーマル・カーブの調整

- カーブは通常 [POINT] (ポイント) タイプを使用します。
- ノーマルはホバリングを中心とした基本的なピッチ・カーブを作ります。スロットル・カーブ (ノーマル) と合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

アイドル・アップ・カーブの調整

- ハイ側ピッチ・カーブはエンジンに負担のかからない最大のピッチを設定します。ロー側ピッチ・カーブはループ、ロール、3D 等の目的に合ったカーブを作り、演技によりアイドル・アップ・カーブを使い分けます。

スロットル・ホールド・カーブの調整

- スロットル・ホールド・カーブは、オートローテーション降下を行うときに使用します。

操作時の注意事項

警告

- 実際にエンジンを始動し、フライトを行う場合、アイドル・アップ・コンディションのスイッチは必ず [OFF] とし、アイドルリングの状態 でエンジンを始動してください。

設定方法

●グループ/シングル・モード切替：

他のコンディションにも同じ設定内容を同時に入力した場合はグループ・モード（初期設定）の状態を設定します。コンディション毎に個別の設定をするときは、シングル・モードを選択してから設定してください。他のコンディションとは独立した設定が可能となります。

●サーボ動作スピードの設定

ピッチが敏感すぎるときに調整すると、ピッチ操作のフィーリングを変えることができます。

●カーブ設定方法

（カーブ設定方法は巻末の説明を参照）

●ピッチ・トリム調整位置のコピー

現在のピッチ・トリム調整を含めたカーブの作成が可能です。4/4 ページ目の画面で、[COPY] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを長押し（1 秒間）すると、カーブが変更されます。コピー後、ピッチ・トリムをセンター戻すと、前回のトリム位置となります。

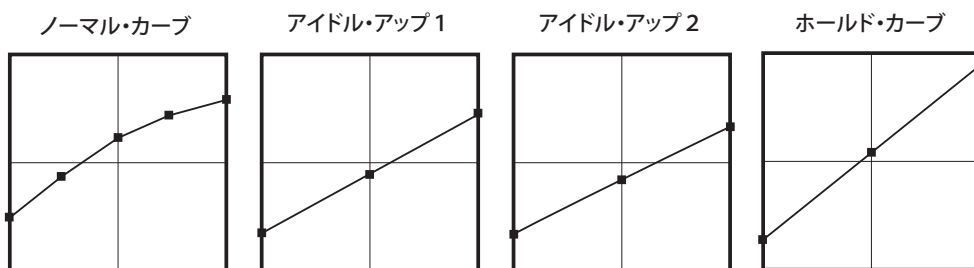
カーブ設定例

下のカーブ画面は、ポイント（POINT）のモードを使用し、各コンディション毎に 0%（ロー側）、25%、50%（センター）、75%、100%（ハイ側）の 5 ポイントまたは 3 ポイントのデータを調整して作成したカーブです。

*初期設定のカーブからポイント数を減らして作成してあります。実際のカーブ作成時は機体側の指定（または参考値）の動作量を入力してください。

（カーブの作成方法は巻末の説明を参照してください。）

●ピッチ・カーブ設定例



ピッチ・トリム（ホバリング・ピッチ、ハイ・ピッチ、ロー・ピッチ）

ピッチ・カーブの設定画面からホバリング・ピッチ、ロー側ピッチ、およびハイ側ピッチのトリム設定画面を呼び出すことができます。

- 一般的には [SNGL] を使用する

PIT CURVE		NORMAL	(7.50) 2/4
HOVER			
ACT/INH	ON	MODE	CTRM
GROUP	SINGLE	RANGE	100%
CONTROL	LD		
RATE	+30% (<-30%)		

- ホバリング・ピッチ・トリムの設定

- 一般的にはアイドル・アップのときだけ使用する。

PIT CURVE		NORMAL	(7.50) 3/4
LOW PITCH		HIGH PITCH	
ACT/INH	INH	ACT/INH	INH
GROUP	SINGLE	GROUP	SINGLE
CONTROL	--	CONTROL	--
RATE	+30% (<+0%)	RATE	-30% (<+0%)

- ロー側ピッチ・トリムの設定

- ハイ側ピッチ・トリムの設定

ホバリング・ピッチ・トリム

ホバリング・ピッチは、ホバリング・ポイント付近のピッチのトリム機能です。通常はホバリングのコンディションで使用します。温度、湿度等飛行条件等の変化に伴うローター回転数の変化に対し微調整ができます。ローター回転が一番安定するように調整してください。また、ホバリング・スロットル・トリム機能と併用することにより、より細かく微調整が可能となります。

設定方法

- ホバリング (NORMAL) のコンディションのみに使用する場合はグループ設定をシングル・モードに切り替えてから設定してください。
- [ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- トリムの選択およびトリム・レートの設定
[CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。EDIT ボタンを押してボリューム等の選択画面を呼び出し、ホバリング・ピッチ・トリム用のボリュームを選択します。(選択例：LD)
また、トリム・レートの調整は [RATE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
トリムの調整方向を変えたい場合は、レート調整の極性を変更してください。
- トリムの動作モード (CTRM/NORM) の選択
動作モードを変更する場合は [MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモード表示を反転し、EDIT ボタンを押してモードを切り替えます。
CTRM モード：センタートリム動作でセンター付近が最大の変化量のモード。通常はこのモードを使用します。ピッチのハイ側、ロー側を変えずにホバリングのピッチを調整できるメリットがあります。
NORM モード：通常のトリム (平行移動トリム) の動作となります。このモードを使用するとカーブを変えずにホバリングのピッチを調整できるメリットがあります。
- トリムの調整範囲 (RANGE) の設定
[RANGE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整範囲を設定します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*数値を小さくするとセンター付近のみトリムが作用するようになります。

ハイ側／ロー側ピッチ・トリム

このハイ側／ロー側ピッチトリムは、ピッチサーボのハイ側、ロー側のトリム機能です。

設定方法

- すべてのコンディションに共通の調整ツマミを設定する場合はグループ・モードの状態を設定してください。
- [ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- トリムの選択およびトリム・レートの設定
[CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してボリューム等の選択画面を呼び出し、ハイ側またはロー側ピッチ・トリム用のボリュームを選択します。(選択例：LS (ロー側)、RS (ハイ側))
また、トリム・レートの調整は設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
トリムの調整方向を変えたい場合は、レート調整の極性を変更してください。
- トリムはセンターを基準としたハイ側またはロー側トリムとして働きます。

(設定例)

- アイドル・アップ (IDLEUP1,2,3) 時
[ACT], [SNGL], [RS], [10%]

スロットル・カーブ [THR CURVE] / ホバリング・スロットル・トリム

スロットル・カーブ

スロットル・スティックの動きに対しエンジン回転が最良の飛行状態になるように、各コンディション毎に、スロットルの動作カーブを調整します。

* T12FG では EXP1、EXP2、およびポイント (POINT) の3タイプのカーブから選択可能です。

* スロットル・カーブのポイント (POINT) カーブの場合、ポイント数は最大 17 ポイント迄設定可能です。(初期設定 9 ポイント) 状況に合わせてポイント数を増減することが可能です。

●モデル・メニューで [THR CURVE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

(現在のコンディション)

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

●カーブの設定
ポイント (POINT) タイプを使用する場合、初期設定では 9 ポイントのカーブですが、ポイント数を減らすと、より簡単に設定できます。(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

●ホバリング・スロットル・トリム調整位置のコピー

●サーボ・スピードの設定 (詳細については巻末の説明を参照)

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
通常は、シングルで使用します。(詳細については巻末の説明を参照)

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

(点線はホバリング・スロットルを含めた動作を表します。)

EDIT ボタン

EDIT ボタン

ノーマル (NORMAL) ・カーブの調整

- ノーマル・カーブは、ホバリングを中心とした基本的なカーブを作ります。ノーマル・ピッチ・カーブと合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

アイドル・アップ (IDLEUP) ・カーブの調整

- 上空飛行でピッチを減らす操作をした時でも、エンジンが常に一定回転を保てるよう、アイドル・アップ・カーブを設定します。ループ、ロール、3D など、目的に合わせカーブを作り、演技によりアイドル・アップ・カーブを使い分けず。

操作時の注意事項

警告

- 実際にエンジンを始動し、フライトを行う場合、アイドル・アップ・コンディションのスイッチは必ず [OFF] とし、アイドルリングの状態 でエンジンを始動してください。

設定方法

- グループ/シングル・モード切替:
他のコンディションにも同じ設定内容を同時に入力したい場合はグループ・モード (初期設定) の状態で設定します。コンディション毎に個別の設定をするときは、シングル・モードを選択してから設定してください。他のコンディションとは独立した設定が可能となります。
- サーボ動作スピードを設定可能。スロットルが敏感すぎるときに調整します。

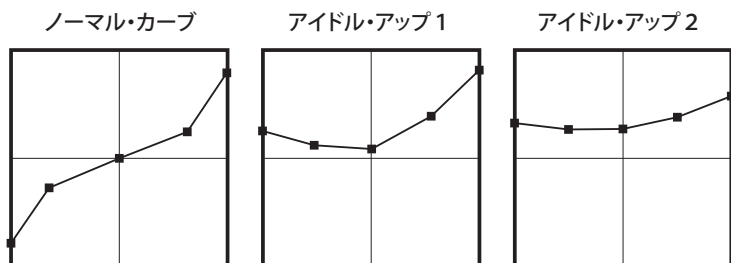
- ホバリング・スロットル・トリム調整位置のコピー
現在のホバリング・スロットル・トリム調整を含めたカーブの作成が可能です。3/3 ページ目の画面で、[COPY] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを長押し (1秒間) すると、カーブが変更されます。コピー後、ホバリング・スロットル・トリムをセンター戻すと、前回のトリム位置となります。

カーブ設定例

次のカーブ画面は、ポイント (POINT) モードを使用し、各コンディション毎に 0% (ロー側)、25%、50% (センター)、75%、100% (ハイ側) の 5 ポイントのデータを入力して作成したカーブです。

*ポイント数を 5 ポイントに減らして作成してあります。実際のカーブ作成時は機体側の指定 (または参考値) のポイント・データを入力してください。
(カーブの作成方法は巻末の説明を参照してください。)

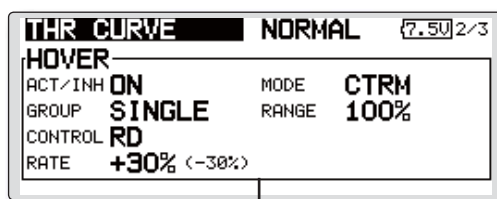
●スロットル・カーブ設定例



ホバリング・スロットル・トリム

スロットル・カーブの設定画面からホバリング・スロットル・トリム設定画面を呼び出すことができます。

ホバリング・スロットル・トリムは、ホバリング・ポイント付近のスロットルのトリム機能です。通常はホバリングのコンディションで使用します。温度、湿度等飛行条件の変化に伴うローター回転数の変化に対し微調整ができます。ローター回転が一番安定するように調整してください。また、ホバリング・ピッチ機能と併用することにより、より細かく微調整が可能になります。



●ホバリング・スロットル・トリムの設定

(設定例)

* NORMAL のコンディション時

ACT/INH	[ON]	MODE	[CTRM]
GROUP	[SINGLE]	RANGE	[70%]
CONTROL	[RD]		
RATE	[+10%]		

設定方法

- ホバリング (NORMAL) のコンディションのみを使用する場合はグループ設定をシングル・モードに切り替えてから設定してください。
- [ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- トリムの選択およびトリム・レートの設定
[CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してボリューム等の選択画面を呼び出し、ホバリング・ピッチ・トリム用のボリュームを選択します。(選択例: RD)
また、トリム・レートの調整は設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
トリムの調整方向を変えたい場合は、レート調整の極性を変えてください。

- トリムの動作モード (CTRM/NORM) の選択
動作モードを変更する場合は [MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモード表示を反転し、EDIT ボタンを押してモードを切り替えます。
CTRM モード: センタートリム動作でセンター付近が最大の変化量のモード。通常、スロットルの場合このモードを使用します。
NORM モード: 通常のトリム (平行移動トリム) の動作となります。
- トリムの調整範囲 (RANGE) の設定
[RANGE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回して調整範囲を設定します。
調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
* 数値を小さくするとセンター付近のみトリムが作用するようになります。

アクセラレーション・ミキシング [ACCELERATION]

加速／減速操作時のピッチおよびスロットルの立ち上がり特性の調整に使用します。

*スロットル・スティックの加速／減速操作時のピッチおよびスロットル動作を、一時的に増加させるアクセラレーション機能が設定可能です。

●モデル・メニューで [ACCELERATION] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

●グループ／シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

●アクセラレーションの設定 (ピッチ側)

●アクセラレーションの設定 (スロットル側)

●動作ポジションのグラフ表示

●現在の操作位置

＜前画面へ戻る＞
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

＜ページの移動＞
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

＜ホーム画面へ戻る＞
S1 ボタンを長押し (1 秒間) します。

＜カーソルの移動＞
EDIT ダイアルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

設定方法

*ピッチ側とスロットル側の設定画面に分かれています。設定方法は同様です。

*加速時 (ピッチ：HIGH 側／スロットル：OPEN 側)、減速時 (ピッチ：LOW 側／スロットル：CLOSE 側) とともにアクセラレーション機能を設定可能。

● [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)

●アクセラレーション量の設定 (RATE)

HIGH 側または LOW 側の [RATE] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してアクセラレーション量を調整します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

●動作後の戻り時間の設定 (DUMPING)

[DUMPING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してディレー量を設定します。

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

●加速時、減速時の動作ポイントの設定 (ACT POS)

加速時または減速時の [ACT POS] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作ポジションを設定します。(動作ポジションはグラフ表示されます。)

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*動作ポイントを超えたときにアクセラレーションが動作します。

アクセラレーション機能の使用例

★アクセラレーションをピッチに使用すると、3D フライトのフリップなど機体のレスポンスを速くしたい場合に有効です。

ハイ・ピッチが、一時的に最大ピッチより多く動き、すぐに最大ピッチの位置まで戻ります。

注意：アクセラレーション機能を使用すると、ピッチ・ストロークが大きくなるため、機体のリンケージが干渉しないようにセッティングしてください。

スロットル・ホールド [THR HOLD]

オート・ローテーション降下時の、エンジン・カット・ポジションを設定できます。また、エンジン・カットの設定とは別にスロットル位置をアイドルリング・ポジションに固定する設定も可能です。

*各ポジションの設定はスイッチで選択できます。練習時に切り替えて使用できます。

- モデル・メニューで [THR HOLD] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

(現在のコンディション)

THR HOLD HOLD [7.50] 1/2

CUT MODE MODE **MANUAL**

ACT/INH **ON** HOLD POS. **17%**

GROUP **SINGLE** SPEED **0**

SWITCH **--**

S1 ボタン

EDIT ダイアル

EDIT ボタン

●使用する S W を選択します。

●エンジン・ストップの位置に合わせます。

●ホールド・ポジションの設定位置

●現在の操作位置

(設定例) HOLD

[ON] [MANUAL]

[SNGL] [17%]

[SG] [0]

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

THR HOLD HOLD [7.50] 2/2

IDLE MODE MODE **MANUAL**

ACT/INH **INH**

GROUP **SINGLE** IDLE OFFS **+0**

SWITCH **--** SPEED **0**

- 使用する S W を選択します。
- アイドルリングの位置に合わせます。

設定方法

*エンジン・カット・モードとアイドル・ポジション・モードの設定画面に分かれています。モード毎に独立して設定が可能です。

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- [SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して、スイッチの選択および ON 方向を設定します。(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照) エンジン・カットまたは練習用機能を切り替えて使用できるようにします。
- 動作モードの選択

動作モードを変更する場合は、[MODE] の設定項目にカーソルを移動して、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回して設定したいモードを表示させ、EDIT ボタンを押してモードを変更します。

[MANUAL]: マニュアル・モード。スイッチ操作のみで機能が作動するモード。

[AUTO]: オート・モード。スロットル・スティック位置に運動して機能が作動するモード。ホールド・スイッチが ON の状態で、スロットル・スティックを予め設定したオート・ポジション以下に操作するとホールド機能が作動します。

操作時の注意事項

警告

- エンジン始動時は、アイドル・アップ・コンディション、スロットル・ホールド・コンディションが [OFF] になっていることを確認してください。

使用例

★ T12FG のスロットル・ホールド機能は、カット (CUT) とアイドル (IDLE) の 2 種類のモードが選択できます。練習の時はアイドル・モードで使用し、大会などでエンジン・ストップさせる時は、カット・モードを使用すると便利です。

注意: ノーマル・コンディションでスロットル・ホールド機能を設定すると、機能が作動し、スロットル・サーボが動かなくなります。必ずホールド・コンディションで設定してください。

●オート・ポジションの設定

動作モードの選択でオート・モードを選択した場合、[AUTO POS.] 設定項目が現れます。

[AUTO POS.] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。オート・ポジションに設定したい位置にスロットル・スティックを操作した状態で、EDIT ボタンを押してオート・ポジションを設定します。

●ホールド・ポジションの調整

[HOLD POS] または [IDLE OFFS] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してホールド・ポジションを調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

[HOLD POS]: エンジン・カット位置の設定。キャブレターが全閉になるように調整します。

[IDLE OFFS]: 練習用にアイドルリングを維持する場合にこの調整を行います。スロットル・カーブのアイドル位置を基準に調整が可能。

●サーボ・スピードの調整

[SPEED] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して調整が可能です。(設定範囲: 0 ~ 27、27 で最大のディレイ量) 調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

スワッシュ・ミキシング [SWASH MIX]

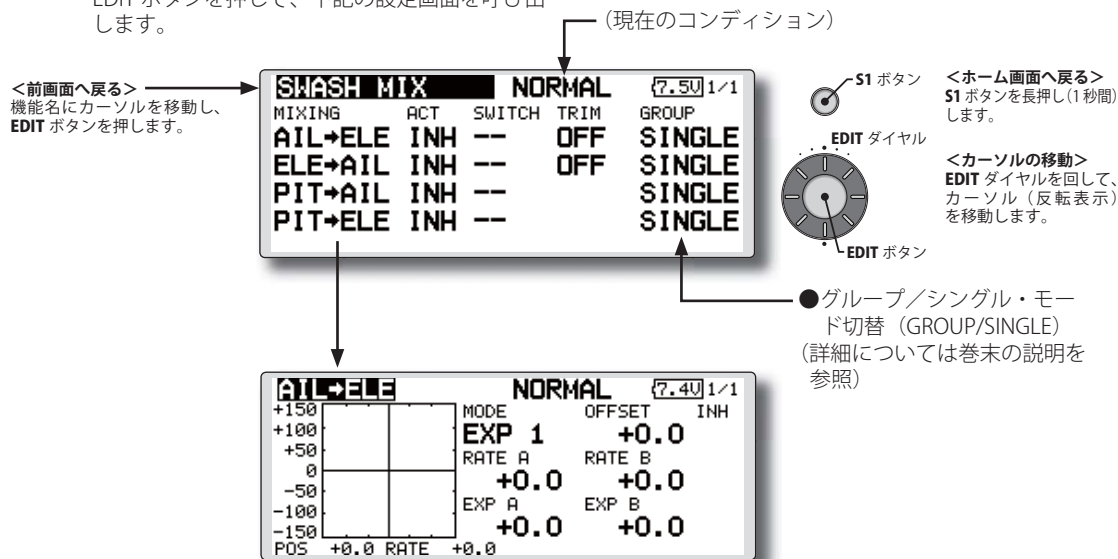
コンディション毎の各操作に対するエルロン（ロール）方向、エレベーター（サイクリックピッチ）方向へのスワッシュ・プレートのクセ取りに使用します。エルロン、エレベーター、ピッチの各操作毎に独立してカーブで調整が可能です。

補正を必要とする方向のミキシングに対応する[MIXING]設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してカーブ設定画面を呼び出して、各操作に対してなめらかに且つ正しい方向に動作するように調整します。

使用例

- ★例えば、ロールのクセ取りに使用する場合。
クセ取りをするコンディションで、AIL → ELE を [ON] に設定します。
右ロールの時に機体が機首を下げる時：RATE B 側を一方に調整した場合、右エルロンを打った時にエレベーターがダウン側に動くようになります。
左ロールの時は、RATE A 側で調整します。

- モデル・メニューで [SWASH MIX] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



- ミキシング・カーブの設定
（カーブ設定方法は巻末の説明を参照）

設定方法

- 使用したいミキシングに対応する [ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。（"ON" 表示に切り替わります。）
- 他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード（GROUP）、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード（SINGLE）を選択してください。
- 補正量はカーブで設定可能
（カーブ設定方法は巻末の説明を参照）
- ON/OFF スイッチを設定可能
スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。（スイッチの選択方法は巻末の説明を参照）
[-] 設定の場合、コンディションを選択するだけで機能が働きます。
- トリム・モードの ON/OFF 設定
トリム・モードを変更する場合は、[TRIM] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して ON/OFF を選択し、EDIT ボタンを押して設定します。
* マスター側のトリムを含めてミキシングする場合は [ON] に、含めない場合は [OFF] に設定します。

スロットル・ミキシング [THROTTLE MIX]

エルロンまたはエレベーター操作時のスイッチ・プレート動作によって生じるエンジン回転の沈み込みを補正することができます。また、ピルエットを行ったときの右回転、左回転のトルクのかかり方を補正できます。

また、速いスティック操作に対するスロットル側の補正量を、一時的に増加させるアクセラレーション機能が設定可能です。

補正を必要とするミキシングに対応する [MIXING] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してカーブ設定画面を呼び出して、沈み込みを補正します。

補正を必要とするミキシングに対応する [MIXING] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してカーブ設定画面を呼び出して、沈み込みを補正します。

- モデル・メニューで [THROTTLE MIX] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。



<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

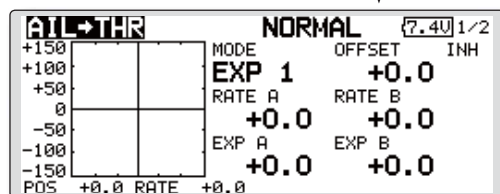
- 動作モードの設定
[CTRM]: THR センター付近で補正量最大
[LIN]: THR の全域で補正がかかるモード

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

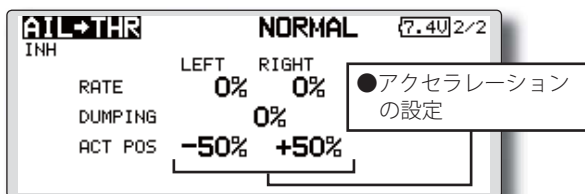
<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)



- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)



- アクセラレーションの設定

設定方法

- 使用したいミキシングに対応する [ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- 他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード (GROUP)、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード (SINGLE) を選択してください。
- 動作モードの設定
動作モードを変更したい場合は、[MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモード表示を反転させ、EDIT ボタンを押してモードを変更します。
[CTRM]: THR センター付近で補正量最大となるモード
[LIN]: THR の全域で補正がかかるモード
- 補正量はカーブで設定可能
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- ON/OFF スイッチを設定可能
スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
[-] 設定の場合、コンディションを選択するだけで機能が働きます。

<アクセラレーション機能の設定>

- アクセラレーション量の設定 (RATE)
設定したい方向の [RATE] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してアクセラレーション量を調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 動作後の戻り時間の設定 (DUMPING)
[DUMPING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してディレー量を設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- アクセラレーションの動作ポイントの設定 (ACT POS)
[ACT POS] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して各方向の動作ポジションを設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*動作ポイントを超えたときにアクセラレーションが動作します。

設定例

- ★ AIL → THR は、エルロンを操作した時にエンジンに負荷がかかりエンジン回転が沈み込むのを補正します。RATE A,B で右エルロン、左エルロン独立でエンジンの吹け方を調整できます。
- ★スロットル・ミキシングを使用すると、エンコン・サーボの動作が大きくなるため、エンド・ポイントのリミッターを掛けておく必要があります。

ピッチ→ニードル・ミキシング [PIT → NEEDLE]

エンジンにニードル・コントロール等の混合気調整がついている場合に使用するミキシングで、ニードル・カーブが設定できます。

また、スロットル・スティックの加速/減速操作時のニードル動作を、一時的に増加させるアクセ

レーション機能が設定可能です。加速、減速操作時のニードル・サーボの立ち上がり特性の調整が可能です。

- ニードル・コン・サーボは CH9 に接続する。(初期値)
- コントロールは LS に設定されています。(初期値)

- モデル・メニューで [PIT → NEEDLE] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

- 通常は直線 [POINT] タイプを使用します。

(現在のコンディション) →

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

PIT→NEEDLE		NORMAL	7.40 1/2
+150	+100	MODE	OFFSET INH
+50	0	EXP 1	+0.0
-50	-100	RATE A	RATE B
-150	-150	+0.0	+0.0
POS	-0.5	EXP A	EXP B
	RATE	+0.0	+0.0

S1 ボタン

EDIT ダイヤル

EDIT ボタン

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

- ミキシング・カーブの設定
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

- グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)
(詳細については巻末の説明を参照)

PIT→NEEDLE		NORMAL	7.50 2/2
ACT/INH	INH	RATE	LOW HIGH
			0% 0%
GROUP	SNGL	DUMPING	0%
SWITCH	--	ACT POS	25% 75%

- アクセラレーションの設定

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。(“ON” 表示に切り替わります。)
- 他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード (GROUP)、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード (SINGLE) を選択してください。
- ニードル・カーブを設定します。
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)
- ON/OFF スイッチを設定可能
スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し EDIT ボタンを押して、選択画面を呼び出してスイッチの選択および ON 方向を設定します。(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)
[-] 設定の場合、コンディションを選択するだけで機能が働きます。

<アクセラレーション機能の設定>

- アクセラレーション量の設定 (RATE)
HIGH 側または LOW 側の [RATE] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してアクセラレーション量を調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 動作後の戻り時間の設定 (DUMPING)
[DUMPING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してディレー量を設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 加速時、減速時の動作ポイントの設定 (ACT POS)
加速時または減速時の [ACT POS] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作ポジションを設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*動作ポイントを超えたときにアクセラレーションが動作します。

ピッチ→ラダー・ミキシング (リボリューション・ミキシング) [PIT → RUD]

ピッチ操作時のメイン・ローターのピッチ及び回転数の変化に応じて発生する反動トルクを抑えたい場合に使用します。ラダー方向の機首振りが出ないように調整をとります。

また、スロットル・スティックの加速/減速操作時の補正量を、一時的に増加させるアクセラレー

ション機能が設定可能です。加速/減速操作時のミキシング量の調整が可能です。

*ただし、GYシリーズ等の高性能ジャイロを使用する場合、ジャイロ側の機能により補正されるため、このミキシングは使用しません。ジャイロの動作モードが AVCS モード時に使用するとニュートラルずれの原因となります。

- モデル・メニューで [PIT → RUD] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

- 通常は直線 [POINT] タイプを使用します。

<前画面へ戻る>
機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

●ミキシング・カーブの設定 (カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

(現在のコンディション)

●アクセラレーションの設定

<ページの移動>
S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る>
S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動>
EDIT ダイアルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

設定方法

- [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して、[ACT] の点滅表示としてから、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。("ON" 表示に切り替わります。)
- 他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード (GROUP)、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード (SINGLE) を選択してください。
- ノードル・カーブを設定します。
(カーブ設定方法は巻末の説明を参照)

<ノーマル・コンディションのミキシング・カーブ>

ミキシング・カーブのレートは最初は少な目の値からはじめます。

動作方向 (極性) は右回転のローターの場合、ピッチがプラス側に操作された場合、右方向にミキシングするように設定します。最初にホバリング飛行でトリムをとり、ニュートラルを出しておきます。

1. スロー、ホバリング間の調整

離陸からホバリング、ホバリングから着陸を自分のリズムに合った一定レートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないように調整します。

2. スロットル・ハイ側 (ホバリングから上昇、降下しホバリングまで) の調整

ホバリングから上昇、降下を、自分のリズムに合った一定レートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないように調整します。

<アイドル・アップ・コンディションのミキシング・カーブ>

高速飛行時ラダー方向が直進できるようにミキシング量を設定します。使用するコンディション毎に調整します。

<アクセラレーション機能の設定>

- アクセラレーション量の設定 (RATE)
HIGH 側または LOW 側の [RATE] 設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回してアクセラレーション量を調整します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 動作後の戻り時間の設定 (DUMPING)
[DUMPING] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左右に回してディレイ量を設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- 加速時、減速時の動作ポイントの設定 (ACT POS)
加速時または減速時の [ACT POS] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して動作ポジションを設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
*動作ポイントを超えたときにアクセラレーションが動作します。

ジャイロ・ミキシング [GYRO]

Futaba GY シリーズ・ジャイロを使用する場合のジャイロ専用ミキシングです。コンディション毎に感度および動作モード（ノーマル・モード / GY モード）を設定できます。

*感度設定チャンネルは初期設定で 3ch 目に割り当てられています。

注意：リンケージ・メニュー [FUNCTION] 機能の [GYRO] の設定の [CONTROL]、[TRIM] の設定項目はともに必ず [-] のままにしておいてください。

●モデル・メニューで [GYRO] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

(現在のコンディション)

●ジャイロの感度調整

(レート表示)

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

●微調整ボリュームの設定

●[AVCS] / [NORM] モード選択

●使用するジャイロのタイプを選択 (GY ジャイロを使用の場合は [GY] を選択)

<前画面へ戻る> 機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

<ページの移動> S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る> S1 ボタンを長押し (1 秒間) します。

<カーソルの移動> EDIT ダイアルを回して、カーソル (反転表示) を移動します。

S1 ボタン

EDIT ダイアル

EDIT ボタン

設定方法

*コンディション毎に最大 3 つ迄のレートを切り替え可能。
* S1 ボタンを押して設定したいレートの画面を表示させてから設定します。(RATE1/RATE2/RATE3)

● [ACT/INH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。

* RATE 1 画面は初期設定で ON。

● Futaba GY ジャイロを使用する場合は [TYPE] (ジャイロ・タイプ) の設定項目が [GY] に設定されていることを確認します。

* [GY] タイプを選択すると感度設定値が AVCS モードおよび NORM モードとも直読となります。

* その他のジャイロを使用する場合は [NORM] に変更します。モードを変更したい場合は [TYPE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左または右に回してモード表示を変更し、EDIT ボタンを押してモードを変更します。

● 感度切替スイッチを設定する場合は、[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定の場合、コンディションを選択するだけで機能が働きます。スイッチ設定が重なった場合、優先順位は RATE1、RATE2、RATE3 の順で、RATE1 が最優先します。)

(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

● 動作モードの変更 / 感度の設定

[MODE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤル

を回してモード表示を切り替えて、EDIT ボタンを押してモードを変更します。

[RATE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して感度を設定します。調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

●他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード (GRP)、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード (SNGL) を選択してください。

●ジャイロ感度の微調整ボリュームを設定する場合は、"FINE TUNING" の項目の [CONTROL] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出して、ボリュームの選択を行います。

選択後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

調整量 (RATE) を設定できます。(調整範囲: 0 ~ 20%)

設定例

★通常は、AVCS モードおよびノーマルモードのいずれを使用する場合でも、感度大 (RATE1)、感度小 (RATE2) を設定しておく と便利。

ガバナー・ミキシング [GOVERNOR]

Futaba GV-1 (ガバナー) を使用している場合のガバナー専用ミキシングです。コンディション毎に最大3つのレート (回転数) を切り替えることができます。(RATE1/RATE2/RATE3)

*ガバナーの回転数設定チャンネルをCH7 (初期設定) に接続して使用します。

*独立したガバナー ON/OFF スイッチを使用する場合は、ガバナーのAUX([ON]/[OFF]) コネクタをCH8 (初期設定) に接続し、リンケージ・メニューのファンクション設定機能で、CH8 (GOVERNOR2) の[CONTROL] 設定項目でスイッチを選択します。

*フューエル・ミクスチャー機能を使用する場合、ミクスチャー・サーボはガバナー側からの制御となります。ミクスチャー・トリム機能を使用する場合および送信機からガバナーへミクスチャー・カーブのデータを転送する場合は、ガバナーのAUX(m.trm) コネクタをCH8 (初期設定) に接続し、ガバナー側の設定を行う必要があります。ガバナーの取扱説明書を参照してください。

注意：リンケージ・メニュー [FUNCTION] 機能の [GOVERNOR] の [CONTROL]、[TRIM] の設定項目はともに必ず [-] のままにしておいてください。また、[GOVERNOR2] は独立した ON/OFF スイッチを使用しない場合 [-] に設定。

- モデル・メニューで [GOVERNOR] を選択し、EDIT ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

<前画面へ戻る> 機能名にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

●グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE) (詳細については巻末の説明を参照)

●回転数の設定

●回転数の単位の切替 (%表示および回転数 rpm 表示)

●微調整ボリュームの設定

<ページの移動> S1 ボタンを押して、ページを移動します。

<ホーム画面へ戻る> S1 ボタンを長押し(1秒間)します。

<カーソルの移動> EDIT ダイヤルを回して、カーソル(反転表示)を移動します。

設定方法

(機能設定)

*コンディション毎に最大3つ迄のレート (回転数) を切り替え可能。

*S1 ボタンを押して設定したいレートの画面を表示させてから設定します。(RATE1/RATE2/RATE3)

●回転数を直読表示にしたい場合は、[UNIT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [rpm] を表示させた状態で、EDIT ボタンを押して表示モードを変更します。

●[ACT] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを左に回して [ACT] の点滅表示とし、EDIT ボタンを押して機能を有効にします。

●他のコンディションにも同じ内容を設定したい場合はグループ・モード (GRP)、選択されているコンディションのみを設定したい場合はシングル・モード (SNGL) を選択してください。

●回転数の設定

[RATE] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。ダイヤルを回して回転数を設定します。

また、回転数設定の代わりに [OFF] を選択することに

より、ON/OFF スイッチを別に設けることなくガバナーを ON/OFF することができます。

●スイッチの設定により、コンディション毎の回転数切替以外に、コンディション内での切替が可能となります。

[SWITCH] の設定項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して選択画面を呼び出してから、スイッチの選択および ON 方向を設定します。([-] 設定の場合、コンディションを選択するだけで機能が働きます。スイッチ設定が重なった場合、優先順位は RATE1、RATE2、RATE3 の順で、RATE1 が最優先します。)

(スイッチの選択方法は巻末の説明を参照)

●回転数の微調整ボリュームを設定可能。ボリュームの選択および調整幅を設定できます。

<ガバナー側の初期設定>

●ガバナーを最初に使う場合や、スロットル・リンケージを変更したときは、ガバナー側の初期セッティング手順を必ず実行してください。

(ガバナーの取扱説明書を参照)

*送信機側の設定とガバナー側の設定が合っていないと、正常に動作できません。

規格

送信機 T12FG

(飛行機/ヘリ/グライダー用、シンセサイザー方式送信機)

操作方式：

2スティック、12+2チャンネルPCM-G3(2048)方式

送信周波数：40MHz帯または72MHz帯

変調方式：PCM-G3/PCM1024/PPM切替

使用電源：7.2Vニッケル水素電池HT6F1700B

注意：このT12FG送信機にはMZ-FM高周波モジュールを使用してください。その他のモジュールは使用できません。

受信機 R5114DPS

(シンセサイザー方式デュアルコンバージョン受信機)

受信周波数：40MHz帯または72MHz帯

中間周波数：(第一)10.7MHz、(第二)455kHz

使用電源：4.8Vニッカド電池(サーボと共通)

サイズ：37.7x52.3x16mm

重量：32.5g

サーボ S9252

(コアレス/デジタルサーボ)

制御方式：パルス巾制御

使用電源：4.8V(受信機と共通)

出力トルク：6.6kg・cm(4.8V時)

動作スピード：0.14sec/60°(4.8V時)

サイズ：40x20x36.6mm

重量：50g

サーボ S9255

(コアレス/デジタルサーボ)

制御方式：パルス巾制御

使用電源：4.8V(受信機と共通)

出力トルク：9kg・cm(4.8V時)

動作スピード：0.16sec/60°(4.8V時)

サイズ：40x20x36.6mm

重量：55g

サーボ S3151

(スタンダード/デジタルサーボ)

制御方式：パルス巾制御

使用電源：4.8V(受信機と共通)

出力トルク：3.1kg・cm(4.8V時)

動作スピード：0.21sec/60°(4.8V時)

サイズ：40.5x20x36.1mm

重量：42g

⚠ 注意



送信機、受信機、サーボ、FETアンプ、電池、その他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。

■ Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、弊社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

オプションパーツ（別売り）

別売りのオプション・パーツとしては、次のものが用意されています。詳しくは弊社カタログをご参照ください。

●電池 & 充電器

（品名）

電池：

送信機用ニッケル水素電池 HT6F1700B（7.2V）、受信機用ニッカド電池 NR4F1500（4.8V）

専用充電器：

HBC-2A(4) 充電器

●トレーナーコード

【対応機種およびトレーナー・コードについて】

T12FG 送信機をトレーナー機能の先生側で使用する場合、生徒側の機種により使用するトレーナー・コードが異なります。下表をご参照ください。

先生側	生徒側	対応トレーナー・コード
T12FG	T4EX, T6EX, T7C, T9C	T12FG 専用トレーナー・コード
	T12Z, T14MZ, FX-40	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇔ FF9)
	T4V	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇔ DIN)
	T6X, T7U, T8U, T9Z は非対応	
T12FG 以外	T12FG	FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇔ FF9) または FF9 用トレーナー・コード (FF9 ⇔ DIN)

●DSC コード

（品名）DSC コード（T12Z 他用）

●延長コード

（品名）延長コード 100mm ～ 500mm

* デジタルサーボをご使用の場合は大電流タイプをご使用ください。

●充電口付スイッチ

（品名）HSW-J（大電流タイプ）または SSW-J

* S9252、S9255 をご使用の場合は大電流タイプを使用してください。

●フックバンド

（品名）フックバンド

●送信機用アンテナ

（品名）T12FG 送信機用アンテナ

●スティックレバーヘッド

（品名）レバーヘッド

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

<依頼先>

お近くの Futaba ラジコンサービスセンター
または工場ラジコンサービスまで修理依頼
してください。

<修理の時に必要な情報>

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて
修理品と一緒に送りください。

- 症状（トラブル時の状況も含めて）
- 使用プロポ（送信機、受信機、サーボの
型番）
- 搭載機体（機体名、搭載状況）
- お送りいただいた修理品の型番及び個数
- ご住所、お名前、電話番号

<保証内容>

セットに添付の保証書をご覧ください。
保証書の範囲内で修理をお受けになる場合
は、修理品と一緒に保証書を送付してくだ
さい。

本製品に関するご質問、ご相談は最寄りの
Futaba ラジコンサービスセンターまで。

<ラジコンカスタマーサービスセンター>

修理・アフターサービス、プロポに関するお問い合わせは下記の弊社ラジコン
カスタマーサービスセンターへどうぞ。

<受付時間／ 9:00～12:00・13:00～17:00、土・日・祝日・弊社休日を除く>

●双葉電子工業（株）無線機器ラジコンカスタマーサービス

〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080

TEL.(0475)-32-4395

●双葉電子工業（株）関西地区ラジコンカスタマーサービスセンター

〒577-0016 大阪府東大阪市長田西 3-4-27

TEL.(06)-6746-7163

機能設定画面でよく使われる操作

ここでは機能設定画面でよく使われる操作について説明します。各機能の設定時に参照してください。

フライト・コンディションに関する操作

グループ/シングル・モード切替 (GROUP/SINGLE)

フライト・コンディションが複数設定されている場合、設定内容を他のコンディションに連動させる(グループ・モード)か、または独立させる(シングル・モード)かを選択できます。各設定画面上の [GROUP] の項目でモードを変更できます。

[グループ/シングル・モードの切替]



(図は一例を示します。)

1. ダイヤルで、設定画面上の [GROUP] の項目にカーソル (反転表示) を移動します。
2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。
3. ダイヤルを左に回して [SINGLE] の点滅表示に切り替えます。
* この時点ではまだモードは変更されません。
* [SINGLE] から [GROUP] に変更するときはダイヤルを右に回します。
4. EDIT ボタンを押してモードを変更します。

●グループ・モード (GROUP)

すべてのコンディションに同じ内容を設定したい場合にこのモードを選択します。

●シングル・モード (SINGLE)

コンディション毎に設定したい場合にこのモードを選択します。

コンディション・ディレイの設定

コンディション・セレクト機能 [COND. SELECT] のコンディション・ディレイ機能を使用することにより、コンディション切替時のサーボ位置の急激な変化やチャンネル間で動作時間にバラツキがある場合等に発生する機体の不要な挙動を抑えることができます。

切替先のコンディションでディレイ機能が設定されている場合に、関連するファンクションは、その設定量に対応する時間をかけてなめらかに変化します。

[設定方法]



* コンディション・ディレイ設定画面で、設定したいチャンネルの [DELAY] の項目にカーソル (点滅表示) を移動して下記の設定を行います。

1. 設定したいコンディションに切り替えます。
2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。
3. ダイヤルを回してディレイ量を設定します。

初期値: 0

調整範囲: 0 ~ 27 (ディレイ量大)

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 調整時、EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

微調整ボリュームに関する操作

●ボリュームの選択

●レート調整



●動作モードの選択

- * 機能によっては動作モードの選択はできません。
- * 動作モードの意味は右の説明をお読みください。

[微調整ボリュームの動作モード]

[LIN.]: ボリュームのセンターでミキシング微調整量 0%。ボリュームを左右に回すとミキシング量が増減します。

[ATL+]: ボリュームの左端または右端でミキシング微調整量 0%。ボリュームを回すとミキシング量が増えます。

[ATL-]: [ATL+] の左右反転動作。

[SYM.]: ボリューム、ニュートラルで微調整量 0%。左右に回すとミキシング量が増えます。

微調整ボリュームの設定

ミキシング機能によっては、この微調整ボリュームの設定が可能です。予め設定したツマミ等でミキシング量の微調整を行うことが可能となります。

* 微調整ボリュームの動作モードおよびレートを設定できます。(動作モードは前ページの説明を参照)

【設定方法】

(ボリュームの選択)

1. ダイヤルで [CTRL] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押します。

* ツマミ等の選択画面が表示されます。

* 点滅表示は現在設定されているツマミ等を示します。

2. ダイヤルを左または右に回して、設定したいツマミ等にカーソルを移動します。

EDIT ボタンを押して変更します。

(動作モードの変更)

1. ダイヤルで [MODE] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。

2. ダイヤルを左または右に回して、設定したい動作モード ("LIN.", "ATL+", "ATL-" または "SYM.") に切り替えます。

* この時点ではまだモードは変更されません。

EDIT ボタンを押してモードを変更します。

(レートの調整)

1. ダイヤルで [RATE] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。

2. ダイヤルを左右に回してレートを調整します。

初期値：0%

調整範囲：-100% ~ +100%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

* 調整時、EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

サーボ・スピードに関する操作

サーボ・スピードの設定

各ファンクション操作時 (フライトコンディションの切替時を含む) のサーボ動作スピードを調整できます。設定したスピード量に対応した一定のスピードで自動的に動作します。操作時 (IN 側) とリターン時 (OUT 側) のスピードを個別に設定できます。

設定するファンクションに応じて、動作モードを切替えて使用します。

"SYM." モード：エルロン等のニュートラルを中心に操作するようなファンクションの場合に使用するモード。

"LIN." モード：スロットルやスイッチチャンネル等のように操作位置を保持するファンクションの場合に使用するモード。

【設定方法】



(図は一例を示します。)

(動作モードの変更)

1. ダイヤルで [MODE] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。

2. ダイヤルを左または右に回して、設定するファンクションに対応する動作モード ("SYM." または "LIN.") に切り替えます。

* この時点ではまだモードは変更されません。

EDIT ボタンを押してモードを変更します。

(スピードの調整)

1. 設定したい方向 ([IN] または [OUT] 側) の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

* 反転表示から枠付き表示に切り替わります。

2. ダイヤルを左右に回してスピード量を設定します。

初期値：0

調整範囲：0 ~ 27 (ディレイ量大)

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

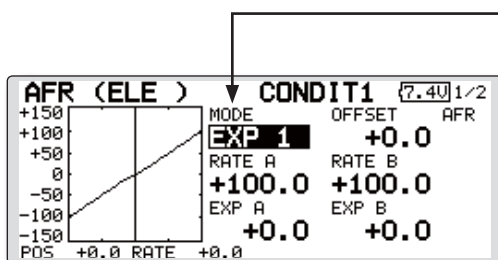
* 調整時、EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

カーブ設定操作

AFR 機能や各ミキシング機能で使用されるカーブの設定手順について説明します。

カーブ・タイプの選択

3種類のカーブ (EXP1/EXP2/POINT) の中から選択が可能です。



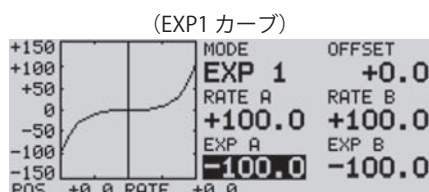
カーブ・タイプの選択

1. ダイヤルで [MODE] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
 2. ダイヤルを左または右に回して使用したいカーブ・タイプを表示させます。
*カーブ・タイプが点滅表示されます。
 3. EDIT ボタンを押すとカーブ・タイプが変更されます。(変更を中止する場合は、ダイヤルを回すか、S1 ボタンを押してください。)
- [EXP1]: EXP1 カーブ
[EXP2]: EXP2 カーブ
[POINT]: ポイント・カーブ
- *ポイント・カーブは、機能により最大のポイント数が異なります。(17ポイントまたは11ポイント)

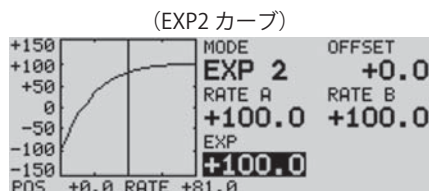
カーブ・タイプ別の設定方法

上記の方法でカーブタイプを選択すると、画面にカーブ・タイプに対応する調整項目が現れます。それぞれ、下記の方法でカーブを調整してください。

● EXP1/EXP2 カーブの調整



EXP1 カーブはエルロン、エレベーター、ラダー等の初動の動きをスムーズにするために使用すると効果があります。



EXP2 カーブはエンジンコントロール時の立ち上がり等に使うと効果があります。

*カーブの左右のレート ([RATE A]、[RATE B]) および EXP カーブ・レート ([EXP A]、[EXP B]) を個別に調整できます。(EXP2 の場合は [EXP])

*また、カーブを上下方向に平行移動 ([OFFSET]) することが可能。

[各レートの設定]

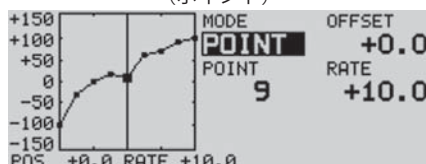
1. ダイヤルで [RATE A]、[RATE B]、[EXP A]、または [EXP B] の設定項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
 2. ダイヤルを左または右に回してレートを設定します。
初期値: +100.0% (レート)、+0.0% (EXP レート)
- *初期値は機能により異なります。
調整範囲: -200.0% ~ +200.0% (レート)、
-100.0% ~ +100.0% (EXP レート)
- 調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- *調整時、EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

[カーブを上下方向に平行移動する場合]

1. ダイヤルで [OFFSET] の設定項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
 2. ダイヤルを左または右に回してカーブを上下方向に移動させます。
初期値: +0.0%
- 調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。
- *EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

●ポイント (POINT) カーブの調整

(ポイント)



最大 17 ポイント (または最大 11 ポイント) 迄の折線カーブが使用できます。

*ただし、17 ポイント・カーブの場合、初期設定で 9 ポイントが表示されています。

*設定ポイントの増減が可能。

[各ポイントのレート調整方法]

1. ダイヤルで [POINT] または [RATE] の項目にカーソル (反転表示) を移動し、EDIT ボタンを押すとカーブ設定モードに切り替わります。

*選択した項目が反転表示から四角枠表示に切り替わります。

*このカーブ設定モード中は EDIT ボタンを押して、[POINT] (ポイントの移動) と [RATE] (レート調整) の項目を交互に切り替えて設定します。

2. EDIT ボタンを押して、[POINT] の項目を選択します。

3. ダイヤルを左または右に回して、レートを設定したいポイントを選択します。

*カーブ上で移動する ■ 表示が選択ポイントです。ただし、□ (白抜き) 表示は現在削除されているポイントを選択していることを示します。

4. EDIT ボタンを押して、[RATE] の項目にカーソルを移動します。

5. ダイヤルを左または右に回して、選択ポイントのレートを設定します。

(上記 2～5 項を繰り返してカーブを設定します。)

6. S1 ボタンを押すとカーブ設定モードが終了します。

[ポイントの追加/削除方法]

*上記のカーブ設定モードの状態で行います。

1. EDIT ボタンを押して [POINT] の項目を選択します。

2. ダイヤルを回して追加 (または削除) したいポイントに移動します。

3. EDIT ボタンを 1 秒間押し、その位置にポイントが追加 (または削除) されます。

[カーブを上下方向に平行移動する場合]

1. ダイヤルを回して、[OFFSET] の設定項目にカーソル (反転表示) を移動します。

2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。

3. ダイヤルを左または右に回してカーブを上下方向に移動します。

初期値: +0.0%

調整後、EDIT ボタンを押してカーソル移動モードに切り替えます。

*調整時、EDIT ボタンの長押し (1 秒間) で初期値にリセットされます。

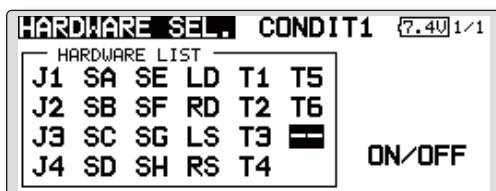
スイッチ選択方法

T12FG に搭載されている様々な機能でスイッチ選択が可能です。スイッチ（スティック、トリム・レバー、ツマミ類をスイッチとして使用する場合も含む）の設定方法は全ての機能で共通です。

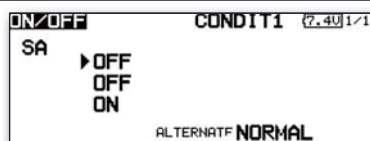
スイッチの選択

ミキシング機能等でスイッチを選択する場合、下記の選択画面が呼び出されます。

(スイッチ選択画面例)



スイッチ SA ~ SH を選択した場合



*各ポジションの ON/OFF 設定状態が表示されます。
(ON/OFF ポジションの設定)

1. ON/OFF 設定を変更したいポジションにカーソル（反転表示）を移動します。
2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
3. ダイアルを左または右に回して ON/OFF 表示を切り替えます。

* ON/OFF 表示が点滅表示となります。

4. EDIT ボタンを押すと ON/OFF 設定が変更されます。
(中止する場合はダイアルを回すか、S1 ボタンを押します。)

*他のポジションも同様に設定します。

*オルタネート・モードの設定は下記を参照。

5. 画面上部の [ON/OFF] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、元の画面に戻ります。

(スイッチの選択方法)

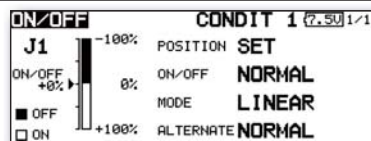
1. スイッチ選択画面の H/W リスト中の選択したいスイッチにカーソル（反転表示）を移動し、EDIT ボタンを押します。選択したスイッチが点滅表示となります。

*前の画面に戻る場合は、画面上段の [HARDWARE SEL.] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

2. リストの右にある [ON/OFF] の項目にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押すと、選択したスイッチの種類により、それぞれ下記の ON/OFF ポジションの設定画面が現れます。

*スイッチを選択した場合、ON/OFF ポジションの確認および設定を行ってください。

スティック、トリムレバー、ツマミ類を選択した場合



*スティック等をスイッチとして使用する場合、下記のモードを選択可能です。

[LINEAR]：設定ポイントを基準に左右（上下）に ON/OFF を設定するモード。

[SYMMETRY]：ニュートラル位置を基準として、左右（上下）が対称に動作するモード。

(モードの選択)

1. [MODE] の項目にカーソル（反転表示）を移動します。
2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
3. ダイアルを回して、変更したいモードに表示を切り替えます。

*点滅表示となります。

4. EDIT ボタンを押してモードを変更します。

*オルタネート・モードの設定は下記を参照。

* ON/OFF ポイントの設定は次ページの方法で設定してください。

*前の画面に戻る場合は、画面上段の [ON/OFF] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押します。

(オルタネート・モードの設定)

*機能により、スイッチの動作モードの変更が可能です。

[NORMAL]：通常のスイッチ動作。

[ALTERNATE]：スイッチを ON 側に操作する度に ON/OFF が交互に切り替わる動作。

1. [ALTERNATE] の項目にカーソルを移動します。
2. EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
3. ダイアルを回してモード表示を切り替えます。

*表示が点滅表示となります。

4. EDIT ボタンを押すとモードが変更されます。

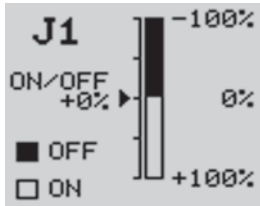
(中止する場合はダイアルを回すか、S1 ボタンを押します。)

5. 画面上部の [ON/OFF] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、元の画面に戻ります。

動作モードについて

スイッチとしてスティック等を選択した場合の動作モードは下記のとおりです。

リニア [LINEAR] モード



設定ポイントを基準に左右 (上下) に ON/OFF を設定するモードです。

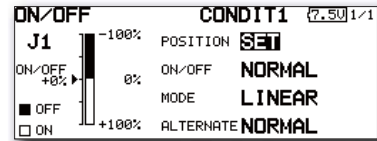
対称 [SYMMETRY] モード



ニュートラル位置を基準として、左右 (上下) が対称に動作するモードです。例えば、エルロンスティックで DR1 を切り替えたい時、スティックを左右に振ったときに、左右同じ位置で DR1 を ON させることができます。

ON/OFF ポイントを移動する場合

ON/OFF の位置を移動することができます。自由な位置で ON/OFF が可能となります。



* バーグラフのクロの範囲：OFF の範囲

* バーグラフのシロの範囲：ON の範囲

* スティック等の操作位置が矢印で表示されます。

[設定方法]

- 最初に、[POSITION] の項目にカーソル (反転表示) を移動します。
- スイッチに設定したスティック等を変更したいポイントに操作した状態で、EDIT ボタンを押すとポイントが移動します。
* バーグラフの ON/OFF の範囲が変更されます。
- 画面上部の [ON/OFF] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、元の画面に戻ります。

ロジック・スイッチ (コンディション切替のみ)

コンディションの切替スイッチには 2 個のスイッチの組合せで ON/OFF できるロジック・スイッチを使用可能です。

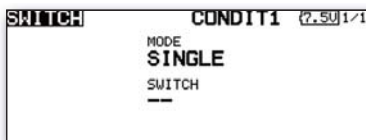
* 組合せロジックは、AND、OR、EOR が使えます。

AND：2 個のスイッチが両方オンになった時にフライトコンディションが切り替わります。

OR：どちらか片方がオンのときにフライトコンディションが切り替わります。

EOR：2 つのスイッチ位置が逆のときに、フライトコンディションが切り替わります。

(スイッチ・モード変更画面)

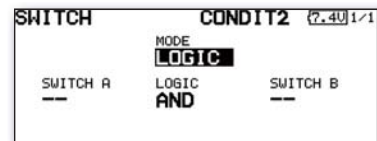


(ロジック・スイッチ・モードの選択)

- [MODE] の項目にカーソルを移動します。
- EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
- ダイヤルを左に回して [LOGIC] 表示に切り替えます。
* 点滅表示となります。
- EDIT ボタンを押すとロジック・スイッチのモードに変更されます。

* ロジック・スイッチ・モードに切り替えると、スイッチ設定が初期化されます。

(ロジック・スイッチ設定画面)



(スイッチの選択)

[SWITCH A]、[SWITCH B] の項目で、ロジック・スイッチに使用する 2 つのスイッチを選択します。

(選択方法は前ページのスイッチ選択方法を参照)

(組合せロジックの選択)

- [LOGIC] の項目にカーソルを移動します。
- EDIT ボタンを押してデータ入力モードに切り替えます。
- ダイヤルを回して、使用したい組合せロジックに切り替えます。
* 点滅表示となります。
- EDIT ボタンを押すとロジックが変更されます。
- 画面上部の [SWITCH] にカーソルを移動し、EDIT ボタンを押して、元の画面に戻ります。

電源 ON 時のワーニング表示／エラー表示について

T12FG 送信機の電源を入れたとき、ミキシング機能の設定状態や何らかの異常がある場合に LCD 画面上にワーニング表示またはエラー表示が出る場合があります。それぞれの表示内容により対処方法が異なります。下記の内容に従って安全を確認してから以降の操作を行ってください。

●ミキシング・ワーニング

"NON-DEFAULT CND." (警告音)

状況：ディフォルト（ノーマル）のフライト・コンディション以外のコンディションが設定されている場合で、スイッチ位置がディフォルトのコンディション以外の位置にある場合。

解除操作：スイッチをディフォルトのコンディションに切り替えるとワーニング表示が消えます。

* スイッチを切り替えず EDIT ボタンを押すと直接ホーム画面に移動します。（この場合は安全のため電波は発射されません。）

"THROTTLE CUT" (警告音) <飛行機・ヘリコプター>

"IDLE DOWN" (警告音) <飛行機・ヘリコプター>

"AIRBRAKE" (警告音) <飛行機>

"SNAP ROLL" (警告音) <飛行機>

"THR HOLD" (警告音) <ヘリコプター>

"TRIM MIX 1/2" (警告音) <グライダー、グライダー>

"MOTOR" (警告音) <飛行機、グライダー>

状況：それぞれ、スロットル・カット機能、アイドル・ダウン機能、エアー・ブレーキ機能、スナップ・ロール機能、スロットル・ホールド機能、トリム・ミックス機能、モーター機能のスイッチが ON の位置にある場合。（オート・モード機能がスタンバイ状態の場合も含む）

解除操作：スイッチを OFF 側に切り替えるとワーニング表示が消えます。

* スイッチを OFF にせず EDIT ボタンを押すと直接ホーム画面に移動します。（この場合は安全のため電波は発射されません。）

●トレーナー・メッセージ

"TRAINER STUDENT MODE"

状況：トレーナー機能の設定で生徒側に設定されている場合。

解除操作：EDIT ボタンを押すとホーム画面に移動します。

●DSC メッセージ

"DSC CABLE IS CONNECTED"

状況：DSC コネクタを送信機に接続すると上記メッセージが約 5 秒間表示された後、ホーム画面に移動します。

●RF モジュール・メッセージ

"MISMATCHED FREQUENCY BAND."

状況：設定とは異なる高周波モジュールが挿入されている場合。（40MHz 帯または 72MHz 帯）

解除操作：電源スイッチを OFF とし、設定された周波数帯に合った高周波モジュールに交換する。

* 電源スイッチを OFF とせず、EDIT ボタンを押すとホーム画面に移動します。

"RF MODULE IS NOT ATTACHED."

状況：高周波モジュールが挿入されていない場合。

解除操作：電源スイッチを OFF とし、対応する高周波モジュールを挿入する。

* 電源スイッチを OFF とせず、EDIT ボタンを押すとホーム画面に移動します。

"INCORRECT RF MODULE."

状況：海外向け等の対応しない高周波モジュールが挿入されている場合。

解除操作：電源スイッチを OFF とし、対応する高周波モジュールに交換する。

* 電源スイッチを OFF とせず、EDIT ボタンを押すとホーム画面に移動します。

●モデル・セレクト・エラー

"MODEL SELECT ERROR! THE MODEL DATA"

"IS NOT READ FROM THE MEMORY CARD."

"IT IS LOADED FROM INTERNAL MEMORY."

(警告音)

状況：モデル・データが呼び出されていた SD カードを抜いていた場合。約 5 秒間上記メッセージが表示された後、本体側のモデル・データが自動的に呼び出される。

●バック・アップ・エラー

"THE BACKUP ERROR OCCURRED."

"DATA IS INITIALIZED."

"PLEASE TURN OFF THE"

"POWER SWITCH."

(警告音)

状況：電源 OFF 時の内部処理が終了する前に電池を抜いたり、また何らかの理由で、設定データが破損してしまっている場合。約 5 秒間上記メッセージが表示された後、使用中のモデルデータは強制的に初期化されます。

処置：使用中のモデル・データが破損したり、補正データ等のシステム・データが破損している場合があります。そのまま使用せず、弊社ラジコン・サービス・センター宛、点検依頼してください。

●無操作時アラーム

"PLEASE TURN OFF POWER SWITCH"

状況：スティック、ツマミ、トグル・スイッチまたはデジタル・トリム (T1～T6) が 30 分間全く操作されなかった場合、強制的に電波は停止され、アラーム音とともに、画面上記メッセージが表示されます。

解除操作：電源スイッチを一旦 OFF とします。

12FG

PCMG3 2048 Resolution / PCM1024 / PPM Selectable

PCM G3
2048 RESOLUTION



Futaba®